【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語	現代の国語	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	現国・703	現代の国語
副教材等	–	–	–

学習目標

国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「現代の国語」では以下の観点を学習目標とし、文章の論理的読解手法や、表現方法、分析方法などの現代に必要な知識や考え方を指導する。
(1)　実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①読解編1　p18～23「水の東西」/Column　p24～25「評論の型」/探究編1　p152～155「本を紹介する」/探究編2　p160～165「手順を整理して正確に伝える」 ②読解編2　p33～39「言葉は世界を切り分ける」/Column　p166～169「探究学習へのアプローチ」/探究編3　p170～177「発想を広げて課題を見つける」/探究編4　p178～185「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」	④読解編4　p76～82「真の自立とは」/Column　p92～94「文章を読み比べるために」/探究編7　p205～209「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」 ⑤読解編5　p103～111「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」/探究編8　p210～215「情報を整理しながら話し合う」/探究編9　p216～223「論証してレポートを書く」

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	読解編1　p18～23「水の東西」 Column　p24～25「評論の型」 探究編1　p152～155「本を紹介する」 探究編2　p160～165「手順を整理して正確に伝える」	【知識・技能】 ①論理的な文章の読解を通じて、主題を正しく把握する方法を理解している ②ブックトーク・ビブリオバトルを通じて相手に伝わる表現手法について理解している 【思考・判断・表現】 ①評論文の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる ②手順書の書き方を通じて表形式やフローチャート形式などの実用的表現を理解し適切に使用することができる	1	1 2	○	
②	読解編2　p33～39「言葉は世界を切り分ける」 Column　p166～169「探究学習へのアプローチ」 探究編3　p170～177「発想を広げて課題を見つける」 探究編4　p178～185「新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる」	【知識・技能】 ①探究学習の目標目的を学び、その基本的な方法や考え方などの知識を理解している 【思考・判断・表現】 ①探究学習を通じて、自分で問題提起を行い、その調査・検証・発表の方法を適切に使うことができる ②文章の構造を把握して論理的な文章の構造的読解を理解し、その内容を適切に判断できる	2	3 4	○	
③	読解編3　p54～63「時間と自由の関係について」 探究編5　p186～193「メディアを適切に使い分けながら、情報を収集する」 探究編6　p194～200「調べた情報を説明資料にまとめる」 Column　p201～204「グラフや写真の読み取り方」	【知識・技能】 ①探究学習に関連して、メディアの特性とメディアリテラシーについて正しく理解している ②グラフや写真など非言語情報に触れその読解手法を理解し実践することができる 【思考・判断・表現】 ①キーワードの展開を通読から学び、論の展開方法を理解し、本文の詳細な構造分析をすることができる	3	5 6		
④	読解編4　p76～82「真の自立とは」 Column　p92～94「文章を読み比べるために」 探究編7　p205～209「異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く」	【知識・技能】 ①段落相互の関係など、文脈を構成する言葉を利用して論理的な文章の構造解釈の方法を正しく身につけている 【思考・判断・表現】 ①同一テーマの文章を比較し、主張やデータの使い方の違いを理解し、多角的な視点で本文を理解することができる ②様々な意見からそれぞれの立場や考え方の違いを比較考察し、そこから自分の意見につなげる力を身につけている	4	7 8		○
⑤	読解編5　p103～111「人工知能はなぜ椅子に座れないのか」 探究編8　p210～215「情報を整理しながら話し合う」 探究編9　p216～223「論証してレポートを書く」	【知識・技能】 ①報告文(レポート)の体裁や作成の流れを学び、実際に探究学習の成果を作成し発表することができる 【思考・判断・表現】 ①これまで学んだ論理的な文章の解法をもとに、自分の観点で理解し、整理する力を身につけている ②「話し合い」の方法を学び、実際に自分の意見を交換し話し合いを通じて、考え方を高めることができる	5	9 10		○
⑥	読解編6　p126～133「暇と退屈の倫理学」 Column　p224～228「引用の方法」 探究編10　p229～236「探究したことを発信する」	【知識・技能】 ①引用のルールや効果的な方法を学び、論文や発表用飼料の正しい作成法を身につけている 【思考・判断・表現】 ①抽象的概念をテーマにした論理的な文章の読解を通じて、概念を論証する方法を適切に使うことができる ②「現代の国語」を通じて学んだことの中から1つテーマをとりあげ探究学習の成果として発表することができる	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1 実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2 出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語	言語文化	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　　名
教科書	東京書籍	言文・701	新編言語文化
副教材等	–	–	–

学習目標

国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「言語文化」では以下の観点を学習目標とし、日本語の豊かさや奥深さ、そして言語と文化の関連について指導する。
(1)　生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。【知識・技能】
(2)　論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)　言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①随筆　p10～15「さくらさくらさくら」/小説　p24～35「とんかつ」/p45～48「小説の読み方」 ②古文入門　p122～123「児のそら寝」/p124～125「古文の言葉と仮名遣い」/p128～129「古語を調べるために」　p134～136「用言の活用」/詩歌　p154～163「折々の歌」/p164～166「和歌」	④詩歌　p62～65「I was born」/小説　p72～87「羅生門」/p88～92言語活動「元になった古典作品と読み比べよう」 ⑥論語　p238～241「論語－八章」/p242～245「『論語』の注釈を読む」/史話　p248～249「曹公戦於白馬」(三国志)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	現代文編 随筆　p10～15「さくらさくらさくら」 小説　p24～35「とんかつ」/p45～48「小説の読み方」	【知識・技能】 ①随筆の文章的特性を理解し、その読解手法を正しく使うことができる 【思考・判断・表現】 ①現代の随筆および小説作品を通読し、筆者の情緒的な感性を味わうことができる ②小説の基本的な知識を把握し、小説の鑑賞方法や鑑賞のポイントを理解することができる	1	1 2	○	
②	古文編 古文入門　p122～123「児のそら寝」/p124～125「古文の言葉と仮名遣い」/p128～129「古語を調べるために」　p134～136「用言の活用」 詩歌　p154～163「折々の歌」/p164～166「和歌」	【知識・技能】 ①古文を通釈するために必要な、基本的な決まり事の関する知識を身につけている 【思考・判断・表現】 ①古文の通読・音読を通して、古代日本の文化や精神性といった古典そのものの魅力に触れることができる ②近代以降の詩歌に触れ、韻文特有の表現から日本の精神文化について考えるきっかけにできる	2	3 4	○	
③	漢文編 漢文入門　p210～218「訓読の基本」 漢詩　p229「春暁」(孟浩然)・「春暁」(幸田露伴)/p233「春望」(杜甫)/p234「漢詩と日本文学」	【知識・技能】 ①漢文を通釈するのに必要な訓読のルールと基本的な句法の知識を身につける 【思考・判断・表現】 ①中国の古典である漢文が日本の文化や日本人の精神性に与えた影響を知るきっかけにできる ②中国近代詩(唐詩)のルールを学び、代表的な唐詩の解釈から当時の中国文化や精神性を理解している	3	5 6		
④	現代文編 詩歌　p62～65「I was born」 小説　p72～87「羅生門」/p88～92言語活動「元になった古典作品と読み比べよう」	【知識・技能】 ①和歌や俳句、詩など日本の韻文特有の決まりごとを正しく理解している 【思考・判断・表現】 ①現代詩の理解を通じ、現代日本の文化や日本人の精神性を見つめなおすことができる ②明治以降の小説を読むことで、近代日本の精神性と現代の違いについて考察できる ③近代と古典の比較から古典的な日本の精神文化と明治時代以降の日本人の変化を考察できる	4	7 8		○
⑤	古文編 古文入門　p126～127「用光と白波」(今鏡) 随筆　p146～148「うつくしきもの」(枕草子) 物語　p170～171「芥川」(伊勢物語)/p203～208「文体の変遷」	【知識・技能】 ①中古文学の代表的な短編3作品を読み、基本文法や古典解釈の方法を正しく身につけている 【思考・判断・表現】 ①ジャンルの違う3作品の相互比較から共通点や相異点などを発見し中古文学の特徴を理解できる ②様々な文体の知識を学び、豊かな日本語の表現技法を正しく理解し、解釈することができる	5	9 10		○
⑥	漢文編 論語　p238～241「論語－八章」/p242～245「『論語』の注釈を読む」 史話　p248～249「曹公戦於白馬」(三国志)	【知識・技能】 ①中国古典特有の「注釈書」に触れ中国文化の学問的姿勢を正しく把握しその精神性を理解できる 【思考・判断・表現】 ①古代日本から現代にいたるまで強い影響を与える「論語」から人間の普遍性を理解することができる ②日本でも人気のある「三国志」に触れ、中国と日本の文化に通底する価値観について考察することができる	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
　前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語	論理国語	4	12	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	論国702	精選論理国語
副教材等	ー	ー	ー

学習目標

国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「論理国語」では、「現代の国語」「言語文化」の学習を踏まえ、創造的・論理的思考の力を育成すると同時に、実社会に必要となる、論理的に書く・批判的に読む能力を育成することを目標とする。また、論理的に考え、表現するために必要な言葉や情報の扱い方などについても十分に育成する。
(1)実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
論理の力を鍛えよう(p21～22) 論理の力・論理とは何か・つなげる力(p134～141)・2論証する力・2言葉と認識『相手依存の自己規定』(p24～33)・3要約する力(p142～149)・4質問する力(p150～154) Ⅰ部・『ミロのヴィーナス』(p14～20)・『地図の想像力』(p110～130)	Ⅱ部・『言語と記号』(p156～171)・『鏡の中の現代社会』(p174～191)・『抗争する人間』(p272～281) 言葉のトレーニング・やさしい日本語(p354～362) 探究学習へのアプローチ(p314～328) 探究編・1資料を整理し、テーマを吟味する(p284～291)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	論理の力を鍛えよう(p21～22) 論理の力 論理とは何か つなげる力(p134～141) Ⅰ部・1発見への誘い 『ミロのヴィーナス』(p14～20)	【知識・技能】 ①「現代の国語」の振り返りをふまえて基本的な論理思考の方法を再確認できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①理論的思考について正しく理解し、それに基づいた思考を再現できる ②説明的文章を論理的に読み、理解し、それに対する自分の考えを持つことができる	1	1 2	○	
②	論理の力 2論証する力 3要約する力(p142～149) Ⅰ部・6イメージを読む 『地図の想像力』(p110～130)	【知識・技能】 ①基本的な論理思考の方法を再確認できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①論証する方法と要約する方法を正しく理解し、実践できる ②実際に説明的文章を読み、その内容を適切に論証し正しく要約できる	2	3 4	○	
③	論理の力 4質問する力(p150～154) 2言葉と認識『相手依存の自己規定』(p24～33)	【知識・技能】 ①基本的な論理思考の方法を再確認できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①「質問」すること(論点を踏まえて疑問を出す)に関して正しく理解し、実践できる ②実際に説明的文章を読み、その内容をもとに適切な「質問」をもとに論題をつくれる	3	5 6	○	
④	Column 文章を読み比べるために(p61～62) Ⅰ部・3人間を見つめる 『メディアの変容』(p52～60)	【知識・技能】 ①基本的な論理思考の方法を再確認できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①文章の比較考察について、その方法や内容を正しく理解し、実践できる ②実際に説明的文章を読み、他の文章と比較して多角的な視点を持つことができる	4	7 8		
⑤	Ⅰ部・4学問のまなざし 『「環境」とは何か』(p73～82) 探究編・4資料を活用して論述する(p306～313)	【知識・技能】 ①探究学習の方法について正しく理解し、適切な方法を選択できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①論題に対する適切な資料を用意し、それをもとに論述することができる ②実際に説明的文章を読み、そこから論題を設定し、論述することができる	5	9 10		
⑥	Ⅰ部・5社会を捉え直す 『「である」ことと「する」こと(p84～p97) 思考への扉・1実在論vs.唯名論(p108)	【知識・技能】 ①実在論・唯名論といった哲学的な立場を正しく理解できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①様々な哲学的立場を自ら調べ、それを参考に自分の考えをまとめることができる ②実際に説明的文章を読み、そこから考え方や思考的な立場を捉え自分の参考にできる	6	11 12		
⑦	Ⅱ部・1言葉を再考する『言語と記号』(p156～171) 言葉のトレーニング・やさしい日本語(p354～362)	【知識・技能】 ①「言葉」と「記号」の意味を正しく理解できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①いわゆる記号論や言語に関する論を調べ、それを自分の考えに応用することができる ②実際に説明的文章を読み、そこから言語(日本語)の特性を自分なりにまとめることができる	7	13 14		○
⑧	Ⅱ部・6自己と社会 『抗争する人間』(p272～281) 探究学習へのアプローチ(p314～328)	【知識・技能】 ①前回の授業をふまえ、探究学習の方法について正しく理解し、適切な方法を選択できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①論題に対する適切な資料を用意し、それをもとに論述することができる ②実際に説明的文章を読み、そこから論題を設定し、論述することができる	8	15 16		○
⑨	Ⅱ部・2近代という時代 『鏡の中の現代社会』(p174～191) 探究編・1資料を整理し、テーマを吟味する(p284～291)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①探究学習に対して適切なテーマを設定し、探究の準備をすることができる ②実際に説明的文章を読み、必要な情報を抽出し参照することができる	9	17 18		○
⑩	Ⅱ部・4他者のいる思考 『ロボットは意思を持つか』(p210～230) 探究編・2仮説を立てて検証する(p292～299)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①探究学習に対して適切に仮説を立てて論理的に論証することができる ②実際に説明的文章を読み、その論証の過程を分析し、参考にできる	10	19 20		
⑪	Ⅱ部・3メディアを問い直す 『おじいさんのランプ』(p194～208) 探究編・3社会的な話題に関する文章を読み、短い論文を書く(p300～305)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①「社会的な話題」に対して適切に論述する過程を理解し、実践することができる ②実際に説明的文章を読み、その構造を正しく理解し、自分の論述に応用できる	11	21 22		
⑫	Ⅱ部・5困難な時代に 『社会の壊れると言・知性的であるとはどういうことか』(p232～240) 言葉のトレーニング・地方都市を考える(p336～343)	【知識・技能】 ①探究学習の方法に基づき、適切に探究学習を実践できる ②正しい表現および語彙を理解できる 【思考・判断・表現】 ①前回の学習をふまえ「社会的な話題」に対して適切に論述できる ②実際に説明的文章を読み、その構造を正しく理解し、自分の論述に応用できる	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語	文学国語	4	12	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
8	4	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	文国701	文学国語
副教材等	ー	ー	ー

学習目標

国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「文学国語」では、「言語文化」「現代の国語」の学習を踏まえ、「思考力、判断力、表現力」の感性・情緒の側面を育成することで、共感や想像の力を育む。また、文学作品を通じて表現力を深め、作品の周辺から考えられる多元的な視野を獲得することを目標とする。
(1)生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。【知識・技能】
(2)深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

一学期末試験	学年末試験
[Ⅰ部]1随筆「光の窓」(p8～14)・「雨月物語」(p15～18) [Ⅰ部]2小説1「山月記」(p20～33)・文学への扉1　変身ということ(p42)・「窓」(p34～39) [Ⅰ部]4小説2「沖縄の手記から」(p71～91) [附録]五不安と混乱(p376～386・4行上段) [附録]六近代から現代へ～八「ポストモダン」の現代(p386・5行上段～p393)	[Ⅱ部]1随筆1「国語から旅立って」(p190～198)・「書かれた風景の中へ」(p199～205) [Ⅱ部]2小説1「コンビニの母」(p217～222)・文学への扉4　記号も言語の一種(p224) [Ⅱ部]3詩歌「夏の姿」(p226～227)・「帰途」(p228～229)・「小諸なる古城のほとり」(p230～231)・「平気」(p236～244)・参考正岡子規(p245) [Ⅱ部]4随筆2「空っぽの瓶」(p248～254)・「クレールという女」(p255～265) [Ⅱ部]4戯曲「父と暮らせば」(p266～280)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	[Ⅰ部]1随筆 「光の窓」(p8～14) 「雨月物語」(p15～18) [附録]　近現代の日本文学史(近代文学史) 一啓蒙の時代～五不安と混乱 (p376～386・4行上段)	『文章のメッセージ・近現代文学を俯瞰するⅠ』 【知識・技能】 ①主要な代表作と作家、主な文芸思潮などの近代文学史の基本事項を理解できる ②近代文学の思潮の変遷などの概要を正しく俯瞰できる 【思考・判断・表現】 ①随筆の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し判断することができる ②表現や背景から筆者の考えを理解、あるいは共感することができる	1	1 2	○	
②	[Ⅰ部]2小説1 「山月記」(p20～33) 文学への扉1　変身ということ(p42) [附録]　近現代の日本文学史(現代文学史) 六近代から現代へ～八「ポストモダン」の現代 (p386・5行上段～p393)	『近代小説を読むⅠ・近現代文学を俯瞰するⅡ』 【知識・技能】 ①ポストモダニズムなど近代から現代への文学思潮上の変遷を理解できる ②戦後文学の主な思潮を理解できる 【思考・判断・表現】 ①小説の基本的な形と文脈を理解し、筆者のメッセージを正しく判断できる ②異類変身譚の一つである「山月記」とその他の作品の異同を理解できる	2	3 4	○	
③	[Ⅰ部]2小説1 「窓」(p34～39) [Ⅰ部]4小説2 「沖縄の手記から」(p71～91)	『現代小説を読む』 【知識・技能】 ①扱う作品の作品背景や作家などの基本事項を理解できる ②小説の書かれた背景知識を理解できる 【思考・判断・表現】 ①現代小説を論理的に読解し、物語の流れを理解し判断することができる ②作品の表現やその背景などから筆者の考えを正しく理解、あるいは共感することができる	3	5 6	○	
④	[Ⅰ部]3評論1 「言葉を生きる」(p44～49) 「詩と感情生活」(p50～55) [附録]　創作へのアプローチ(p394～399) ※文学のジャンル説明(教科書外)含む	『様々な価値観に触れる・創作へのアプローチ』 【知識・技能】 ①文学のジャンルとその表現的特徴などの知識を正しく理解できる ②評論文の形式や特徴などの知識を正しく理解できる 【思考・判断・表現】 ①評論の基本的な形と一般的な理論展開の流れを理解し正しく判断することができる ②自分の好きなもの・ことなどについて自分の意見をもち、相手に伝わるように表現できる	4	7 8		
⑤	[Ⅰ部]5詩歌 「鋏」(p94～95) 「永訣の朝」(p98～102)・参考宮澤賢治(p103) 「モードの変遷」(p108～113)	『詩に親しむ・短歌と評論』 【知識・技能】 ①詩の形式や種別、用語などの基本事項を理解できる ②短歌の表現技法や表現上のルールなどの基本事項を理解できる 【思考・判断・表現】 ①詩・短歌の一般的な読解法を理解し、内容を正しく判断することができる ②評論文の読解を通じ、韻文の考察方法や作品評価の多元的視点を理解できる	5	9 10		
⑥	[Ⅰ部] 6小説3 「こころ」(p116～147) 文学への扉3　襖という建具(p148) ※夏目漱石の作家研究含む。 新総合図説国語(p220～223)	『名作に触れるⅠ』 【知識・技能】 ①近代文学の大家、夏目漱石に関する文学史上の基本事項を理解できる ②夏目漱石の活躍した時代の特徴や文芸思潮などの作品の背景世界を理解できる 【思考・判断・表現】 ①近代日本人の考え方と現代日本人の考え方の異同を考察し自分なりの意見を持つことができる ②作品を通じて作家が伝えたいメッセージについて自分なりの考えを持つことができる	6	11 12		
⑦	[Ⅱ部]1随筆1 「国語から旅立って」(p190～198) 「書かれた風景の中へ」(p199～205) [Ⅱ部]2小説1 「コンビニの母」(p217～222) 文学への扉4　記号も言語の一種(p224)	『様々な見方・考え方に触れるⅠ・現代小説を読むⅡ』 【知識・技能】 ①前期の学習を踏まえ随筆の基本事項が理解できている ②前期の学習を踏まえ現代小説の基本事項が理解できている 【思考・判断・表現】 ①随筆で表現された筆者の意見や独自の視点を正しく理解した上で自分なりの意見を持つことができる ②小説に込められた筆者のメッセージを正しく受け止め、自分なりの感想を持つことができる	7	13 14		○
⑧	[Ⅱ部]3詩歌 「夏の姿」(p226～227) 「帰途」(p228～229) 「小諸なる古城のほとり」(p230～231) 「平気」(p236～244)・参考正岡子規(p245)	『詩に親しむ・短歌と評論』 【知識・技能】 ①扱う作品の作品背景や作家などの基本事項を理解できる ②小説の書かれた背景知識を理解できる 【思考・判断・表現】 ①現代小説を論理的に読解し、物語の流れを理解し判断することができる ②作品の表現やその背景などから筆者の考えを正しく理解、あるいは共感することができる	8	15 16		○
⑨	[Ⅱ部]4随筆2 「空っぽの瓶」(p248～254) 「クレールという女」(p255～265) [Ⅱ部]4戯曲 「父と暮らせば」(p266～280)	『様々な見方・考え方に触れるⅡ・多様な形式の作品に触れる』 【知識・技能】 ①前回の学習を踏まえ随筆の基本事項が理解できている ②戯曲の形式や特徴などの基本事項が理解できている 【思考・判断・表現】 ①随筆で表現された筆者の意見や独自の視点を正しく理解した上で自分なりの意見を持つことができる ②舞台芸術の元となる戯曲を自分なりに再現し表現もしくは感想を持つことができる	9	17 18		○
⑩	[Ⅱ部]6小説2 「舞姫」(p292～327) 文学への扉5　小説の冒頭部(p328) ※森鷗外の作家研究含む 新総合図説国語(p216～218)	『名作に触れるⅡ』 【知識・技能】 ①近代文学の大家、森鷗外に関する文学史上の基本事項を理解できる ②様々な作品の冒頭部を読み、物語世界に引き込む表現技術を理解できる 【思考・判断・表現】 ①初期の森鷗外と後期の森鷗外作品の表現等の特性を考察し自分なりの意見を持つことができる ②作品を通じて作家が伝えたいメッセージについて自分なりの考えを持つことができる	10	19 20		
⑪	[Ⅱ部]7評論 「演技する「私」」(p330～334) 「映画の可能性のために(p335～344) [言語活動] 映画と原作を比較する(p345～346)	『多角的に文学を読む』 【知識・技能】 ①映画や舞台芸術などの表現方法について基本事項を理解できる ②映像表現と言語表現の特性や違いについて理解できる 【思考・判断・表現】 ①表現に対する様々な意見を踏まえ、自分なりの意見を持つことができる ②原作付き映像について教科書以外の作品にも触れ、自分なりの考えを持つことができる	11	21 22		
⑫	[Ⅱ部]8小説3 「葉桜と魔笛」(p348～360) 参考太宰治(p348) 「蝿」(p362～371) 参考横光利一(p372)	『近代小説を読むⅡ』 【知識・技能】 ①太宰治、横光利一に関する文学史上の基本事項を理解できる ②作者の活躍した時代の特徴や文芸思潮などの作品の背景世界を理解できる 【思考・判断・表現】 ①それぞれの作品について共感もしくは感想を持ち、自分なりの意見を持つことができる ②作品を通じて作家が伝えたいメッセージについて自分なりの考えを持つことができる	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教 科 等	科 目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
国語	古典探究	4	12	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書 名
教科書	東京書籍	古探701	新編古典探究
副教材等	―	―	―

学習目標

国語学習を通じて、言葉そのものを正しく捉え、対象や概念を正しく表現できる一方で、その言葉の背景世界や行間まで意識することで豊かな言葉の力を育み、「言葉による見方・考え方」を働かせる。そのために「古典探究」では、「言語文化」の学習を踏まえ、様々な古典作品の観賞、読解を通じて伝統的な日本文化に関する理解を促進し、人間の普遍性について理解する。また古典作品を正しく読解するために必要な知識を学び、正しく古典を理解できるようになることを目標とする。
(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。【知識・技能】
(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通した先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
古文編Ⅰ部・『世間胸算用』(p76～78)『おらが春』(p79～82)『竹取物語』なよたけのかぐや姫(p32)・『土佐日記』馬のはなむけ(p54～55) 古文編Ⅱ部・『枕草子』雪のいと高う降りたるを(p90)・『伊勢物語』初冠(p. 94～95) 〔附録〕古文・日本古典文学史年表(p304) ご当地キャラクターと古典(p83～84)・天の羽衣(p33～35)	古文編Ⅰ部・『宇治拾遺物語』小野篁、広才のこと(p10)・『徒然草』九月二十日のころ(p22)・『方丈記』ゆく河の流れ(p29～30)・『平家物語』壇ノ浦の合戦(p66～72)・『小倉百人一首の世界』(p40～47)・『小倉百人一首』より(p48～50) 古文編Ⅱ部・『無名抄』出で映えすべき歌のこと(p120～121)・『古今和歌集仮名序』(p123～124) 言語活動『徒然草』と『玉勝間』を読み比べる(p26～28) 和歌を詠み比べる―討論会形式の「歌合」(p51～52)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	古文編Ⅰ部・7近世文学の世界 『世間胸算用』(p76～78) 『おらが春』(p79～82) ご当地キャラクターと古典(p83～84)	【知識・技能】 ①近世文学史の基本事項を理解できる ②近世文学読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる 【思考・判断・表現】 ①近世文学作品の2作品を解釈し、江戸時代の文化や人々の考え方を理解できる ②ご当地キャラクターと古典を踏まえ、古典作品の身近さや、ほかの事例などを考えられる	1	1 2	○	
②	古文編Ⅰ部・3作り物語を読む 『竹取物語』なよたけのかぐや姫(p32) 天の羽衣(p33～35) ※古文の窓1・羽衣伝説 〔附録〕古文・日本古典文学史年表(p304)	【知識・技能】 ①中古文学史の基本事項を理解できる ②中古文学読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる 【思考・判断・表現】 ①日本最古の作り物語を通じ、奈良・平安時代の文化や人々の考え方を理解できる ②羽衣伝説、異類婚姻譚、地名起源説話など物語の類型例を自分でカテゴライズできる	2	3 4	○	
③	古文編Ⅰ部・5日記を読む 『土佐日記』馬のはなむけ(p54～55) 古文編Ⅱ部・1随筆を味わう 『枕草子』雪のいと高う降りたるを(p90) 古文編Ⅱ部・2歌物語を楽しむ 『伊勢物語』初冠(p. 94～95) 〔附録〕古文・日本古典文学史年表(p304)	【知識・技能】 ①日記・歌物語の基本事項を理解できる ②随筆の基本事項を理解できる 【思考・判断・表現】 ①日記や随筆に見られる筆者の考え方の普遍性や、時代特性について自分なりに意見を持てる ②歌物語の読解を通じて当時の文化背景や価値観について理解できる	3	5 6	○	
④	古文編Ⅱ部・5作り物語を味わう 『源氏物語』光源氏の誕生(p126～128) 『源氏物語』－現代語訳の世界(p137～138) 〔附録〕古文・敬語(p294～297)	【知識・技能】 ①『源氏物語』に関する文学知識および作品背景を理解できる ②中古の敬語表現を正しく理解し、現代語訳できる 【思考・判断・表現】 ①『源氏物語』を通して平安時代の貴族文化や当時の価値観について自分なりに意見を持てる ②『源氏物語』の現代語訳から、逐語訳を越えたより良い現代語訳のための手掛かりを得られる	4	7 8		
⑤	漢文編Ⅰ部・1故事と小話 蛇足(p158～159) 畏饅頭(p162～163) 漢文の窓1漢文と古典落語(p164) 〔附録〕漢文・中国文学史年表(p314～315)	【知識・技能】 ①古代中国の歴史区分、時代背景、文化などの基本事項を理解できる ②漢文読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる 【思考・判断・表現】 ①漢文(故事成句)の2作品を解釈し、古代中国の文化や人々の考え方を理解できる ②漢文と古典落語という2つの国にまたがる事例から、相互文化の影響について考えを持てる	5	9 10		
⑥	漢文編Ⅰ部・2唐詩と文 静夜思(p168) 登高(p172) 八月十五日夜、禁中独直、対月憶元九(p173) 雑説(p175)	【知識・技能】 ①中国文化が隆盛を極める唐代の基本事項を理解できる ②唐詩読解に必要な作詩のルール、詩の構造や対句などの解釈方法を正しく理解し読解できる 【思考・判断・表現】 ①唐詩を解釈し、唐代の文化や詩情などを理解し、感想を持てる ②漢文を正しく解釈し、当時の人々の考え方と現代の人々の異同について意見を持てる	6	11 12		
⑦	古文編Ⅰ部・1説話に親しむ 『宇治拾遺物語』小野篁、広才のこと(p10) 古文編Ⅰ部・2随筆を読む 『徒然草』九月二十日のころ(p22) 言語活動『徒然草』と『玉勝間』を読み比べる(p26～28) 『方丈記』ゆく河の流れ(p29～30)	【知識・技能】 ①説話の基本事項を理解できる ②前期の学習を踏まえ、鎌倉時代の随筆の基本事項を理解できる 【思考・判断・表現】 ①説話を通じて、当時の読者層の興味関心を理解し、価値観について考えられる ②随筆を通じて鎌倉時代特有の価値観や、江戸時代との異同について自分なりに意見を持てる	7	13 14		○
⑧	古文編Ⅰ部・6軍記物語を味わう 『平家物語』壇ノ浦の合戦(p66～72)	【知識・技能】 ①軍記物語の基本事項を理解できる ②この時代の文化や価値観、特に「無常観」について正しく理解できる 【思考・判断・表現】 ①様々な作品に翻案される有名な作品の原点に触れ、本来の作品の姿を理解できる ②武士が台頭する時代の武士たちの価値観を理解し、自分なりの意見を持つことができる	8	15 16		○
⑨	古文編Ⅰ部・4和歌の世界 『小倉百人一首の世界』(p40～47) 『小倉百人一首』より(p48～50) 和歌を詠み比べる―討論会形式の「歌合」(p51～52) 古文編Ⅱ部・4歌話・歌論を読む 『無名抄』出で映えすべき歌のこと(p120～121) 『古今和歌集仮名序』(p123～124)	【知識・技能】 ①和歌およびその派生表現の基本事項を理解できる ②文化としての和歌や百人一首、歌合せなどについて正しく把握できる 【思考・判断・表現】 ①和歌および和歌を利用した表現に触れることで、日本特有の言語表現の機微を理解できる ②当時の人々の和歌に対する考え方を学び、文化としての和歌に対し自分の意見を持てる	9	17 18		○
⑩	古文編Ⅱ部・6俳諧に親しむ 近世俳句抄(各歌人1～2首)(p140～144) 『去来抄』(p. 145～146) 『三冊子』(p. 147～148)	【知識・技能】 ①前時の学習を踏まえ、和歌の発展形態としての俳諧の成立について理解できる ②俳諧の基本ルールや関連する文学知識を正しく理解できる 【思考・判断・表現】 ①俳句そのものに触れることで、日本特有の言語表現の機微を理解できる ②当時の人々の俳諧に対する考え方を学び、文化としての俳諧に対し自分の意見を持てる	10	19 20		
⑪	漢文編Ⅱ部・4中国の思想 相性近也【論語】・不忍人之心【孟子】・小国寡民【老子】(p251～256) 漢文編Ⅰ部・4中国の知恵 出藍誉【荀子】・侵官之害【韓非子】(p198～201)	【知識・技能】 ①前期の学習を踏まえた上で、儒学や諸子百家の思想の知識を整理できる ②漢文読解に必要な語彙・文法などを正しく理解し読解できる 【思考・判断・表現】 ①中国古代の思想について、それぞれの違いや要点を整理し理解できる ②現代日本の考え方にどのような影響を与えているか、自分なりに意見を持つことができる	11	21 22		
⑫	漢文編Ⅰ部・3史記を読む 項王自刎(p192～194) 漢文編Ⅱ部・3史記を味わう 刎頸之交(p245～248)	【知識・技能】 ①中国古代史の歴史書『史記』について、作者やその周辺状況まで含めて把握できる ②紀伝体の歴史書の基本的な知識を理解できる 【思考・判断・表現】 ①中国古代史の有名なエピソードを原典で読み、その関連作品などに積極的に触れることができる ②古代中国の歴史や文化を読み取り、自分なりに意見を持つことができる	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史	地理総合	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	46 帝国	地総703	高等学校 新地理総合
副教材等	46 帝国	地総702	新詳高等地図

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる【知識・技能】
(2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論することができる【思考・判断・表現】
(3) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵かん養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1部 第1章　地図と地理情報システム　　第2章　結び付きを深める現代世界 第2部 第1章　生活文化の多様性と国際世界(1～2節)	第2部 第1章　世界文化の多様性と国際世界(5節)　　第2章　地球的課題と国際協力

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1部 第1章　地図と地理情報システム 第2章　結び付きを深める現代世界	①地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解することができる【知識・技能】 ②地図や地理情報システムの位置や範囲、縮尺などに着目して、目的や用途、内容、適切な活用の仕方などを多面的・多角的に考察し、表現することができる【思考・判断・表現】 ③よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究・解決することができる【思考・判断・表現】	1	1・2	○	
②	第2部 第1章　生活文化の多様性と国際世界 1節　世界地形と人々の生活 2節　世界の気候と人々の生活	世界の人々の特色ある生活文化を基に、人々の生活文化が地理的環境から影響を受けたり、影響を与えたりして多様性をもつことや、地理的環境の変化によって変容することなどについて理解することができる【知識・技能】	2	3・4	○	
③	第2部 第1章　生活文化の多様性と国際世界 3節　世界の言語・宗教と人々の生活 4節　歴史的背景と人々の生活	世界の人々の生活文化について、その生活文化が見られる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、主題を設定し、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる【思考・判断・表現】	3	5・6		
④	第2部 第1章　世界文化の多様性と国際世界 5節　世界の産業と人々の生活	①産業の発展が、人々の生活に与えた影響について理解することができる【知識・技能】 ②産業のグローバル化についてと、地域の影響について考察し、表現することができる【思考・判断・表現】	4	7・8		○
⑤	第2部 第2章　地球的課題と国際協力	①地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解することができる【知識・技能】 ②地域の結び付きや持続可能な社会づくりなどに着目して、主題を設定し、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる【思考・判断・表現】	5	9・10		○
⑥	第3部 第1章　自然環境と災害 第2章　生活圏の調査と地域の展望	①自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解することができる【知識・技能】 ②地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現することができる【思考・判断・表現】	6	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

【添削指導(報告課題)】
1. クラーWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2. 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史	地理探究	3	9	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
6	3	0	3

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	帝国書院	地探702	新詳地理探究
副教材等	–	–	–

学習目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)　地理に関わる諸事象に関して、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)　地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。【思考力・判断力・表現力】
(3)　地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵(かん)養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長をはかる。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①p.6.7　地球環境と人間　/　p.8～31　地形　/　p.32～41　気候 ②p.42～61　気候　/　p.62～67　日本の自然環境　/　p/68～79　地球環境問題	⑤.146～153　交通・通信　/　p.154～159　観光　/　p.160～165　貿易と経済圏　/　p.166～169　人口　/　p/170～177　人口問題　/　p.178～183　村落と都市 ⑥p.184～187　村落と都市　/　p.188～197　都市・居住問題　/　p.198～201　衣食住　/　p/202～211　民族・宗教と民族問題　/　p.212～220　国家の領域と領土問題 ⑦p.221～225　地域区分　/　p.226～227　地域の考察方法　/　p.228～237　中国　/　p.238～243　韓国　/　p.244～253　ASEAN諸国　/　p.254～261　インド

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	p.6.7　地球環境と人間 p.8～31　地形 p.32～41　気候	【知識・技能】 地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは人々の生活や人間活動にどのような影響を与えているのか、場所や人間と自然との関わりなどに着目して考察することができる。	1	1 2	○	
②	p.42～61　気候 p.62～67　日本の自然環境 p/68～79　地球環境問題	【知識・技能】 地球上の気候・生態系にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。また、日本の自然環境について、その特徴を理解している。 【思考力・判断力・表現力】 地球上の地形や気候・生態系にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球的課題とどのように関わっているのか、場所や人間と自然との関わりなどに着目して考察することができる。また、日本の自然環境と自然災害の関係について考察することができる。	2	3 4	○	
③	p.80～97　農林水産業 p.98～103　食料問題 p.104～115　エネルギー・鉱山資源	【知識・技能】 資源・エネルギーの開発や、農林水産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 資源・エネルギーの開発や、農林水産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球的課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	3	5 6		
④	p.116～121　資源・エネルギー問題 p.122～139　工業 p.140～145　第3次産業	【知識・技能】 資源・エネルギーの開発や、工業・第3次産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 資源・エネルギーの開発や、工業・第3次産業など産業の発達にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球的課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	4	7 8		
⑤	p.146～153　交通・通信 p.154～159　観光 p.160～165　貿易と経済圏 p.166～169　人口 p.170～177　人口問題 p.178～183　村落と都市	【知識・技能】 交通・通信網の整備や観光・貿易の発展、また人口や村落・都市にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 交通・通信網の整備や観光・貿易の発展、また人口・村落・都市にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球的課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	5	9 10		○
⑥	p.184～187　村落と都市 p.188～197　都市・居住問題 p.198～201　衣食住 p.202～211　民族・宗教と民族問題 p.212～220　国家の領域と領土問題	【知識・技能】 人口や村落・都市、また生活文化や民族・宗教にはどのような傾向や規則性があるのかを理解している。 【思考力・判断力・表現力】 人口や村落・都市、また生活文化や民族・宗教にはどのような傾向や規則性があり、それらは地球的課題とどのように関わっているのか、場所や他地域との結びつきなどに着目して考察することができる。	6	11 12		○
⑦	p.221～225　地域区分 p.226～227　地域の考察方法 p.228～237　中国 p.238～243　韓国 p.244～253　ASEAN諸国 p.254～261　インド	【知識・技能】 自然環境・文化・政治・経済などの指標をもとに地域を区分する方法を理解している。中国・韓国・ASEAN諸国・インドについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し理解している。 【思考力・判断力・表現力】 世界のさまざまな地域について、位置や分布、地域の特徴などに着目して考察することができる。また、それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球的課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。	7	13 14		○
⑧	p.262～269　西アジアと中央アジア p.270～279　北アフリカとサハラ以南アフリカ p.278～289　EU諸国 p.290～295　ロシア	【知識・技能】 西アジアと中央アジア・北アフリカとサハラ以南アフリカ・EU諸国・ロシアについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し、理解している。 【思考力・判断力・表現力】 それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球的課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。	8	15 16		
⑨	p.296～307　アメリカ合衆国 p.308～315　ラテンアメリカ p.316～322　オーストラリアとニュージーランド p.323～327　将来の国土のあり方 p.328～335　持続可能な日本の国土像の探究	【知識・技能】 アメリカ合衆国・ラテンアメリカ・オーストラリアとニュージーランドについて、自然環境や歴史・生活文化・産業などを項目ごとに整理し、理解している。 【思考力・判断力・表現力】 それぞれの地域では、どのような地域的特色や地球的課題がみられ、どのような地域の構造や変化がみられるのか、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して考察することができる。また、これまでの地理学習の集大成として、日本の強みや課題を整理したうえで、持続可能性を踏まえた将来の国土の在り方について、他地域との結びつきや地域の特徴などに着目して探究することができる。	9	17 18		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
　前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史	歴史総合	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	81 山川	歴総707	歴史総合 近代から現代へ
副教材等	–	–	–

学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ，課題を追究したり解決したりする活動を通して，広い視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる【知識・技能】
(2)近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりすることができる【思考・判断・表現】
(3)近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第Ⅰ部　近代化と私たち 第1章　結びつく世界　　第2章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 第3章　明治維新と日本の立憲体制　第4章　帝国主義の展開とアジア	第Ⅱ部 第6章　経済危機と第二次世界大戦　第7章　戦後の日本秩序と日本の改革 第Ⅲ部 第8章　冷戦と世界経済

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第Ⅰ部 第1章　結びつく世界 第2章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	①16～17世紀のヨーロッパの世界進出、特にアジア諸地域との結びつきを理解することができる【知識・技能】 ②18世紀のヨーロッパの再編とアメリカ世界の成立について理解することができる【知識・技能】 ③19世紀の世界諸地域の発展とグローバル化について考察することができる【思考・判断・表現】	1	1･2	○	
②	第Ⅰ部 第3章　明治維新と日本の立憲体制 第4章　帝国主義の展開とアジア	①明治維新と日本の立憲体制について理解することができる【知識・技能】 ②帝国主義における欧米諸国の対立について理解することができる【知識・技能】 ③欧米諸国との関わりの中から、20世紀初頭におけるアジアの変動を考察することができる【思考・判断・表現】	2	3･4	○	
③	第Ⅱ部 第5章　第一次世界大戦と大衆社会 第6章　経済危機と第二次世界大戦	①第一次世界大戦と戦後世界の情勢について理解することができる【知識・技能】 ②戦間期の動向(軍備制限と平和共存)について理解することができる【知識・技能】 ③1910～20年代の歴史的事項と経済状況から当時の世界の動向を考察することができる【思考・判断・表現】	3	5･6		
④	第Ⅱ部 第6章　経済危機と第二次世界大戦 第7章　戦後の日本秩序と日本の改革	①戦間期の動向(世界恐慌とファシズムの台頭)について理解することができる【知識・技能】 ②第二次世界大戦に至る過程と日本の関りについて理解することができる【知識・技能】 ③世界恐慌から第二次世界世界大戦までの歴史的事項から日本を中心とした戦後の動向について考察することができる【思考・判断・表現】	4	7･8		○
⑤	第Ⅲ部 第8章　冷戦と世界経済	①戦後の欧米諸国の動向とアジア・アフリカの独立と台頭について理解することができる【知識・技能】 ②冷戦構造とその崩壊について理解することができる【知識・技能】 ③冷戦期の世界の動向を踏まえ、日本の経済的発展による繁栄とその影響について考察することができる【思考・判断・表現】	5	9･10		○
⑥	第三部 第9章　グローバル化する世界 第10章　現代の世界	①冷戦構造の崩壊による新しい国際秩序の形成について理解することができる【知識・技能】 ②現代の課題について世界的視点と日本の視点から考察することができる【思考・判断・表現】	6	11･12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】 年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史	日本史探究	3	9	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
6	3	0	3	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社	日探707	高等学校 日本史探究
副教材等	−	−	−

学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長をはかる。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①p.16~51 第1章 原始・古代の日本と東アジア 第1節 日本文化の黎明 第2節 ヤマト政権と律令国家の形成 ②p.52~77 第1章 原始・古代の日本と東アジア 第3節 律令国家の変容 第2章 中世の日本と世界 第1節 中世への転換	⑤p.130~157 第3章 近世の日本と世界 第3節 幕藩体制の展開 第4節 社会の変化と幕府の対応 ⑥p.158~191 第4章 近現代の地域・日本と世界 第1節 近代への転換 第2節 近代国家の形成 ⑦p.192~217 第4章 近現代の地域・日本と世界 第3節 国際関係の推移と近代産業の発展 第4節 第一次世界大戦と日本①~③

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	p.16~51 第1章 原始・古代の日本と東アジア 第1節 日本文化の黎明 第2節 ヤマト政権と律令国家の形成	【知識・技能】 ・旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。 ・国家の形成と古墳文化、律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、原始から古代の政治・社会や文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・自然環境と人間の生活との関わり、中国大陸・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・黎明期の日本列島の変化に着目して、原始社会の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することができる。 ・原始・古代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現することができる。 ・中国大陸・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、小国の形成と連合、古代の国家の形成の過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	1	1 2	○	
②	p.52~77 第1章 原始・古代の日本と東アジア 第3節 律令国家の変容 第2章 中世の日本と世界 第1節 中世への転換	【知識・技能】 ・貴族政治の展開、文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。 ・貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の展開を理解している。 【思考・判断・表現】 ・地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ・権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することができる。 ・中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現することができる。	2	3 4	○	
③	p.78~105 第2章 中世の日本と世界 第2節 鎌倉幕府の展開 第3節 室町幕府の展開	【知識・技能】 ・武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。 ・武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地方権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・公武関係の変化、宋・元(モンゴル帝国)などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ・社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	3	5 6		
④	p.106~129 第3章 近世の日本と世界 第1節 近世への転換 第2節 幕藩体制の確立	【知識・技能】 ・織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している。 ・法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係などを基に、幕藩体制の確立の特色を理解している。 【思考・判断・表現】 ・村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現する。 ・時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現する。 ・近世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現する。 ・織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	4	7 8		
⑤	p.130~157 第3章 近世の日本と世界 第3節 幕藩体制の展開 第4節 社会の変化と幕府の対応	【知識・技能】 ・支配秩序の形成と身分制、技術の向上と開発の進展、産業の発達、学問・文化の発展を基に、近世の社会・文化の特色を理解している。 ・飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。 【思考・判断・表現】 ・交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ・社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化の関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	5	9 10		○
⑥	p.158~191 第4章 近現代の地域・日本と世界 第1節 近代への転換 第2節 近代国家の形成	【知識・技能】 ・対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の転換を理解している。 ・明治維新、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、日本が立憲体制に移行したことや、明治初期の文化の特色について理解している。 【思考・判断・表現】 ・欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現することができる。 ・近代の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取り、表現することができる。 ・アジアや欧米諸国との関係、欧米の思想・文化の影響などに着目して、主題を設定し、日本が近代国家へ移行する過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	6	11 12		○
⑦	p.192~217 第4章 近現代の地域・日本と世界 第3節 国際関係の推移と近代産業の発展 第4節 第一次世界大戦と日本 ①民衆が政治を動かしはじめた ②最初の世界大戦に日本も参戦した ③新たな国際秩序がつくられた	【知識・技能】 ・条約改正、日清・日露戦争、産業革命の展開、交通の整備、学問の発達、教育制度の確立、社会問題の発生などを基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容、近代の文化や社会の特色について理解している。 ・第一次世界大戦などを基に、国際社会との関係の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 ・地域社会の変化、戦争が及ぼした影響、産業の発達の背景と影響、労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目し、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。 ・アジアや欧米諸国との関係、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、政党政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の対外政策について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現する。	7	13 14		○
⑧	p.218~249 第4章 近現代の地域・日本と世界 第4節 第一次世界大戦と日本 ④「普通選挙」がはじまった ⑤抑圧からの解法を求めて ⑥新しい文化とモダンな都市が生まれた ⑦学問と芸術に新風が吹く 第5節 軍部の台頭と戦争の長期化	【知識・技能】 ・社会運動の動向、政党政治の展開、学問の発展や教育制度の拡充などを基に、産業の発展の影響や大衆社会・文化の形成を理解している。 ・恐慌と国際関係、軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 ・アジアや欧米諸国との関係、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、政党政治の展開と国際的地位の確立、第一次世界大戦前後の国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ・国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	8	15 16		
⑨	p.250~281 第4章 近現代の地域・日本と世界 第6節 日本の再建 第7節 経済の発展 第8節 経済大国とグローバル化	【知識・技能】 ・占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と独立の回復、戦後の経済復興などを基に、我が国の再出発及び国民生活の変容を理解している。 ・アジア諸国との関係、高度経済成長などを基に、政治・経済や対外関係、国民生活の変容を理解している。 ・社会・経済・情報の国際化などを基に、1970年代以降の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。 【思考・判断・表現】 ・第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響などに着目して主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ・国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本経済の発展について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。 ・国際社会の変化、グローバル化の進展の影響、国民の生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現することができる。	9	17 18		

【面接指導(スクーリング)】

指導内容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評価方法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
地理歴史	世界史探究	3	9	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
6	3	0	3	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社	世探707	高等学校 世界史探究
副教材等	－	－	－

学習目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解するとともに、諸資料から世界の歴史に関する様々な情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現代世界とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長をはかる。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①p.22～61 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第2章 古代文明の歴史的特質 ／ 第3章 諸地域の歴史的特質 第1節～第3節 ②p.62～85 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第3章 諸地域の歴史的特質 第4節～第6節	③p.124～147 第3編 諸地域の交流・再編 第3章 アジア諸地域とヨーロッパの再編 ④p.152～181 第4編 諸地域の結合・安容 第2章 世界市場の形成と諸地域の結合 ⑦p.182～207 第4編 諸地域の結合・安容 第3章 帝国主義とナショナリズムの高揚

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	p.22～61 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第2章 古代文明の歴史的特質 第3章 諸地域の歴史的特質 第1節 西アジアと地中海周辺の諸国家 第2節 仏教の成立とヒンドゥー教 第3節 南アジアと東南アジアの諸国家	【知識・技能】 ・西アジア文明、インダス文明、中華文明などを基に、古代文明の歴史的特質を理解している。 ・西アジアと地中海周辺の諸国家、キリスト教の成立などを基に、西アジアと地中海周辺の諸国家の歴史的特質を理解している。 ・仏教の成立とヒンドゥー教、南アジアと東南アジアの諸国家などを基に、南アジアと東南アジアの歴史的特質を理解している。 【思考・判断・表現】 ・古代文明に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、自然環境と生活や文化との関連性、農耕・牧畜の意義などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・南アジアと東南アジアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、南アジアと東南アジアにおける宗教や文化の特色、東南アジアと周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	1	1 2	○	
②	p.62～85 第2編 諸地域の歴史的特質の形成 第3章 諸地域の歴史的特質 第4節 秦・漢と遊牧国家 第5節 唐と近隣諸国の動向 第6節 キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成	【知識・技能】 ・秦・漢と遊牧国家、唐と近隣諸国の動向などを基に、東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質を理解している。 ・キリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成などを基に、ヨーロッパと西アジアにおけるキリスト教とイスラームを基盤とした国家の歴史的特質を理解している。 【思考・判断・表現】 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、唐の統治体制と社会や文化の特色、唐と近隣諸国との関係、遊牧民の社会の特徴と周辺諸地域との関係などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・ヨーロッパと西アジアにおけるキリスト教とイスラームを基盤とした国家の形成の歴史に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互の関わりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、キリスト教とイスラームを基盤とした国家の特質を多面的・多角的に考察し、表現することができる。	2	3 4	○	
③	p.90～109 第3編 諸地域の交流・再編 第2章 結びつくユーラシアと諸地域 第1節 西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播 第2節 ヨーロッパ封建社会とその展開 第3節 宋の社会とモンゴル帝国の拡大	【知識・技能】 ・西アジア社会の動向とアフリカ・アジアへのイスラームの伝播、ヨーロッパ封建社会とその展開、宋の社会とモンゴル帝国の拡大などを基に、海域と内陸にわたる諸地域の交流の広がりを構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸地域の交流の広がりに関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸地域へのイスラームの拡大の要因、ヨーロッパの社会や文化の特色、中国社会の特徴やモンゴル帝国が果たした役割などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	3	5 6		
④	p.110～123 第3編 諸地域の交流・再編 第2章 結びつくユーラシアと諸地域 第4節 15・16世紀のアジア海域での交易の興隆 第5節 明と東アジアの動向 第6節 スペインとポルトガルの活動	【知識・技能】 ・アジア海域での交易の興隆、明と日本・朝鮮の動向、スペインとポルトガルの活動などを基に、諸地域の交易の発展とヨーロッパの進出を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・諸地域の交流とヨーロッパの進出に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アジア海域での交易の特徴、ユーラシアとアメリカ大陸間の交易の特徴とアメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	4	7 8		
⑤	p.124～147 第3編 諸地域の交流・再編 第3章 アジア諸地域とヨーロッパの再編	【知識・技能】 ・アジアや南アジアの諸帝国、清と日本・朝鮮などの動向を基に、アジア諸地域の特質を構造的に理解している。 ・宗教改革とヨーロッパ諸国の抗争、大西洋三角貿易の展開、科学革命と啓蒙思想などを基に、主権国家体制の形成と地球規模での交易の拡大を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・アジア諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、諸帝国の統治の特徴、アジア諸地域の経済と社会や文化の特色、日本の対外関係の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・ヨーロッパ諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、宗教改革の意義、大西洋両岸諸地域の経済的連関の特徴、主権国家の特質と経済活動との関連、ヨーロッパの社会や文化の特色などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	5	9 10		○
⑥	p.152～181 第4編 諸地域の結合・安容 第2章 世界市場の形成と諸地域の結合	【知識・技能】 ・産業革命と第大西洋革命、自由主義とナショナリズム、南北戦争の展開などを基に、国民国家と近代民主主義社会の形成を構造的に理解している。 ・国際的な分業体制と労働力の移動、イギリスを中心とした自由貿易体制、アジア諸国の植民地化と諸改革などを基に、世界市場の形成とアジア諸国の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・大西洋両岸諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、産業革命や導大西洋革命の意味や意義、自由主義とナショナリズムの特質、南北アメリカ大陸の変容などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・世界市場の形成とアジア諸国の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、労働力の移動を促す要因、イギリスの覇権の特徴、アジア諸国の変容の地域的な特質などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	6	11 12		○
⑦	p.182～207 第4編 諸地域の結合・安容 第3章 帝国主義とナショナリズムの高揚	【知識・技能】 ・第2次産業革命と帝国主義諸国の抗争、アジア諸国の変革などを基に、世界分割の進展とナショナリズムの高まりを構造的に理解している。 ・第一次世界大戦とロシア革命、ヴェルサイユ・ワシントン体制の形成、アメリカ合衆国の台頭、アジア・アフリカの動向とナショナリズムなどを基に、第一次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・列強の対外進出とアジア・アフリカの動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界経済の構造的な変化、列強の帝国主義政策の共通点と相違点、アジア諸国のナショナリズムの特徴などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・第一次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、第一次世界大戦後の国際協調主義の思想、アメリカ合衆国の台頭の要因、アジア・アフリカのナショナリズムの思想などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	7	13 14		○
⑧	p.208～223 第4編 諸地域の結合・安容 第4章 第二次世界大戦と諸地域の変容	【知識・技能】 ・世界恐慌とファシズムの動向、ヴェルサイユ・ワシントン体制の動揺などを基に、国際関係の緊張と対立を構造的に理解している。 ・第二次世界大戦の展開と大戦後の国際秩序、冷戦とアジア諸国の独立の始まりなどを基に、第二次世界大戦の展開と諸地域の変容を構造的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・世界恐慌と国際協調体制の動揺に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、世界恐慌に対する諸国家の対応策の共通点と相違点、ファシズムの特徴、第二次世界大戦に向かう国際関係の変化の要因などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・第二次世界大戦と大戦後の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、第二次世界大戦中の連合国による戦後構想と大戦後の国際秩序との関連、アジア諸国の独立の地域的な特質などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	8	15 16		
⑨	p.228～259 第5編 地球世界の課題 第2章 冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭 第3章 国際秩序の変容と経済のグローバル化 第4章 科学技術の高度化と知識基盤社会	【知識・技能】 ・アジア・アフリカ諸国の独立と新興独立国の結束、先進国の経済成長と南北問題、集団安全保障と冷戦の展開、平和共存と多極化の進展などを基に、1950～60年代にかけての冷戦の展開と第二次世界大戦後に独立した国々に残された課題などを理解している。 ・アメリカ合衆国の覇権の動揺、資源ナショナリズムの動きと産業構造の転換、アジア・ラテンアメリカ諸国の経済成長と南南問題、冷戦終結と地域紛争の頻発、経済のグローバル化などを基に、1970年代以降の世界の政治・経済のあり方の変容を理解している。 ・原子力の利用や宇宙探査などの科学技術、医療技術・バイオテクノロジーと生命倫理、人工知能と労働のあり方の変容、情報通信技術の発達と知識の普及などを基に、知識基盤社会の展開と課題を理解している。 【思考・判断・表現】 ・1950～60年代にかけての諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、冷戦の展開とその特質、第三世界台頭の背景やその影響などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・1970年代以降の諸地域の動向に関わる諸事象の背景や原因、結果や影響、事象相互の関連、諸地域相互のつながりなどに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、アメリカ合衆国の覇権の動揺の要因、資源ナショナリズムの動きと先進工業国における産業構造の転換の特徴、新興工業地域の経済成長と格差拡大の新疆、冷戦終結後の国際情勢などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ・科学技術の高度化と知識基盤社会に関わる諸事象の歴史的背景や原因、結果や影響、事象相互の関連などに着目し、主題を設定し、諸資料を比較したり関連付けたりして読み解き、現代の科学技術や文化の歴史的な特色、第二次世界大戦後の科学技術の高度化と政治・経済・社会の変化との関連性などを多面的・多角的に考察し、表現することができる。	9	17 18		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
公民	公共	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	190・東法	公共・712	公共
副教材等	–	–	–

学習目標

人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報 を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。【知識・技能】
(2)現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論することができる。【思考・判断・表現】
(3)よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1編　公共の扉をひらくために　　「公共」の見取り図 第1章　公共的な空間をつくる私たち　　第2章　公共的な空間における人間としてのあり方・生き方 第3章　公共的な空間における基本原理と日本国憲法	第2編　よりよい社会の形成に参画するために　　「経済」の見取り図 第2章　経済のしくみ　　第3章　変化する日本経済　　第4章　豊かな生活の実現

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1編　公共の扉をひらくために 「公共」の見取り図 第1章 　公共的な空間をつくる私たち 第2章 　公共的な空間における人間としてのあり方・生き方	・自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としての在り方生き方について理解している。【知識・技能】 ・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し、歩み合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの個性観を形成するとともに他者の個性観を尊重することができるようになる存在であることについて理解している。【知識・技能】 ・自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になること、自らのキャリア形成とともによりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。【知識・技能】 ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などの様々な集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であることについて多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。【知識・技能】 ・現代の諸課題について自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、上記に示す考え方を活用することを通して、行為者自身の人間としての在り方生き方について探求することが、よりよく生きていく上で重要であることについて理解している。【知識・技能】 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付けている。【知識・技能】 ・倫理的価値の判断において、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などを活用し、自らも他者も共に納得できる解決方法を見いだすことに向け、思考実験など概念的な手組みを用いて考察する活動を通して、人間として の在り方生き方を多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第3章 　公共的な空間における基本原理と日本国憲法	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。【知識・技能】 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。【知識・技能】 ・公共的な空間における基本的原理について、思考実験など概念的な手組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第2編　よりよい社会の形成に参画するために 「政治」の見取り図 第1章 　日本の政治機構と政治参加	・法や規範の意義及び役割について、国会・内閣の機能と役割や関係性について、世界の政治体制とそれぞれの特徴について、裁判所の機能と役割、人権を保障するためのしくみについて、司法参加の意義などに関わる現実社会の事柄や課題について、地方自治、政治参加と公正な世論形成などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。【知識・技能】 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 ・日本の政治機構と政治参加について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	「経済」の見取り図 第2章　経済のしくみ	・経済活動と経済主体、市場経済の機能と限界について、現代の企業の在り方と課題について、国民経済全体をはかる国民所得などの指標、景気変動と物価の動きについて、財政及び租税の役割、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。【知識・技能】 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 ・経済活動に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第3章　変化する日本経済 第4章　豊かな生活の実現	・戦後の日本経済の推移、中小企業、農業問題、公害の防止と環境保全、エネルギーと循環型社会などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。【知識・技能】 ・日本経済の諸課題について、政府は法律の制定や政策の実施によって、課題解決に向けてどのような役割を果たしているか理解している。【知識・技能】 ・多様な契約及び消費者の権利と責任、職業選択、雇用と労働問題、少子高齢社会における社会保障の充実・安定などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。【知識・技能】 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 ・日本経済、消費生活、労働問題、社会保障に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	「国際」の見取り図 第5章　国際政治のしくみと動向 第6章　国際経済のしくみと動向 第7章　国際社会の現状と課題	・領海主権、領土などに関わる現実社会の事柄や課題について、人権保障が世界でどのように広がってきたのか、国際連合の役割と課題について、第二次世界大戦後の国際社会の動向、冷戦終結後の国際社会の変容について、人種・民族・難民問題について、核兵器の廃絶などの課題、国際平和に向けた世界の取り組みについて、我が国の安全保障と防衛などに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。【知識・技能】 ・貿易と国際分業、外国為替のしくみと国際収支について、戦後国際経済の枠組みとその変化について、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなどに関わる現実社会の事柄や課題について理解している。【知識・技能】 ・EUやUSMCAなどの地域統合の進展、南北問題や新興市場国などの国際開発途上、地球環境問題をはじめとする地球規模の諸課題、国際貢献を含む国際社会における我が国の役割などに関わる現実社会の事柄や課題を理解している。【知識・技能】 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。【知識・技能】 ・国際政治、国際経済、国際社会に関わる現実社会の諸課題について、幸福・自由・正義・公正などの視点を用いて、事実を基に多面的・多角的に考察し、公正に判断し、構想したことを議論している。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1　実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2　出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
倫理	倫理	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	倫理701	倫理
副教材等	–	–	–

学習目標

人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)自己と他人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方について、より深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に追究したり、他者と共によりよく生きる自己を形成しようとしたりする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察やより深い思索を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚を深めている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長をはかる。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P8～P81 第1編　現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 1章　人間の心のあり方 2章　さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節　哲学すること　2節　ギリシャの思想　3節　宗教と社会 4節　キリスト教　5節　イスラーム　6節　仏教 7節　中国の思想　8節　芸術	P121～P198 3章　さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 6節　人間観・言語観の問いなおし　7節　他者・自然とのかかわり 4章　国際社会に生きる日本人としての自覚 1節　日本人の精神風土　2節　仏教と日本人の思想形成 3節　儒教と日本人の思想形成　4節　国学の思想 5節　庶民の思想　6節　西洋思想と日本人の近代化

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P8～P42 第1編　現代に生きる自己の課題と人間としての在り方生き方 1章　人間の心のあり方 2章　さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ 1節　哲学すること 2節　ギリシャの思想	【知識・技能】 ①個性、感情、認知、発達などに着目して、豊かな自己形成に向けて、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めるための手掛かりとなる様々な人間の心の在り方について理解することができる。 ②幸福、愛、徳などに着目して、人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な人生観について理解すること。その際、人生における宗教や芸術のもつ意義についても理解することができる。 【思考・判断・表現】 自己の生き方を見つめ直し、自らの体験や悩みを振り返り、他者、集団や社会、生命や自然などとの関わりにも着目して自己の課題を捉え、その課題を現代の倫理的課題と結び付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。	1	1 2	○	
②	P43～P81 3節　宗教と社会 4節　キリスト教 5節　イスラーム 6節　仏教 7節　中国の思想 8節　芸術	【知識・技能】 ①善、正義、義務などに着目して、社会の在り方と人間としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる様々な倫理観について理解することができる。 ②真理、存在などに着目して、世界と人間の在り方について思索するための手掛かりとなる様々な世界観について理解することができる。 【思考・判断・表現】 古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	2	3 4	○	
③	P82～P120 3章　さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ 1節　近代と人間尊厳の精神 2節　近代思想の展開 3節　人格の尊厳と人倫の思想 4節　社会変革の思想 5節　理性への疑念	【知識・技能】 古今東西の先哲の思想に関する原典の日本語訳などの諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 古今東西の先哲の考え方を手掛かりとして、より広い視野から人間としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	3	5 6		
④	P121～P156 6節　人間観・言語観の問いなおし 7節　他者・自然とのかかわり 4章　国際社会に生きる日本人としての自覚 1節　日本人の精神風土	【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	4	7 8		○
⑤	P157～P198 2節　仏教と日本人の思想形成 3節　儒教と日本人の思想形成 4節　国学の思想 5節　庶民の思想 6節　西洋思想と日本人の近代化	【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	5	9 10		○
⑥	P199～P235 7節　国際社会に生きる日本人の自覚 第2編　現代の諸課題と倫理	【知識・技能】 ①古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に着目して、我が国の風土や伝統、外来思想の受容などを基に、国際社会に生きる日本人としての在り方生き方について思索するための手掛かりとなる日本人に見られる人間観、自然観、宗教観などの特質について、自己との関わりにおいて理解することができる。 ②古来の日本人の心情と考え方や日本の先哲の思想に関する原典や原典の口語訳などの諸資料から、日本人としての在り方生き方に関わる情報を読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 古来の日本人の考え方や日本の先哲の考え方を手掛かりとして、国際社会に主体的に生きる日本人としての在り方生き方について多面的・多角的に考察し、表現することができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラーグWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
政治・経済	政治・経済	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	政経701	政治・経済
副教材等	–	–	–

学習目標

社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)社会の在り方に関わる現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から、社会の在り方に関わる情報を適切かつ効率的に調べまとめる技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる考え方や政治・経済に関する概念や理論などを活用して、現実社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指摘にして議論し公正に判断して、合意形成や社会参画に向かう力を身に付けている。【思考・判断・表現力】
(3)よりよい社会の実現のために現実社会の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、我が国及び国際社会において国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たそうとする自覚を深めている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」の伸長をはかる。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P4～P79 第1編　現代日本の政治と経済 第1章　現代日本の政治 1節　民主政治の基本原理 2節　日本国憲法の基本原理 3節　日本の政治機構 4節　現代政治の特質と課題	P119～P203 第2章　現代日本の経済 3節　日本経済の発展と現状 4節　福祉社会と日本経済の課題 第3章　現代日本の諸課題 第2編　グローバル化する国際社会 第1章　現代の国際政治

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P4～P47 第1編　現代日本の政治と経済 第1章　現代日本の政治 1節　民主政治の基本原理 2節　日本国憲法の基本原理	【知識・技能】 政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	1	1 2	○	
②	P48～P79 3節　日本の政治機構 4節　現代政治の特質と課題	【知識・技能】 ①政治と法の意義と機能、基本的人権の保障と法の支配、権利と義務との関係、議会制民主主義、地方自治について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代日本の政治に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効率的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①民主政治の本質を基に、日本国憲法と現代政治の在り方との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	2	3 4	○	
③	P80～P118 第2章　現代日本の経済 1節　現代の資本主義経済 2節　現代経済のしくみ	【知識・技能】 経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通した経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	3	5 6		
④	P119～P155 3節　日本経済の発展と現状 4節　福祉社会と日本経済の課題	【知識・技能】 ①経済活動と市場、経済主体と経済循環、国民経済の大きさと経済成長、物価と景気変動、財政の働きと仕組み及び租税などの意義、金融の働きと仕組みについて、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代日本の経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効率的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①経済活動と福祉の向上との関連について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②市場経済の機能と限界、持続可能な財政及び租税の在り方、金融を通した経済活動の活性化について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	4	7 8		○
⑤	P156～P203 第3章　現代日本の諸課題 第2編　グローバル化する国際社会 第1章　現代の国際政治	【知識・技能】 国際社会の変遷、人権、国家主権、領土(領海、領空を含む。)などに関する国際法の意義、国際連合をはじめとする国際機構の役割、我が国の安全保障と防衛、国際貢献について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 ①国際社会の特質や国際紛争の諸要因を基に、国際法の果たす役割について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	5	9 10		○
⑥	P204～P254 第2章　現代の国際経済 第3章　国際社会の諸課題	【知識・技能】 ①貿易の現状と意義、為替相場の変動、国民経済と国際収支、国際協調の必要性や国際経済機関の役割について、現実社会の諸事象を通して理解を深めることができる。 ②現代の国際政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効率的に収集し、読み取る技能を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①相互依存関係が深まる国際経済の特質について多面的・多角的に考察し、表現することができる。 ②国際経済において果たすことが求められる日本の役割について多面的・多角的に考察、構想し、表現することができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学	数学Ⅰ	3	9	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
6	3	0	3

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	702	数学Ⅰ Standard
副教材等	–	–	–

学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会 の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1章　数と式 1節　式の計算 2節　実数 3節　1次不等式	3章　2次関数 2節　2次方程式と2次不等式 4章　図形と計量 1節　鋭角の三角比 2節　三角比の拡張

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	1章　数と式 1節　式の計算	・二次の乗法公式及び因数分解の公式の理解を深めることができる。【知識・技能】 ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	1章　数と式 2節　実数 3節　1次不等式	・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。【知識・技能】 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、一次不等式の解を求めることができる。【知識・技能】 ・不等式の性質を基に一次不等式を解く方法を考察することができる。【思考・判断・表現】 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	2章　集合と論証 1節　集合 2節　命題と論証	・集合と命題に関する基本的な概念を理解することができる。【知識・技能】 ・集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	3章　2次関数 1節　2次関数とそのグラフ	・二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。【知識・技能】 ・二次関数の最大値や最小値を求めることができる。【知識・技能】 ・二次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		
⑤	3章　2次関数 2節　2次方程式と2次不等式	・二次方程式の解と二次関数のグラフとの関係について理解することができる。また、二次不等式の解と二次関数のグラフとの関係について理解し、二次関数のグラフを用いて二次不等式の解を求めることができる。【知識・技能】 ・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	4章　図形と計量 1節　鋭角の三角比	・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解することができる。【知識・技能】 ・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		○
⑦	4章　図形と計量 2節　三角比の拡張	・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解し、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解することができる。【知識・技能】 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。【思考・判断・表現】	⑦	13・14		○
⑧	4章　図形と計量 3節　三角形への応用	・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。【知識・技能】 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。【思考・判断・表現】	⑧	15・16		
⑨	5章　データの分析 1節　データの分析 2節　データの分析の応用 3節　仮説検定	・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解することができる。【知識・技能】 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。【知識・技能】 ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。【思考・判断・表現】 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。【思考・判断・表現】 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解することができる。【知識・技能】 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。【思考・判断・表現】	⑨	17・18		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学	数学Ⅱ	4	12	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	数Ⅱ702	数学Ⅱ Standard
副教材等	–	–	–

学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)数の範囲やその性質に着目し、等式や不等式が成り立つことなどについて論理的に考察する力、座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、方程式を用いて図形を簡潔・明瞭・的確に表現したり、図形の性質を論理的に考察したりする力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を数学的に考察する力、関数の局所的な変化に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P8～P67 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算　2節 2次方程式 3節 高次方程式　4節 式と証明	P118～P176 3章 三角関数 1節 三角関数　2節 加法定理 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P10～P23 1章 方程式・式と証明 1節 多項式・分数式の計算	【知識・技能】 ①三次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をすることができる。 ②多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算をすることができる。 【思考・判断・表現】 ①式の計算の方法を既に学習した数や式の計算と関連付け多面的に考察することができる。	1	1 2	○	
②	P24～P39 1章 方程式・式の証明 2節 2次方程式	【知識・技能】 ①数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算をすることができる。 ②二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、方程式を問題解決に活用することができる。	2	3 4	○	
③	P40～P62 1章 方程式・式の証明 3節 高次方程式 4節 式と証明	【知識・技能】 ①因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いてその解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明することができる。	3	5 6	○	
④	P70～P89 2章 図形と方程式 1節 点と直線	【知識・技能】 ①座標を用いて、平面上の線分を内分する点、外分する点の位置や二点間の距離を表すことができる。 【思考・判断・表現】 ①座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、それを方程式を用いて表現し、図形の性質や位置関係について考察することができる。	4	7 8		
⑤	P90～P102 2章 図形と方程式 2節 円	【知識・技能】 ①座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。 【思考・判断・表現】 ①平面上の円を、2次方程式を用いて表現し、円と直線の位置関係について考察することができる。	5	9 10		
⑥	P103～P113 2章 図形と方程式 3節 軌跡と領域	【知識・技能】 ①軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。 ②簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりすることができる。 【思考・判断・表現】 ①数量と図形との関係などに着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、コンピュータなどの情報機器を用いて軌跡や不等式の表す領域を座標平面上に表すなどして、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	6	11 12		
⑦	P120～P144 3章 三角関数 1節 三角関数	【知識・技能】 ①角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解することができる。 ②三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 ③三角関数の相互関係などの基本的な性質を理解すること。 【思考・判断・表現】 ①三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。	7	13 14		○
⑧	P145～P155 3章 三角関数 2節 加法定理	【知識・技能】 ①三角関数の加法定理や 2 倍角の公式、三角関数の合成について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①三角関数に関する様々な性質について考察するとともに、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。 ②二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	8	15 16		○
⑨	P162～P176 4章 指数関数・対数関数 1節 指数関数	【知識・技能】 ①指数を正の整数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて数や式の計算をすることができる。 ②指数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①(ア)指数と対数を相互に関連付けて考察すること。 (イ)指数関数及び対数関数のそれぞグラフの関係について、多面的に考察すること。 (ウ)二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	9	17 18		○
⑩	P177～P192 4章 指数関数・対数関数 2節 対数関数	【知識・技能】 ①対数の意味とその基本的な性質について理解し、簡単な対数の計算をすることができる。 ②対数関数の値の変化やグラフの特徴について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①対数関数の式とグラフの関係について、多面的に考察することができる。 ②二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。	10	19 20		
⑪	P200～P226 5章 微分と積分 1節 微分の考え	【知識・技能】 ①微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の導関数を求めることができる。 ②導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形をかく方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①関数とその導関数との関係について考察することができる。 ②関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすること。	11	21 22		
⑫	P227～P247 5章 微分と積分 2節 積分の考え	【知識・技能】 ①不定積分及び定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線や関数のグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察すること。	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラーWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学	数学A	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	702	数学A Standard
副教材等	–	–	–

学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとするとともに、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしたり、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1章　場合の数と確率 1節　集合と場合の数 2節　確率とその基本性質	2章　図形の性質 1節　三角形と比 2節　円の性質 3節　空間図形

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	1章　場合の数と確率 1節　集合と場合の数	・集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解することができる。【知識・技能】 ・具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。【知識・技能】 ・事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	1章　場合の数と確率 2節　確率とその基本性質	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。【知識・技能】 ・確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	1章　場合の数と確率 3節　いろいろな確率	・独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。【知識・技能】 ・条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。【知識・技能】 ・確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	2章　図形の性質 1節　三角形と比	・三角形に関する基本的な性質について理解することができる。【知識・技能】 ・図形の構成要素間の関係や既に学習した図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	2章　図形の性質 2節　円の性質 3節　空間図形	・円に関する基本的な性質について理解することができる。【知識・技能】 ・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。【知識・技能】 ・コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	3章　数学と人間の活動 1節　数える 2節　はかる 3節　遊ぶ	・数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解することができる。【知識・技能】 ・数学史的な話題、数理的なゲームやパズルなどを通して、数学と文化との関わりについての理解を深めることができる。【知識・技能】 ・数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。【思考・判断・表現】 ・パズルなどに数学的な要素を見いだし、目的に応じて数学を活用して考察することができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
数学	数学B	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	数B702	数学B Standard
副教材等	–	–	–

学習目標

数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)数列、統計的な推測についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と社会生活の関わりについて認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。【知識・技能】
(2)離散的な変化の規則性に着目し、事象を数学的に表現し考察する力、確率分布や標本分布の性質に着目し、母集団の傾向を推測し判断したり、標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力、日常の事象や社会の事象を数学化し、問題を解決したり、解決の過程や結果を振り返って考察したりする力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成を目指す。

定期試験範囲

一学期末試験	学年未試験
P8～P57 1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列 3節 漸化式と数学的帰納法	P82～P130 2章 統計的な推測 3節 正規分布 4節 統計的な推測 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 2節 関数モデル 3節 確率モデル

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P10～P40 1章 数列 1節 数列 2節 いろいろな数列	【知識・技能】 ①等差数列と等比数列について理解し、それらの一般項や和を求めることができる。 ②いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①事象から離散的な変化を見いだし、それらの変化の規則性を数学的に表現し考察することができる。 ②事象の再帰的な関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、数列の考えを問題解決に活用することができることができる。	1	1 2	○	
②	P42～P55 1章 数列 3節 漸化式と数学的帰納法	【知識・技能】 ①漸化式について理解し、事象の変化を漸化式で表したり、簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。 ②数学的帰納法について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①自然数の性質などを見いだし、それらを数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察することができる。	2	3 4	○	
③	P60～P81 2章 統計的な推測 1節 標本調査 2節 確率分布	【知識・技能】 ①標本調査の考え方について理解を深めることができる。 ②確率変数と確率分布について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①確率分布や標本分布の特徴を、確率変数の平均、分散、標準偏差などを用いて考察することができる。	3	5 6		
④	P82～P109 2章 統計的な推測 3節 正規分布 4節 統計的な推測	【知識・技能】 ①二項分布と正規分布の性質や特徴について理解することができる。 ②正規分布を用いた区間推定及び仮説検定の方法を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて標本調査を設計し、収集したデータを基にコンピュータなどの情報機器を用いて処理するなどして、母集団の特徴や傾向を推測し判断するとともに、標本調査の方法や結果を批判的に考察することができる。	4	7 8		○
⑤	P114～P130 3章 数学と社会生活 1節 数学的モデル化 2節 関数モデル 3節 確率モデル	【知識・技能】 ①社会生活などにおける問題を、数学を活用して解決する意義について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①日常の事象や社会の事象において、数・量・形やそれらの関係に着目し、理想化したり単純化したりして、問題を数学的に表現することができる。 ②数学化した問題の特徴を見いだし、解決することができる。	5	9 10		○
⑥	P131～P140 3章 数学と社会生活 4節 幾何モデル 5節 フェルミ推定	【知識・技能】 ①日常の事象や社会の事象などを数学化し、数理的に問題を解決する方法を知ることができる。 【思考・判断・表現】 ①問題解決の過程や結果の妥当性について批判的に考察することができる。 ②解決過程を振り返り、そこで用いた方法を一般化して、他の事象に活用することができる。	12	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	科学と人間生活	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
8	4	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	104・数研	科人・704	科学と人間生活
副教材等	–	–	–

学習目標

自然の事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、自然の事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)自然と人間生活との関わり及び科学技術と人間生活との関わりについての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身
　につけている。【知識・技能】
(2)観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】
(3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとするとともに、科学に対する興味・関心を高めている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
序編　科学技術の発展 第1編　物質の科学	第3編　光や熱の科学 第4編　宇宙や地球の科学

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	序編　科学技術の発展	・科学技術の発展が今日の人間生活に対してどのように貢献してきたかについて理解している。【知識・技能】 ・科学技術の発展と人間生活との関わりについて科学的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第1編　物質の科学	・身近な材料に関する観察、実験などをおこない、金属やプラスチックの種類、性質及び用途と資源の再利用について、日常生活と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・衣料と食品に関する観察、実験などを行い、身近な衣料材料の性質や用途、食品中の主な成分の性質について、日常生活と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・物質の化学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第2編　生命の科学	・ヒトの生命現象に関する観察、実験などを行い、ヒトの生命現象を人間生活と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・微生物に関する観察、実験などを行い、微生物の働きを人間生活と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・生命の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	第3編　光や熱の科学	・光に関する観察、実験などを行い、光を中心とした電磁波の性質とその利用について、日常生活と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・熱に関する観察、実験などを行い、熱の性質、エネルギーの変換と保存及び有効利用について、日常生活と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・光や熱の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第4編　宇宙や地球の科学	・天体に関する観察、実験などを行い、太陽などの身近に見られる天体の運動や太陽の放射エネルギーについて、人間生活と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・自然景観と自然災害に関する観察、実験などを行い、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、人間生活と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・宇宙や地球の科学について、問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、人間生活と関連付けて、科学的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	終編　これからの科学と人間生活 資料編 将来×サイエンス Newspaper 未来をひらくSCIENCE	・これからの科学と人間生活との関わり方について認識を深めている。【知識・技能】 ・これからの科学と人間生活との関わり方について科学的に考察し表現することができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1 実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2 出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	物理基礎	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	183・第一	物基・709	高等学校 物理基礎
副教材等	–	–	–

学習目標

物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する
基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】
(3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第Ⅰ章 第1節 物体の運動 第2節 力と運動の法則	第Ⅱ章 熱とエネルギー 第Ⅲ章 第1節 波の性質 第2節 音波

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第Ⅰ章 第1節 物体の運動 (教科書p.12～49)	・身近な物理現象について、物理量の測定と表し方、分析の手法を身に付けている。【知識・技能】 ・物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解することができる。【知識・技能】 ・速度が変化する物体の直線運動に関する実験などを行い、速度と時間との関係を見出して理解することともに、物体が直線運動する場合の加速度を表現することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第Ⅰ章 第2節 力と運動の法則 (教科書p.50～87)	・物体に様々な力が働くことを理解することができる。【知識・技能】 ・物体に働く力のつり合いを理解することができる。【知識・技能】 ・物体が落下する際の運動の特徴及び物体に働く力と運動との関係について理解することができる。【知識・技能】 ・物体に一定の力を加え続けたときの運動に関する実験などを行い、物体の質量、物体に働く力、物体に生じる加速度の関係を見出して理解するとともに、運動の三法則を表現することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第Ⅰ章 第3節 仕事と力学的エネルギー (教科書p.88～113)	・運動エネルギーと位置エネルギーについて、仕事と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・力学的エネルギーに関する実験などを行い、力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連付けて表現することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	第Ⅱ章 熱とエネルギー (教科書p.116～135)	・熱と温度について、原子や分子の熱運動の観点から理解することができる。【知識・技能】 ・熱に関する実験などを行い、熱の移動及び熱と仕事の変換について表現することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第Ⅲ章 第1節 波の性質 第2節 音波 (教科書p.138～191)	・波の性質について、直線状に伝わる場合を理解することができる。【知識・技能】 ・弦の振動、音波の性質を理解することができる。【知識・技能】 ・気柱の共鳴に関する実験などを行い、気柱の共鳴と音源の振動数を関連付けて表現することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	第Ⅳ章 第1節 静電気と電流 第2節 電流と磁場 第3節 エネルギーとその利用 (教科書p.194～241)	・物質によって低効率が異なることを理解することができる。【知識・技能】 ・電気抵抗に関する実験などを行い、同じ物質からなる導体でも長さや断面積によって電気抵抗が異なることを見出して表現することができる。【思考・判断・表現】 ・発電、送電及び電気の利用について、基本的な仕組みを理解することができる。【知識・技能】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	物理	4	12	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
16	9	0	7

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	物理701	物理
副教材等	–	–	–

学習目標

物理的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物理的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けることができる。【知識・技能】
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 物理的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動・2章 剛体のつり合い(P8～P42) ②1編 さまざまな運動 3章 運動量・4章 円運動(P43～P84) ③1編 さまざまな運動 5章 単振動・6章 万有引力(P85～P120)	⑦3編 電気と磁気 1章 電場と電位(P231～P274) ⑧3編 電気と磁気 2章 電流(P275～P302) ⑨3編 電気と磁気 3章 電流と磁場(P303～P326)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	1編 さまざまな運動 1章 平面内の運動・2章 剛体のつり合い (P8～P42)	【知識・技能】 ①速度と加速度の関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②水平投射及び斜方投射された物体の運動を直線運動と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①大きさのある物体のつり合いに関する実験を通して探求し、剛体のつり合い条件について理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。	1	1 2	○	
②	1編 さまざまな運動 3章 運動量・4章 円運動 (P43～P84)	【知識・技能】 ①運動量と力積の関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②円運動をする物体に働く力などについて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①物体の衝突や分裂に関する実験を通して探求し、運動量保存の法則を理解し、規則性や関係性を見出して表現できる。	2	3 4	○	
③	1編 さまざまな運動 5章 単振動・6章 万有引力 (P85～P120)	【知識・技能】 ①単振動に働く力を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②万有引力の法則及び万有引力による物体の運動について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①振り子に関する実験を通して探求し、単振動の規則性を見出して理解するとともに、単振動をする物体の様子を表現できる。 ②惑星の観測に基づいて、惑星の運動に関する法則を理解し、それを説明することができる。	3	5 6	○	
④	1編 さまざまな運動 7章 気体分子の運動 (P121～P158)	【知識・技能】 ①気体分子の運動と圧力との関係について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②気体の内部エネルギーについて、気体分子の運動と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①気体の状態変化に関する実験などを通して探求し、熱、仕事及び内部エネルギーの関係を理解し、気体の状態変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。	4	7 8		
⑤	2編 波 1章 波の伝わり方・2章 音 (P159～P188)	【知識・技能】 ①波の伝わり方・波の干渉と回折について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②音の干渉と回折・ドップラー効果について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①波の表し方について理解し、横波、縦波の波の伝わり方を表現できる。	5	9 10		
⑥	2編 波 3章 光 (P189～P230)	【知識・技能】 ①光の伝わり方・回折と干渉について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①光の回折と干渉に関する実験を通して探求し、光の回折と干渉を光波の性質と関連付けて理解し、規則性や関係性を見いだして表現できる。	6	11 12		
⑦	3編 電気と磁気 1章 電場と電位 (P231～P274)	【知識・技能】 ①電荷が相互に及ぼしあう力について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電界と電位との関係を静電気による位置エネルギーと関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ③コンデンサーの性質を踏まえて、電気容量を電界や電位差と関連付けて理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電荷が相互に及ぼしあう力を理解し、様々な状態の電界を表現できる。	7	13 14		○
⑧	3編 電気と磁気 2章 電流 (P275～P302)	【知識・技能】 ①直列回路における電流・電圧・抵抗の関係を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②並列回路における電流・電圧・抵抗の関係を理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ②電気回路に関する実験を通して探求し、電気回路における規則性や関係性を見出して表現できる。	8	15 16		○
⑨	3編 電気と磁気 3章 電流と磁場 (P303～P326)	【知識・技能】 ①電流がつくる磁界の様子を理解することができる。 ②電流が磁界から受ける力について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電流が磁界から受ける力に関する実験を通して探求し、電流・磁界・力の関係性を見出して表現できる。	9	17 18		○
⑩	3編 電気と磁気 4章 電磁誘導と電磁波 (P327～P372)	【知識・技能】 ①電磁誘導の性質について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電磁波の性質とその利用について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①電磁誘導に関する実験を通して探求し、磁束の変化と誘導起電力の向きや大きさとの関係を見出して表現できる。	10	19 20		
⑪	4編 原子 1章 電子と光 (P373～P394)	【知識・技能】 ①電子の電荷と質量について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②電子や光の粒子性と波動性について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 【思考・判断・表現】 ①電子や光の粒子性に関する実験を通して探求し、電子の粒子性に関する規則性や関係性を見出して表現できる。	11	21 22		
⑫	4編 原子 2章 原子と原子核 終章 (P395～P457)	【知識・技能】 ①原子の構造及びスペクトルと電子のエネルギー準位について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ②原子核の構成、原子核の崩壊及び核反応について理解し、公式を用いて問題を解くことができる。 ③素粒子の存在について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①原子核の崩壊及び核反応の発展性について探究し、エネルギー問題について考え、その結果を表現することができる。	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	化学基礎	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	183・第一	化基・711	高等学校 化学基礎
副教材等	–	–	–

学習目標

物質とその変化に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物質とその変化を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】
(3)物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素 第2節 原子の構造と元素の周期表	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式 第2節 酸と塩基の反応

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第Ⅰ章 物質の構成 第1節 物質の成分と構成元素	・化学と人間生活との関わりについての観察、実験などを通して、物質を対象とする科学である化学の特徴について理解するとともに、実験における基本操作と物質を探究する方法を身に付けている。【思考・判断・表現】 ・粒子の熱運動と温度との関係、粒子の熱運動と物質の三態変化との関係について理解することができる。【知識・技能】	①	1・2	○	
②	第Ⅰ章 物質の構成 第2節 原子の構造と元素の周期表	・原子の構造及び陽子、中性子、電子の性質を理解することができる。【知識・技能】 ・元素の周期律及び原子の電子配置と周期表の族や周期との関係について理解することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第Ⅰ章 物質の構成 第3節 物質と化学結合	・イオンの生成を電子配置と関連付けて理解するとともに、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解している。【知識・技能】 ・共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解することができる。【知識・技能】 ・金属の性質及び金属結合を理解することができる。【知識・技能】 ・物質の構成について、観察、実験などを通して探究し、物質の構成における規則性や関係性を見出して表現することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	第Ⅱ章 物質の変化 第1節 物質量と化学反応式	・物質量と化学反応式、化学反応について、物質量の粒子数、質量、気体の体積との関係について理解することができる。【知識・技能】 ・化学反応式が化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを見いだして理解することができる。【知識・技能】 ・物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いたして表現することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第Ⅱ章 物質の変化 第2節 酸と塩基の反応	・酸や塩基に関する実験などを行い、酸と塩基の性質及び中和反応に関与する物質の量的関係を理解することができる。【知識・技能】 ・物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いたして表現することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	第Ⅱ章 物質の変化 第3節 酸化還元反応	・酸化と還元が電子の授受によることを理解することができる。【知識・技能】 ・物質の変化とその利用について、観察、実験などを通して探究し、物質の変化における規則性や関係性を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	化学	4	12	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
16	9	0	7

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社	化学708	高等学校 化学
副教材等	–	–	–

学習目標

化学的な事物・現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、化学的な事物・現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技術を身に付けることができる。【知識・技能】
(2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)化学的な事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①第Ⅰ章　物質の状態　第1節　物質の状態変化(P6～P19)／第2節　気体の性質(P20～P37) ②第Ⅰ章　物質の状態　第3節　固体の構造(P38～P53)／第4節　溶液の性質(P54～P83) ③第Ⅱ章　物質の変化と平衡　第1節　化学反応と熱・光(P86～P109)	⑦第Ⅲ章　無機物質　第1節　周期表と元素の性質(P194～P199)／第2節　非金属元素(P200～P219) ⑧第Ⅲ章　無機物質　第3節　典型金属元素(P220～P233)／第4節　遷移元素(P234～P259) ⑨第Ⅳ章　有機化合物　第1節　有機化合物の特徴(P262～P271)／第2節　脂肪族炭化水素(P272～P289)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第Ⅰ章　物質の状態 第1節　物質の状態変化(P6～P19) 第2節　気体の性質(P20～P37)	【知識・技能】 ①物質の沸点、融点を分子間力や化学結合と関連付けて理解している。また、状態変化に伴うエネルギーの出入り及び状態間の平衡と温度や圧力との関係について理解している。 ②気体の体積と圧力や温度との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の状態について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化における規則性や関係性を見いだして表現できる。	1	1 2	○	
②	第Ⅰ章　物質の状態 第3節　固体の構造(P38～P53) 第4節　溶液の性質(P54～P83)	【知識・技能】 ①結晶格子の概念及び結晶の構造を理解している。 ②溶解の仕組みを理解している。また、溶解度を溶解平衡と関連付けて理解している。 ③溶液とその性質に関する実験などを行い、身近な現象を通して溶媒と溶液の性質の違いを理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の状態と平衡について、観察、実験などを通して探究し、物質の状態とその変化、溶液と平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。	2	3 4	○	
③	第Ⅱ章　物質の変化と平衡 第1節　化学反応と熱・光(P86～P109)	【知識・技能】 ①化学反応と熱や光に関する実験などを行い、化学反応における熱及び光の発生や吸収は、反応の前後における物質のもつ化学エネルギーの差から生じることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現できる。	3	5 6	○	
④	第Ⅱ章　物質の変化と平衡 第2節　電池・電気分解(P110～P129)	【知識・技能】 ①電気エネルギーを取り出す電池の仕組みを酸化還元反応と関連付けて理解している。 ②外部から加えた電気エネルギーによって電気分解が起こることを、酸化還元反応と関連付けて理解している。また、その反応に関らした物質の変化量と電気量との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化について、観察、実験などを通して探究し、化学反応とエネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現できる。	4	7 8		
⑤	第Ⅱ章　物質の変化と平衡 第3節　化学反応の速さ(P130～P147) 第4節　化学平衡(P148～P165)	【知識・技能】 ①反応速度の表し方及び反応速度に影響を与える要因を理解している。 ②可逆反応、化学平衡及び化学平衡の移動を理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。	5	9 10		
⑥	第Ⅱ章　物質の変化と平衡 第5節　電離平衡(P166～P191)	【知識・技能】 ①水のイオン積、pH及び弱酸や弱塩基の電離平衡について理解している。 【思考・判断・表現】 ①物質の変化と平衡について、観察、実験などを通して探究し、化学反応と化学平衡における規則性や関係性を見いだして表現できる。	6	11 12		
⑦	第Ⅲ章　無機物質 第1節　周期表と元素の性質(P194～P199) 第2節　非金属元素(P200～P219)	【知識・技能】 ①典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解している。 【思考・判断・表現】 ①無機物質について、観察、実験などを通して探究し、典型元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	7	13 14		○
⑧	第Ⅲ章　無機物質 第3節　典型金属元素(P220～P233) 第4節　遷移元素(P234～P259)	【知識・技能】 ①典型元素に関する実験などを行い、典型元素の性質が周期表に基づいて整理できることを理解している。 ②遷移元素の単体と化合物の性質を理解している。 【思考・判断・表現】 ①無機物質について観察、実験などを通して探究し、典型元素、遷移元素の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	8	15 16		○
⑨	第Ⅳ章　有機化合物 第1節　有機化合物の特徴(P262～P271) 第2節　脂肪族炭化水素(P272～P289)	【知識・技能】 ①脂肪族炭化水素の性質や反応を構造と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ①有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	9	17 18		○
⑩	第Ⅳ章　有機化合物 第3節　酸素を含む脂肪族化合物(P290～P315) 第4節　芳香族化合物(P316～P343)	【知識・技能】 ①官能基をもつ脂肪族化合物に関する実験などを行い、その構造、性質及び反応について理解している。 ②芳香族化合物の構造、性質及び反応について理解している。 【思考・判断・表現】 ①有機化合物について、観察、実験などを通して探究し、有機化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	10	19 20		
⑪	第Ⅴ章　高分子化合物 第1節　高分子化合物(P346～P347) 第2節　天然高分子化合物(P348～P383)	【知識・技能】 ①天然高分子化合物の構造や性質について理解している。 【思考・判断・表現】 ①高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	11	21 22		
⑫	第Ⅴ章　高分子化合物 第3節　合成高分子化合物(P384～P405)	【知識・技能】 ①合成高分子化合物の構造、性質及び合成について理解している。 【思考・判断・表現】 ①高分子化合物について、観察、実験などを通して探究し、高分子化合物の性質における規則性や関係性を見いだして表現できる。	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	生物基礎	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	183・第一	生基・710	高等学校 生物基礎
副教材等	–	–	–

学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究しようとしている。【思考・判断・表現】
(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとするとともに、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
また、以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
顕微鏡観察(教科書p.14～17) 第1編第1章(教科書p.18～53) 第1編第2章(教科書p.54～91)	第2編第3章第2節(p.116～141) 第3編第4章(p.142～183)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	顕微鏡観察(教科書p.14～17) 第1編第1章(教科書p.18～53)	・様々な生物の比較に基づいて、生物は多様でありながら共通性をもっていることを見いだして理解するとともに、生物の共通性と起源の共有を関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・生物とエネルギーに関する資料に基づいて、生命活動にエネルギーが必要であることを理解するとともに、光合成や呼吸などの代謝と ATP を関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第1編第2章(教科書p.54～91)	・DNA の構造に関する資料に基づいて、遺伝情報を担う物質としての DNA の特徴を見いだして理解するとともに、塩基の相補性と DNA の複製を関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・遺伝情報の発現に関する資料に基づいて、DNA の塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだして理解することができる。【知識・技能】 ・生物の特徴について、観察、実験などを通して探究し、多様な生物がもつ共通の特徴を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第2編第3章第1節(p.92～115)	・体の調節に関する観察、実験などを行い、体内での情報の伝達が体の調節に関係していることを見いだして理解することができる。【思考・判断・表現】 ・ 体内環境の維持の仕組みに関する資料に基づいて、体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を見いだして理解するとともに、体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	第2編第3章第2節(p.116～141)	・免疫に関する資料に基づいて、異物を排除する防御機構が備わっていることを見いだして理解することができる。【知識・技能】 ・ヒトの体の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節及び免疫などの特徴を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第3編第4章(p.142～183)	・植生の遷移に関する資料に基づいて、遷移の要因を見いだして理解するとともに、植生の遷移をバイオームと関連付けて理解することができる。【知識・技能】 ・生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	第3編第5章(p.184～217)	・生態系と生物の多様性に関する観察、実験などを行い、生態系における生物の種多様性を見いだして理解するとともに、生物の種多様性と生物間の関係性とを関連付けて理解することができる。【思考・判断・表現】 ・生態系のバランスに関する資料に基づいて、生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解するとともに、生態系の保全の重要性を認識することができる。【知識・技能】 ・生物の多様性と生態系について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見いだして表現することができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	生物	4	12	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
16	9	0	7

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社	生物705	高等学校 生物
副教材等	–	–	–

学習目標

生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
また、以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。

一学期末試験	学年末試験
第1編第1章(教科書p.14～59) 第1編第2章(教科書p.60～89) 第2編第3章(教科書p.90～123)	第3編第7章(教科書p.208～233) 第4編第8章第1節①～④(教科書p.234～257) 第4編第8章1節⑤～⑥、第2節(教科書p.258～283)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1編 第1章　生物の進化(教科書p.14～59)	・生命の起源と細胞の進化に関する資料に基づいて、生命の起源に関する考えを理解するとともに、細胞の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・遺伝子の変化に関する資料に基づいて、突然変異と生物の形質の変化との関係を見いだして理解している。【知識・技能】 ・交配実験の結果などの資料に基づいて、遺伝子の組合せが変化することを見いだして理解している。【知識・技能】 ・進化の仕組みに関する観察、実験などを行い、遺伝子頻度が変化する要因を見いだして科学的に探究している。【思考・判断・表現】	1	1 2	○	
②	第1編 第2章　生物の系統と進化(教科書p.60～89)	・生物の遺伝情報に関する資料に基づいて、生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を見いだして理解している。【知識・技能】 ・霊長類に関する資料に基づいて、人類の系統と進化を形態的特徴などと関連付けて理解している。【知識・技能】 ・系統と進化に関する観察、実験などを行い、分類階級や分子系統から見た生物の進化について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	2	3 4	○	
③	第2編 第3章　細胞と分子(教科書p.90～123)	・生体物質と細胞に関する資料に基づいて、細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・生命現象とタンパク質に関する観察、実験などを行い、タンパク質の機能を生命現象と関連付けて科学的に探究している。【思考・判断・表現】	3	5 6	○	
④	第2編 第4章　代謝(教科書p.124～157)	・呼吸に関する資料に基づいて、呼吸をエネルギーの流れと関連付けて理解している。【知識・技能】 ・光合成に関する資料に基づいて、光合成をエネルギーの流れと関連付けて理解している。【知識・技能】 ・光合成に関する観察、実験などを行い、植物の光合成色素の色とRf値、光合成色素の種類の関係について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	4	7 8		
⑤	第3編 第5章　遺伝情報とその発現 第6章　遺伝子の発現調節と発生 第1節(教科書p.158～181)	・ DNA の複製に関する資料に基づいて、DNA の複製の仕組みを理解すること。また、遺伝子発現に関する資料に基づいて、遺伝子の発現の仕組みを理解している。【知識・技能】 ・遺伝子の発現調節に関する資料に基づいて、遺伝子の発現が調節されていることを見いだして理解すること。また、転写の調節をそれに関わるタンパク質と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・遺伝情報とその発現に関する観察、実験などを行い、セントラルドグマやその仕組みについて科学的に探究している。【思考・判断・表現】	5	9 10		
⑥	第3編 第6章　遺伝子の発現調節と発生 第2節(教科書p.182～207)	・発生に関わる遺伝子の発現に関する資料に基づいて、発生の過程における分化を遺伝子発現の調節と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・ウニなど動物の授精に関する観察、実験などを行い、動物の授精条件や発生過程について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	6	11 12		
⑦	第3編 第7章　遺伝子を扱う技術とその応用(教科書p.208～233)	・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解している。【知識・技能】 ・細胞への遺伝子導入に関する観察、実験などを行い、遺伝子の組み換えやその発現について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	7	13 14		○
⑧	第4編 第8章　動物の反応と行動 第1節①～④(教科書p.234～257)	・刺激の受容と反応に関する資料に基づいて、外界の刺激を受容し神経系を介して反応する仕組みを、関与する細胞の特性と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・視覚器に関する観察、実験などを行い、ヒトの盲班の形や入光量・遠近の調節について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	8	15 16		○
⑨	第4編 第8章　動物の反応と行動 1節⑤～⑥、第2節(教科書p.258～283)	・動物の行動に関する資料に基づいて、行動を神経系の働きと関連付けて理解している。【知識・技能】 ・動物の行動に関する観察、実験などを行い、習得的行動と学習についてその原理を科学的に探究している。【思考・判断・表現】	9	17 18		○
⑩	第4編 第9章　植物の成長と環境応答(教科書p.284～321)	・植物の環境応答に関する観察、実験などを行い、植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを見いだして科学的に探究している。【思考・判断・表現】 ・植物の環境応答に関する資料に基づいて、刺激に対する応答やその方向性について理解している。【知識・技術】	10	19 20		
⑪	第5編 第10章　生態系のしくみと人間生活の関わり 第1節(教科書p.322～351)	・個体群内の相互作用に関する観察、実験などを行い、個体群が維持される仕組みや個体間の関係性を見いだして科学的に探究している。【思考・判断・表現】 ・個体群間の相互作用に関する資料に基づいて、生物群集が維持される仕組みや個体群間の関係性を見いだして理解している。【知識・技能】	11	21 22		
⑫	第5編 第10章　生態系のしくみと人間生活の関わり 第2節 第3節(教科書p.352～381)	・生態系の物質生産と物質循環に関する資料に基づいて、生態系における物質生産及びエネルギーの移動と生態系での物質循環とを関連付けて理解している。【知識・技能】 ・生態系と人間生活に関する資料に基づいて、人間生活が生態系に及ぼす影響を見いだして理解している。【知識・技能】 ・草本植物群集に関する観察、実験などを行い、陸上条件による草本植物の生産構造の違いについて科学的に探究している。【思考・判断・表現】	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理科	地学基礎	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	地基701	地学基礎
副教材等	–	–	–

学習目標

地球や地球を取り巻く環境に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、地球や地球を取り巻く環境を科学的に探究するために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 日常生活や社会との関連を図りながら、地球や地球を取り巻く環境について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 地球や地球を取り巻く環境に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、自然環境の保全に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
また、以上(1)から(3)を踏まえ、生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成することを目指す。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1編　私たちの大地(P14～P49) 2編　私たちの空と海(P52～P73)	4編　私たちの地球の歴史(P98～P127) 5編　地球に生きる私たち(P130～P147)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	1編　私たちの大地 1章　大地とその動き 2章　火山活動と地震 (P14～P49)	・地球の形や大きさに関する観察、実験などを行い、地球の形の特徴と大きさを見いだして科学的に探究している。【思考・判断・表現】 ・地球内部の層構造とその状態を理解している。【知識・技能】 ・プレートの分布と運動について理解しているとともに、大地形の形成と地質構造をプレートの運動と関連付けて理解している。【知識・技能】 ・　火山活動や地震に関する資料に基づいて、火山活動と地震の発生の仕組みをプレートの運動と関連付けて理解している。【知識・技能】	1	1 2	○	
②	2編　私たちの空と海 1章　地球の熱収支 2章　大気と海水の運動 (P52～P73)	・気圧や気温の鉛直方向の変化などについての資料に基づいて、大気の構造の特徴を見いだして理解しているとともに、太陽放射の受熱量と地球放射の放熱量がつり合っていることを理解している。【知識・技能】 ・大気と海水の運動に関する資料に基づいて、大気と海洋の大循環について理解しているとともに、緯度により太陽放射の受熱量が異なることなどから、地球規模で熱が輸送されていることを見いだして理解している。【知識・技能】 ・地球の熱収支に関する観察、実験などを行い、高度による地球大気の気圧と温度変化の関係及び緯度による太陽放射エネルギーの違いについて科学的に探究している。【思考・判断・表現】	2	3 4	○	
③	3編　私たちの宇宙の誕生 1章　宇宙の構造と進化 (P76～P95)	・宇宙の誕生、太陽系の誕生と生命を生み出す条件を備えた地球の特徴を理解している。【知識・技能】 ・惑星形成に関する観察などを行い、太陽系の形成過程や惑星ごとの特徴について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	3	5 6		
④	4編　私たちの地球の歴史 1章　地層と化石の観察 2章　古生物の変遷と地球環境 (P98～P127)	・地層や化石に関する観察などを行い、地質時代が古生物の変遷に基づいて区分されることを科学的に探究している。【思考・判断・表現】 ・地球環境の変化に関する資料に基づいて、大気の変化と生命活動の相互の関わりを見いだして理解している。 【知識・技能】	4	7 8		○
⑤	5編　地球に生きる私たち 1章　日本の自然の恵みと防災 (P130～P147)	・日本の自然環境を理解し、それらがもたらす恩恵や災害など自然環境と人間生活との関わりについて認識している。【知識・技能】 ・自然環境の観察などを行い、得られる恩恵や災害などの関係について科学的に探究している。【思考・判断・表現】	5	9 10		○
⑥	終1章　地球環境の考え方 終2章　自然環境の変動 終3章　これからの地球環境 (P148～P169)	・地球規模の自然環境に関する資料に基づいて、地球環境の変化を見いだしてその仕組みを理解しているとともに、それらの現象と人間生活との関わりについて認識している。 【知識・技能】 ・地球環境に関する観察、実験などを行い、人間活動と環境変動についての関係を科学的に探究している。【思考・判断・表現】	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育	体育Ⅰ	2	2	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
10	6	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	50・大修館	保体701	現代高等保健体育
副教材等	–	–	–

学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習課程を通して、体と心を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次の通り育成する。
(1)スポーツの始まりと変遷や、現代のスポーツが社会や環境にもたらす大きな影響を理解し、スポーツから得られる恩恵とスポーツについての課題の双方から自己の関わり方を考え深めることができる。**【知識・技能】**
(2)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し、判断するとともに、他者に伝えることができる。**【思考・判断・表現】**
(3)スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解することや、課題を発見するために意見交換などの学習に自ら進んで取り組もうとしている。**【主体的に学習に取り組む態度】**
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1単元　スポーツの発祥と発展(教科書P136～147) 1. スポーツの始まりと変遷　2. 文化としてのスポーツ 3. オリンピックとパラリオンピックの意義	1単元　スポーツの発祥と発展(教科書P148～156) 4. スポーツが経済に及ぼす効果　5. スポーツの高潔さとドーピング 6. スポーツと環境

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	スポーツの発祥と発展①	・スポーツの始まりや変遷について理解し、スポーツの発展が人々に恩恵をもたらしている一方で、様々な課題も生じていることを理解することができる。**【知識・技能】** ・運動と比較し文化としてのスポーツの特徴と多様なかかわり方によるスポーツの変容について説明することができる。**【思考・判断・表現】** ・近代オリンピックの成り立ちについて理解し、オリンピックとパラリンピックの価値や意義、理念について理解を深めることができる。**【知識・技能】**	①	1・2	○	-
②	スポーツの発祥と発展②	・スポーツが経済活動でどのように重要な役割を担っているか、スポーツにかかわる広範な業種から構成されるスポーツ産業による効果、スポーツイベント等による経済波及効果が経済活動に大きな影響を及ぼしていることを理解することができる。**【知識・技能】** ・スポーツの持つ価値、スポーツが環境や社会にもたらす影響について習得した知識を活用し、スポーツの高潔さを脅かすドーピング等の課題やその要因について理解し、なぜドーピングがスポーツを破壊する行為になるのかを具体的に説明することができる。**【思考・判断・表現】** ・スポーツにかかわる人々の増加に伴う、環境や社会に対する影響について理解することができる。**【知識・技能】** ・スポーツが環境や社会に及ぼす影響について習得した知識を活用し、スポーツが持続可能な発展につながるよりよい解決策を思考し判断することで説明することができる。**【思考・判断・表現】**	②	3・4	-	○

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1　実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2　出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育	体育Ⅱ	2	2	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
10	6	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　　名
教科書	大修館書店	保体701	現代高等保健体育
副教材等	–	–	–

学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しもうとしている。【主体的に取り組む態度】

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
2単元　運動・スポーツの学び方 1.スポーツにおける技能と体力(P158～159) 2.スポーツにおける技術と戦術(P160～161) 3.技能の上達過程と練習(P164～165)	2単元　運動・スポーツの学び方 4.効果的な動きのメカニズム(P168～169) 5.体力トレーニング(P172～175) 6.運動やスポーツでの安全の確保(P176～177)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	2単元　運動・スポーツの学び方 1.スポーツにおける技能と体力(P158～159) 2.スポーツにおける技術と戦術(P160～161) 3.技能の上達過程と練習(P164～165)	【知識・技能】 ①運動・スポーツにおける技能について型や上達課程にみる段階や停滞減少について理解できる ②戦術・作戦・戦略や効果的な練習方法について理解できる 【思考・判断・表現】 ①技能の型の違いやそれぞれの練習のしかた、どのようなステップを経て上達するか説明できる ②技能や体力を高めるときに気を付けるべき点や、ぎのうが上達するとどのような特徴が見られるかをあげることができる	1	1 2	○	
②	2単元　運動・スポーツの学び方 4.効果的な動きのメカニズム(P168～169) 5.体力トレーニング(P172～175) 6.運動やスポーツでの安全の確保(P176～177)	【知識・技能】 ①動きのメカニズムやさまざまなトレーニングの方法について理解できる ②運動・スポーツで起こるけがや事故とその予防について理解できる 【思考・判断・表現】 ①体の動きについてや目的に応じたトレーニングの方法について説明できる ②スポーツ活動中に起きる重大な事故をあげ、発生原因や予防方法を説明できる	2	3 4		○

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育	保健Ⅰ	1	3	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
2	1	0	1

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	大修館	保体701	現代高等保健体育
副教材等	–	–	–

学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
(1)個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝えようとしている。【思考・判断・表現】
(3)生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1単元　現代社会と健康(教科書P6～35) 1. 健康の考え方と成り立ち　2. 私たちの健康のすがた　3. 生活習慣病の予防と回復　4. がんの原因と予防 5. がんの治療と回復　6. 運動と健康　7. 食事と健康　8. 休養・睡眠と健康　9. 喫煙と健康　10. 飲酒と健康 11. 薬物乱用と健康	1単元　現代社会と健康(教科書P36～58) 12. 精神疾患の特徴　13. 精神疾患の予防　14. 精神疾患からの回復　15. 現代の感染症 16. 感染症の予防　17. 性感染症・エイズとその予防　18. 健康に関する意思決定・行動選択 19. 健康に関する環境づくり 2単元　安全な社会生活(教科書P60～74) 1. 事故の現状と発生要因　2. 安全な社会の形成　3. 交通における安全　4. 応急手当の意義とその基本 5. 日常的な応急手当　6. 心肺蘇生法

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	現代社会と健康①	・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていることを理解することができる【知識・技能】 ・がん、脳血管疾患、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病などを取り上げ、これらの生活習慣病などのリスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など調和の取れた健康的な生活を続けることが必要であると理解している【知識・理解】 ・健康は様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解することができる【知識・技能】 ・ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解することができる【思考・判断・表現】 ・生活習慣病などの予防と回復について、習得した知識を基に自他の生活習慣や社会環境を分析し、リスクを軽減するための個人の取組及び社会的な対策に応用して考えることができる【思考・判断・表現】 ・喫煙、飲酒、薬物乱用の防止について、我が国のこれまでの取組を個人への働きかけと社会環境への対策面から分析することができる【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	現代社会と健康②	・感染症は時代や地域によって自然環境や社会環境の影響を受け、発生や流行に違いが見られることを理解できるようにする【知識・技能】 ・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、認知、情動、行動などの不調により、精神活動が不全になった状態であることを理解している【知識・技能】 ・精神疾患の予防と回復について、習得した知識を基に、心身の健康を保ち、不調に早く気付くために必要な個人の取組や社会的な対策を整理することができる【思考・判断・表現】	②	3・4		○
③	安全な社会生活	・事故は、地域、職場、家庭、学校など様々な場面において発生していることや、事故の発生には周りの状況の把握及び判断、行動や心理などの人的要因、気象条件、施設・設備、車両、法令、制度、情報体制などの環境要因などが関連していることを理解できる【知識・技能】 ・適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を防いだり、傷病者の苦痛を緩和したりすることを理解できる【知識・技能】 ・交通安全について、習得した知識を基に、事故につながる危険を予測し回避するための自他や社会の取組を評価することができる【思考・判断・表現】 ・応急手当について、習得した知識や技能を事故や災害で生じる傷害や疾病に関連付けて、悪化防止のための適切な方法に応用することができる【思考・判断・表現】	③	5・6		○

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育	保健Ⅱ	1	3	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
2	1	0	1

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　　名
教科書	大修館書店	保体・701	現代高等保健体育
副教材等	–	–	–

学習目標

保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。
(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊で活力ある生活を営もうとしている。【主体的に取り組む態度】

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
3単元　生涯を通じる健康 1.ライフステージと健康(P76～77)　2.思春期と健康(P78～79) 3.性意識と性行動の選択(P80～81)　4.妊娠・出産と健康(P82～83) 5.避妊法と人工妊娠中絶(P84～85)　6.結婚生活と健康(P88～89) 7.中高年期と健康(P90～91)	3単元　生涯を通じる健康　8.働くことと健康(P92～93)　9.労働災害と健康(P94～95)　10.健康的な職業生活(P96～97)　4単元　健康を支える環境づくり　1.大気汚染と健康(P100～101)　2.水質汚濁、土壌汚染と健康(P102～103)　3.環境と健康にかかわる対策(P104～105)　4.ごみの処理と上下水道の整備(P106～107) 4単元　健康を支える環境づくり　5.食品の安全性(P110～111)　6.食品衛生にかかわる活動(P112～113)　7.保健サービスとその活用(P116～117)　8.医療サービスとその活用(P118～119)　9.医薬品の制度とその活用(P120～121)　10.さまざまな保健活動や社会対策(P124～125)　11.健康に関する環境づくりと社会参加(P126～127)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	3単元　生涯を通じる健康 1.ライフステージと健康(P76～77) 2.思春期と健康(P78～79) 3.性意識と性行動の選択(P80～81) 4.妊娠・出産と健康(P82～83) 5.避妊法と人工妊娠中絶(P84～85) 6.結婚生活と健康(P88～89) 7.中高年期と健康(P90～91)	【知識・技能】 ①思春期における体の変化や家族計画の意義と適切な避妊法について理解できる ②心身の発達と結婚生活、また加齢の変化について理解できる 【思考・判断・表現】 ①性行動の選択についての例や妊娠出産に活用できる母子保健サービスの例をあげることができる ②人工妊娠中絶が及ぼす影響について説明できる	1	1 2	○	
②	3単元　生涯を通じる健康 8.働くことと健康(P92～93) 9.労働災害と健康(P94～95) 10.健康的な職業生活(P96～97) 4単元　健康を支える環境づくり 1.大気汚染と健康(P100～101) 2.水質汚濁、土壌汚染と健康(P102～103) 3.環境と健康にかかわる対策(P104～105) 4.ごみの処理と上下水道の整備(P106～107)	【知識・技能】 ①働くことの意義や労働災害について理解できる ②大気汚染・水質汚濁・土壌汚染の原因と健康影響について理解できる 【思考・判断・表現】 ①労働災害を防止するために必要なことや余暇の意義について説明できる ②複合的な環境汚染の発生のしくみやごみの処理の現状と課題について説明できる	2	3 4		○
③	4単元　健康を支える環境づくり 5.食品の安全性(P110～111) 6.食品衛生にかかわる活動(P112～113) 7.保健サービスとその活用(P116～117) 8.医療サービスとその活用(P118～119) 9.医薬品の制度とその活用(P120～121) 10.さまざまな保健活動や社会対策(P124～125) 11.健康に関する環境づくりと社会参加(P126～127)	【知識・技能】 ①食品の安全性や製造者の役割について理解できる ②保健行政の役割や医療保険の仕組みについて理解できる 【思考・判断・表現】 ①食品の安全性に関する今日的課題について説明できる ②保健サービスの活用の例や行政機関による社会的対策について例をあげて説明できる	3	5 6		○

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術	音楽Ⅰ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	教育出版	音Ⅰ・701	音楽Ⅰ Tutti ＋
副教材等	–	–	–

学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。【思考力・判断力・表現力】
(3) 主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
①楽典(p.46,146,149) ②西洋音楽史 ③日本歌曲を歌おう ④西洋音楽の源流を耳でたどろう ⑤ドイツ歌曲の魅力	①楽典(p.146-148) ②アイルランド民謡に親しもう ③日本音楽史 ④私たちの郷土の音楽 ⑤民謡のいろいろ「会津磐梯山」

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	①楽典(p.46) ②楽典(p.146) ③西洋音楽史(p.108～113) ④日本歌曲を歌おう(p.14～15、149(一部楽典))	・曲想と音楽の構造や歌詞との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように旋律をつくるかについて思いや意図をもつことができる。【思考・判断・表現】	1	1・2	○	
②	①楽典(p.149ページ) ②西洋音楽の源流を耳でたどろう(p.114～117) ③ドイツ歌曲の魅力(p.28～29)	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・音色、旋律、テクスチュア、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。【思考・判断・表現】	2	3・4	○	
③	①声という大切な楽器(p.12ページ) ②世界の声の音楽、楽器の音楽(p.106～107) ③イタリアの民謡や歌曲(p.22～23ページ、147、149(一部楽典))	・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・音色、リズム、旋律、強弱、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。【思考・判断・表現】	3	5・6		
④	①楽典(p.146～148ページ) ②アイルランド民謡に親しもう(p.38ページ、148(一部楽典)	・言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。【思考・判断・表現】	4	7・8		○
⑤	①私たちの郷土の音楽(p.46～47) ②日本音楽史(p.96～99) ③民謡のいろいろ「会津磐梯山」(p.47、49)	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり、我が国や郷土の伝統音楽の種類と特徴について理解している。【知識・技能】 ・音色、速度、旋律、テクスチュア、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴き、自己のイメージをもってどのように歌うかについて思いや意図をもつことができる。【思考・判断・表現】	5	9・10		○
⑥	①ピアノの歩みとその音楽(p.118～119) ②ヴィヴァルディとバロック音楽(p.83、110ページ、149、152(一部楽典) ③ベートーヴェン最後の交響曲(p.124～125、148(一部楽典)	・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり、音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠や音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができる。【思考・判断・表現】	6	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術	美術Ⅰ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
8	4	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	日本文教出版	美Ⅰ702	高校生の美術1
副教材等	–	–	–

学習目標

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができる。【知識・技能】
(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養おうとしている。【主体的に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
報告課題1・2回目 (絵画・彫刻①、②)	報告課題4・5回目 (デザイン①、②)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	絵画・彫刻 ①	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。【思考・判断・表現】 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。【思考・判断・表現】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。【知識・技能】 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	絵画・彫刻 ②	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。【思考・判断・表現】 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。【思考・判断・表現】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。【知識・技能】 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	絵画・彫刻 ③	・自然や自己、生活などを見つめ感じ取ったことや考えたこと、夢や想像などから主題を生成することができる。【思考・判断・表現】 ・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。【思考・判断・表現】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。【知識・技能】 ・表現方法を創意工夫し、主題を追求して創造的に表すことができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	デザイン ①	・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。【思考・判断・表現】 ・デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。【思考・判断・表現】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。【知識・技能】 ・表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	デザイン ②	・目的や条件、美しさなどを考え、主題を生成することができる。【思考・判断・表現】 ・デザインの機能や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。【思考・判断・表現】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かしている。【知識・技能】 ・表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	映像メディア	・感じ取ったことや考えたこと、目的や機能などを基に、映像メディアの特性を生かして主題を生成することができる。【思考・判断・表現】 ・色光や視点、動きなどの映像表現の視覚的な要素の働きについて考え、創造的な表現の構想を練ることができる。【思考・判断・表現】 ・意図に応じて映像メディア機器等の用具の特性を生かしている。【知識・技能】 ・表現方法を創意工夫し、表現の意図を効果的に表すことができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
芸術	書道Ⅰ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
8	4	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	2東書	書Ⅰ701	書道Ⅰ
副教材等	–	–	–

学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の 文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力 の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書 の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとと もに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1 書写から書道へ 2 漢字の書 漢字の成立と変遷　古典に基づく学習　楷書	4 草書 隷書 篆書 5 仮名の書

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	書写から書道へ	・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・目的や用途に即した効果的な表現、楷書と仮名や行書と仮名の調和した線質による表現を身に付けている。【知識・技能】 ・中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。【思考・判断・表現】	1	1･2	○	
②	漢字の書 漢字の成立と変遷　古典に基づく学習 楷書	・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。【知識・技能】 ・漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。【思考・判断・表現】 ・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。【思考・判断・表現】	2	3･4	○	
③	行書	・行書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。【知識・技能】 ・行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。【知識・技能】 ・行書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。【思考・判断・表現】 ・行書の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。【思考・判断・表現】	3	5･6		
④	草書 隷書 篆書	・草書・隷書・篆書の各古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。【知識・技能】 ・草書・隷書・篆書の各古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。【思考・判断・表現】	4	7･8		○
⑤	仮名の書	・日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解している。【知識・技能】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、線質や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・仮名の古典の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫している。【思考・判断・表現】 ・仮名の古典の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。【思考・判断・表現】	5	9･10		○
⑥	漢字仮名交じりの書 篆刻・刻字	・日本の文字と書の伝統と文化、仮名の成立について理解している。【知識・技能】 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。【知識・技能】 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。【思考・判断・表現】	6	11･12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラーWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語	英語コミュニケーションⅠ	3	9	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
12	7	0	5

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	CⅠ701	All Aboard! English Communication Ⅰ
副教材等	–	–	–

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、自分の考えやチームの意見を話すこと[発表]、書くことの五つの領域別の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。
(1)必要な情報を聞き取り、話し手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】
(2)必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやりとりを続けたり、論理性に注意して話して伝え合ったりしようとすることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
(4)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して話して伝えることができる。【知識・技能】
(5)基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して文章を書いて伝えることができる。【知識・技能】
以上を踏まえ、「基礎敢・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
報告課題1・2回目 (Warm-Up ①②③～Lesson 3)	報告課題5・6・7回目 (Lesson 6～Lesson 8)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	Warm-Up ①②③ Pre-Lesson 1・2 Lesson 1	Warm Up①②③:教室で使う表現の理解・辞書の使い方が理解できる。【知識・技能】 Pre-Lesson 1・2:自分の名前・性格・日常の行動などを相手に伝えることができる。(be動詞・一般動詞)【思考・判断・表現】 Lesson 1:自分の考えや好み、その理由などを伝える(過去形)ことができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	Lesson 2 Lesson 3	Lesson2:好きな動物について、考えや好み、理由などを伝え合う(進行形)ことができる。【思考・判断・表現】 Lesson3:自分ができること・できないことについて情報や考えを伝え合う(助動詞)ことができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	Lesson 4	Lesson4:自分が行ってみたい場所やしたいことについて情報や考え、気持ちを伝え合う(to不定詞)ことができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	Lesson 5 Reading 1	Lesson5:将来の夢や先週末に楽しんだことについて、考えや気持ち、情報を伝え合う(動名詞)ことができる。 Reading1:英語で書かれたShort Storiesを読み、それぞれの場面の心情を読み取ることができる。【知識・技能】	④	7・8		
⑤	Lesson 6	Lesson6:好きな絵の紹介とその理由について情報や考え、気持ちを話して伝え合う(受け身)ことができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	Lesson 7	Lesson7:アンネ・フランクについて学び、関心のある人物について自分で調べた事柄を用いて、考えなどを伝え合う(比較表現)ことができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		○
⑦	Lesson 8	Lesson8:ロボットカフェについて学び、ロボットについて自分で調べた事柄を用いて、人の生活を豊かにするロボットのアイディアを提案する(現在完了形)ことができる。【思考・判断・表現】	⑦	13・14		○
⑧	Lesson 9	Lesson9:プラスチックごみによる環境汚染の問題について学び、調べた事柄を整理・理解する。自分で調べた事柄を用いて自分たちにできることを伝え合う(名詞を後ろから説明する分詞)ことができる。【思考・判断・表現】	⑧	15・16		
⑨	Lesson 10 Reading 2	Lesson10:海外の文化や社会を理解する手段について自分で調べた事柄を用いて考えや情報を話して伝え合う(関係代名詞who, which)ことができる。【思考・判断・表現】 Reading2:The Wizard of Ozの内容を読み取り、場面や登場人物の心情を読み取ることができる。【知識・技能】	⑨	17・18		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1 実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2 出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語	英語コミュニケーションⅡ	4	12	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
16	9	0	7	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	CⅡ701	All Aboard! English Communication Ⅱ
副教材等	－	－	－

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】
(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】
(3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
(4)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】
(5)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
Pre-Lesson ～ Lesson3（P8～P41）	Lesson6 ～ Lesson8（P78～P119）

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	(p.8～19) Pre-Lesson My Plans for This Year 今年やってみたいこと Lesson 1 A Colorful Island ブラーノ島	【知識・技能】 ①to不定詞や助動詞willなどを用いられた文の形・意味を理解している。 ②今年やってみたいことなどを、to不定詞や助動詞willなどを用いて、相手に伝える技能を身に付けている。 ③関係代名詞whatの理解をもとに、海外の観光地について学んだり、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて、自分で調べた事柄を用いて、情報や考え、気持ちを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①今年やってみたいことなどを整理して、相手が理解しやすいように伝えている。 ②海外の観光地に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、海外で行ってみたい場所やそこでやりたいことについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考え、気持ちなどを話したり書いたりして伝え合っている。	1	1 2	○	
②	(P20～P29) Lesson 2 With the Beatles サムのリクエスト	【知識・技能】 ①比較表現(more)(the most)を用いた文の形・意味を理解している。また、世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について調べた事柄を整理・理解している。 ②比較表現(more)(the most)の理解をもとに、世代を超えて人気のある音楽バンドについて学んだり、好きな人物について自分で調べた事柄を用いて、理由などを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 世代を超えて人気のある音楽バンドに関して書かれた対話について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな人物について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、好きな理由などを話したり書いたりして伝え合っている。	2	3 4	○	
③	(P30～P41) Lesson 3 Wild Men ワイルドマンの世界	【知識・技能】 ① it を用いた文(It is … (for ～) to ～)(It is … that ～)の形・意味を理解している。また、ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」について学んだり、身近な行事について調べた事柄を整理・理解している。 ②it を用いた文(It is … (for ～) to ～)(It is … that ～)の理解をもとに、ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」について学んだり、身近な行事について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ヨーロッパの国々の祭りに登場する「ワイルドマン」に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、身近な行事について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	3	5 6	○	
④	(P42～P55) Lesson 4 Little Hero ハチドリのしずく	【知識・技能】 ①間接疑問文の形・意味を理解している。また、ハチドリやハチドリを主人公にした物語について学んだり、好きな物語について調べた事柄を整理・理解している。 ②間接疑問文の理解をもとに、ハチドリやハチドリを主人公にした物語について学んだり、自分で調べた事柄を用いて、考えや理由などを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ハチドリを紹介する記事とハチドリを主人公にして書かれた物語の文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、好きな物語について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや理由などを話したり書いたりして伝え合っている。	4	7 8		
⑤	(P56～P69) Lesson 5 Special Makeup in Kabuki 歌舞伎メイクの物語	【知識・技能】 ①to不定詞を含む表現を用いた文の形・意味を理解している。また、歌舞伎と隈取について学んだり、日本の伝統文化について調べた事柄を整理・理解している。 ②to不定詞を含む表現の理解をもとに、歌舞伎と隈取について学んだり、日本の伝統文化について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 歌舞伎と隈取について解説する歌舞伎教室の音声ガイドの文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、日本の伝統文化について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	5	9 10		
⑥	(P70～P77) Reading 1 Mujina	【知識・技能】 ①英語で書かれたMujinaの内容を理解している。 ②英語で書かれたMujinaの内容を読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 英語で書かれたMujinaの内容に関する問いに答えている。また、英語で書かれたMujinaを、情景や登場人物の心情が、聞いている相手に伝わりやすいように読む要点を捉えている。	6	11 12		
⑦	(p.78～91) Lesson 6 Seeds for Future Generations 伝統野菜を未来につなぐ	【知識・技能】 ①動詞の目的語になる if 節を用いた文の形・意味を理解している。また、京野菜について学んだり、京野菜のポスターに書かれた事柄や地元の有名な場所やものについて調べた事柄を整理・理解している。 ②動詞の目的語になる if 節の理解をもとに、京野菜について学んだり、地元の有名な場所やものについて自分で調べた事柄を用いて、地元の有名な場所やものについて紹介するポスターを作成して、考えや情報などを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 伝統野菜に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、地元の有名な場所やものについて、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、考えや情報などを話したり書いたりして伝え合っている。	7	13 14		○
⑧	(p.92～105) Lesson 7 Over the Wall アートで世界をつなぐ	【知識・技能】 ①関係副詞where、whenを用いた文の形・意味を理解している。また、世界中で壁面を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について調べた事柄を整理・理解している。 ②関係副詞where、whenの理解をもとに、世界中で壁面を描く活動について学んだり、外国の人々と交流する方法について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 世界中で壁面を描く活動に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、外国の人々と交流する方法について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	8	15 16		○
⑨	(p.106～119) Lesson 8 Inspiration from Nature 自然のデザインに学ぶ	【知識・技能】 ①知覚動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について調べた事柄を整理・理解している。 ②知覚動詞の理解をもとに、生物模倣について学んだり、自然界のデザインをヒントに開発された製品について自分で調べた事柄を用いて紹介記事を作成し、情報などを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 生物模倣についてのオンライン講演の授業に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自然界のデザインをヒントに開発された製品について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報などを話したり書いたりして伝え合っている。	9	17 18		○
⑩	(p.120～133) Lesson 9 The Bitter Truth behind Chocolate 甘いチョコレートの苦い現実	【知識・技能】 ①使役動詞を用いた文の形・意味を理解している。また、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について調べた事柄を整理・理解している。 ②使役動詞の理解をもとに、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について学んだり、その問題について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 チョコレートをめぐる社会問題とその解決策に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、チョコレートをめぐる社会問題とその解決策について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	10	19 20		
⑪	(p134～147) Lesson 10 Fighting Angel ナイチンゲール	【知識・技能】 ①分詞構文を用いた文の形・意味を理解している。また、ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について調べた事柄を整理・理解している。 ②分詞構文の理解をもとに、ナイチンゲールの生涯について学んだり、人を助ける職業について自分で調べた事柄を用いて、情報や考えなどを話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 医療と看護の発展に一生を捧げたナイチンゲールの生涯に関して書かれた文章について、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、人を助ける職業について、相手の意見を知り、自分の考えをまとめるために、情報や考えなどを話したり書いたりして伝え合っている。	11	21 22		
⑫	(p.148～155) Reading 2 Bear's Pie	【知識・技能】 ①自分たちで絵本を考えた、英語で書かれたBear's Pieの内容を理解している。また、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わるように、朗読する知識を身に付けている。 ②英語で書かれたBear's Pieの内容を読み取り、物語の絵本を考え、配役を決めて、朗読劇を演じる技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 英語で書かれたBear's Pieの内容に関する問いに英語で答えている。また、英語で書かれたBear's Pieを、登場人物の気持ちが聞いている者に伝わりやすいように、朗読する要点を捉えている。	12	23 24		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語	論理・表現Ⅰ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	論Ⅰ701	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅰ
副教材等	–	–	–

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成することを目指す。
(1)英語の特徴やきまりを理解するとともに、それらと言語活動とを効果的に関連付け、実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けることができる【知識・技能】
(2)具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを論理的に適切な英語で表現したり、伝え合ったりすることができる【思考・判断・表現】
(3)関心のある事柄や学校生活などの日常的な話題について、使用する語句や文、やり取りの具体的な進め方が十分に示される状況で、情報や考え、気持ちなどを話して伝え合ったり、やり取りを通して必要な情報を得たりしようとしている。また、やり取りした内容を整理して発表したり、文章を書いたりしようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
報告課題1・2回目 (Unit1 Lesson1～Lesson6)	報告課題4・5回目 (Unit1 Lesson10～12、Unit2 Lesson1～Lesson4)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	Unit1 Lesson1　初めての食事 Lesson2　道に迷う Lesson3　人物紹介	Lesson1 ・食事に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・食事を褒める、勧める、断ることができる。【思考・判断・表現】 ・未来表現、可算名詞・不可算名詞、受動態について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson2 ・道案内や場所・方角に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・道順を誰かに尋ねる、道順を誰かに正しく伝えることができる。【思考・判断・表現】・提案したり、提案に応えることができる。【思考・判断・表現】 Lesson3 ・人の性格や活動、趣味に関する語彙や誰かを紹介するときの重要表現を理解することができる。【知識・技能】・身近な人を誰かに紹介することができる。【思考・判断・表現】・現在完了形と過去形の違い、to不定詞と動名詞の違いについて、正しく理解している。【知識・技能】	①	1・2	○	
②	Lesson4　体調が悪い Lesson5　買い物 Lesson6　行ってみたい場所	Lesson4 ・病気や症状、体の部位に関する語彙や、それを伝えるための重要表現を理解することができる。【知識・技能】・体調が悪いことを伝えたり、相手の体調やアレルギーについて尋ねる、相手に指示や助言をすることができる。【思考・判断・表現】・冠詞・人称代名詞、shouldとhad betterについて、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson5 ・スーパーや食料品店で使用される語彙、食材に関する語彙や買い物に関する重要表現の理解することができる。【知識・技能】・場所の説明、言い方の質問・説明、描写、相づちなどを適切に表現することができる。【思考・判断・表現】・現在形と現在進行形、現在完了形と過去形について、それぞれ違いを正しく理解している。【知識・技能】 Lesson6 ・旅行に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・行きたい場所の希望、理由を列挙、その理由をサポートする方法を英語で表現することができる。【思考・判断・表現】・後置修飾、to不定詞と動名詞について、正しく理解している。【知識・技能】	②	3・4	○	
③	Lesson7　イベントに誘われる Lesson8　スクールカウンセラーに相談 Lesson9　お気に入りを紹介	Lesson7 ・イベント等に関する語彙や、誘ったり断る際の重要表現を理解することができる。【知識・技能】・イベントや自宅などに誘う、誘いを承諾する、誘いを断る、断る理由を述べる、返事を保留することができる。【思考・判断・表現】・未来表現について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson8 ・学習に関する語彙や、それに伴う重要表現を理解することができる。【知識・技能】・手伝いを申し出る/困っている人に声をかける、助言や提案をする、お礼や感謝を伝えることができる。【思考・判断・表現】 Lesson9 ・英語や本に関する語彙や、感想を述べるときの重要表現を理解することができる。【知識・技能】・映画や本のあらすじを要約したり、登場人物などを紹介することができる。【思考・判断・表現】・英語や本の感想や批評を述べることができる。【思考・判断・表現】・前置修飾、後置修飾について正しく理解している。【知識・技能】	③	5・6		
④	Lesson10　待ち合わせに遅刻 Lesson11　家庭でのディスカッション Lesson12　英字新聞に投稿	Lesson10 ・遅刻や許すときの語彙、待ち合わせや約束に関する語彙や、それに関する重要表現を理解することができる。【知識・技能】・相手に謝る、相手を許す、相手を励ますことができる。【思考・判断・表現】・使役動詞、to不定詞と動名詞について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson11 ・政府やコミュニティに関する語彙や地域活動に関する重要表現を理解することができる。【知識・技能】・相手の意見に賛成・反対を述べたり、残念な気持ちを述べる、解決案を提案することができる。【思考・判断・表現】・仮定法について正しく理解している。【知識・技能】 Lesson12 ・学校の施設や持ち物、学校での行事や行為に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・要望や主張を述べたり、その理由を述べることができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	Unit2 Lesson1　クラスでディベート① Lesson2　クラスでディベート② Lesson3　経験談のスピーチ Lesson4　遊びやスポーツを紹介	Lesson1 ・値段や支払い、オンラインショッピング等に関する基礎的な語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・理由を述べる、例を挙げる、ディベートの進行をする、だれかが発言した後に一言付け加えることができる。【思考・判断・表現】・to不定詞と動名詞について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson2 ・ネットでの買い物や配送、お店での買い物等買い物全般に関する応用的な語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・相手の意見を引用し、反駁する表現や、相手の意見を認めながらも反駁する表現を使うことができる。【思考・判断・表現】・否定語の使い方について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson3 ・持ち物や決まりに関する語彙、思いがけないできごとや気持ちを表す語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・過去のできごとを生き生きと描写したり、物事が起こったの背景を説明することができる。経験からアドバイスをすることができる。【思考・判断・表現】・後置修飾、受動態について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson4 ・スポーツやゲームに関する語彙、重要表現を理解することができる。【知識・技能】・ルールや手順を順序立てて説明したり、聞き手の知識に合わせて説明することができる。【思考・判断・表現】・現在完了形と過去形の違いについて、正しく理解している。【知識・技能】	⑤	9・10		○
⑥	Lesson5　日本をPR Lesson6　物事の両面を伝える Lesson7　読み手を納得させる Lesson8　読み手を説得する	Lesson5 ・習慣や行動、国民性、文化・伝統に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・事実と意見を区別して述べたり、文化や習慣について説明することができる。【思考・判断・表現】・and, but, soなどの接続詞を正しく理解している。【知識・技能】 Lesson6 ・ペットの種類や行動・性格、飼い方に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・利点と欠点を述べたり、話題を発展させる、話題を変えることができる。【思考・判断・表現】・名詞と無生物主語について、正しく理解している。【知識・技能】 Lesson7・映画鑑賞に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・自分の主張について理由を説明したり、理由を要約してまとめることができる。【思考・判断・表現】 Lesson8 ・クラブ活動やボランティア活動に関する語彙や重要表現を理解することができる。【知識・技能】・人の発言を直接引用したり、条件を出して意見を述べる、また説得することができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1　実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2　出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
外国語	論理・表現Ⅱ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
8	4	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または加工者名	教科書の記号・番号	書　　名
教科書	東京書籍	論Ⅱ701	NEW FAVORITE English Logic and Expression Ⅱ
副教材等	–	–	–

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】
(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】
(3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
(4)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】
(5)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
Unit1 Lesson1 ～ Lesson8(p8～39)	Unit2 Lesson1 ～ Lesson5（p58～77）

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	(P8～P23) Unit 1 Lesson 1 友達に報告する Unit 1 Lesson 2 日本での初登校 Unit 1 Lesson 3 経験についてのスピーチ Unit 1 Lesson 4 ファンレター	Lesson1 【知識・技能】 ①訂正する、心配する、感謝するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、訂正する、心配する、感謝するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、発言や情報などを訂正したり、自分や相手について心配したり、相手に感謝したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson2 【知識・技能】 ①驚く、繰り返す、言い換えるときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、驚く、繰り返す、言い換えるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、驚きやその原因・理由を表現したり、発言や情報などを繰り返したり、言い換えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson3 【知識・技能】 ①注意を引く、同意を求めるときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、注意を引く、同意を求めるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、聞き手の注意を引いたり、同意を求めたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson4 【知識・技能】 ①望む、褒めるときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、望む、褒めるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の立場や状況を理解し、適切な表現を用いて、自分の望みを伝えたり、相手のすばらしいところを褒めたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	1	1 2	○	
②	(P24～P39) Unit 1 Lesson 5 イベントに誘う Unit 1 Lesson 6 図書館で資料さがし Unit 1 Lesson 7 観察についてのスピーチ Unit 1 Lesson 8 通信販売で商品依頼	Lesson5 【知識・技能】 ①誘う、説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、誘う、説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手を誘ったり、詳細を説明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson6 【知識・技能】 ①聞き直す、依頼するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、聞き直す、依頼するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、相手の発言などについて聞き直したり、相手に依頼したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson7 【知識・技能】 ①要約する、言い換えるときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、要約する、言い換えるときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、自説を要約したり、文意をわかりやすくするために言い換えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson8 【知識・技能】 ①頼ったことを伝える・説明する、控えめに依頼するなどの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、頼ったことを伝える・説明する、控えめに依頼するなどの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、自説を要約したり、文意をわかりやすくするために言い換えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	2	3 4	○	
③	(P40～P56) Unit 1 Lesson 9 タクシーの乗る Unit 1 Lesson 10 友達とディスカッション Unit 1 Lesson 11 比較結果のプレゼンテーション Unit 1 Lesson 12 就きたい職業	Lesson9 【知識・技能】 ①依頼する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、依頼する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、質問を交えながら依頼したり、提案したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson10 【知識・技能】 ①仮定する、反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、仮定する、反対するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、さまざまな仮定をしたり、理由を加えながら反対したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson11 【知識・技能】 ①報告する、比較して説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、報告する、比較して説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、さまざまな報告をしたり、さまざまな視点で比較して説明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson12 【知識・技能】 ①説明する、理由を述べる、仮定するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、説明する、理由を述べる、仮定するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、詳細を説明したり、理由を述べたり、さまざまな仮定をしたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	3	5 6		
④	(P58～P69) Unit 2 Lesson 1 クラスでディベート① Unit 2 Lesson 2 クラスでディベート② Unit 2 Lesson 3 クラスでディベート③	Lesson1 【知識・技能】 ①推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、論理的に推論したり、理由を説明して賛成・反対を表明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson2 【知識・技能】 ①主張する、推論する、賛成・反対するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、主張する、推論する、賛成・反対するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、自説を主張したり、論理的に推論したり、理由を説明して賛成・反対を表明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson3 【知識・技能】 ①推論する、説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、推論する、説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 場面や状況を理解し、適切な表現を用いて、論理的に推論したり、相手を説得しようとしたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	4	7 8		○
⑤	(P70～P77) Unit 2 Lesson 4 調査結果のプレゼンテーション Unit 2 Lesson 5 社会問題についてのスピーチ	Lesson4 【知識・技能】 ①報告する、望むときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、報告する、望むときの表現を適切に運用している。自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、さまざまな報告をしたり、自分の望みを伝えたりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson5 【知識・技能】 ①説明する、主張する、提案するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、説明する、主張する、提案するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、1つのテーマに沿って話しながら、詳細を説明したり、自説を主張したり、提案したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	5	9 10		○
⑥	(P78～P90) Unit 2 Lesson 6 仮定して推論する Unit 2 Lesson 7 比較して説明する Unit 2 Lesson 8 読み手を説得する	Lesson6 【知識・技能】 ①仮定する、推論するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、仮定する、推論するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、仮定したり、論理的に推論したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson7 【知識・技能】 ①比較する、類似点と相違点を説明するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、比較する、類似点と相違点を説明するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、さまざまな視点から比較したり、類似点と相違点を説明したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。 Lesson8 【知識・技能】 ①主張する、説得するときの表現の形・意味・用法を理解している。 ②学んだ知識を用いて、主張する、説得するときの表現を適切に運用し、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現する技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 相手の知識や状況を理解し、適切な表現を用いて、論理的に主張したり、相手を説得したりして、自分の考えや気持ちなどを詳しく表現している。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
家庭	家庭基礎	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	家基701	家庭基礎 自立・共生・創造
副教材等	–	–	–

学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
・生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解するとともに、それらに係る技能を身に付けている。【知識・技能】
・家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生活を見通して課題を解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章　生涯を見通す 第2章　人生をつくる 第3章　子どもと共に育つ 第4章　超高齢社会を共に生きる	第6章　食生活をつくる 第7章　衣生活をつくる 第8章　住生活をつくる

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　生涯を見通す 第2章　人生をつくる	・人の一生について、自己と他者、社会との関わりから様々な生き方があることを理解することができる。 【知識・技能】 ・男女が協力して、家族の一員としての役割を果たし家庭を築くことの重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、課題を解決する力を身に付けることができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第3章　子どもと共に育つ 第4章　超高齢社会を共に生きる	・乳幼児期と高齢期の心身の特徴について理解することができる。【知識・技能】 ・子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだすことができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第5章　共に生き、共に支える 第6章　食生活をつくる	・生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解することができる。【知識・技能】 ・おいしさの構成要素について理解し、健康や環境に配慮した食生活について理解することができる。【知識・技能】	③	5・6		
④	第6章　食生活をつくる 第7章　衣生活をつくる	・健康や環境に配慮した食生活について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現することができる。【思考・判断・表現】 ・健康で快適な衣生活に必要な情報の収集・整理することができる。【知識・技能】	④	7・8		○
⑤	第8章　住生活をつくる	・ライフステージに応じた住生活の特徴について理解することができる。【知識・技能】 ・住居の機能性や快適性について問題を見いだして課題を設定することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	第9章　経済生活を営む 第10章　生活を設計する	・消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費行動における意思決定について理解することができる。【知識・技能】 ・生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定できる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
家庭	家庭総合	4	12	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
8	4	0	4	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　　名
教科書	東京書籍	家総701	家庭総合　自立・共生・創造
副教材等	–	–	–

学習目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(１)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な科学的な理解を図るとともに、それらに係る技能を体験的・総合的に身に付けている。【知識・技能】
(２)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを科学的な根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(３)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、生活文化を継承し、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章　生涯を見通す(P.12～17) 第2章　人生をつくる(P.20～41) 第3章　子どもと共に育つ(P.44～73)	第6章　食生活をつくる(P.104～157) 第7章　食生活をつくる(P.160～199)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　生涯を見通す(p12～17)	【知識・技能】 ①人生のそれぞれの発達段階においての課題や、現代の家族の特徴や機能について理解している。 【思考・判断・表現】 ①生活の営みに必要な金銭、生活時間などの生活資源について理解し、情報の収集・整理の仕方を理解し、情報を適切に取捨選択している。 ②どんな自分になりたいか、どんな人生を送りたいか自分らしい生き方を想像するとともに、将来の家庭生活及び職業生活について考察することができる。	1	1 2	○	
②	第2章　人生をつくる(p20～41)	【知識・技能】 ①生涯発達の視点から各ライフステージの特徴と課題について理解するとともに、青年期の課題である自立や男女の平等と協力、意思決定の重要性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭と法律、家庭生活と福祉などについて理解するとともに、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わり、家族・家庭を取り巻く社会環境の変化や課題について考察することができる。 ②どうすれば家族や地域、社会と協力・協働し、豊かな家庭生活や地域社会を創造していくことができるか考えることができる。	2	3 4	○	
③	第3章　子どもと共に育つ(p44～73)	【知識・技能】 ①乳幼児期の心身の発達と生活、子供の遊びと文化、親の役割と保育、子育て支援について理解を深め、子供の発達に応じて適切に関わるための技能を学習している。 【思考・判断・表現】 ①子供を取り巻く社会環境の変化や課題及び子供の福祉について考察し、理解を深めている。 ②児童虐待などの子どもに対する不適切なかかわりに陥らないように、社会全体で乳幼児をもつ親を支えていくことの重要性について考えることができる。	3	5 6	○	
④	第4章　超高齢社会を共に生きる(p76～91)	【知識・技能】 ①高齢期の心身の特徴、高齢者の尊厳と自立生活の支援や介護について理解を深め、高齢者の心身の状況に応じて適切に関わるための生活支援に関する技能を学習している。 【思考・判断・表現】 ①高齢者を取り巻く社会環境の変化や課題及び高齢者福祉について考察し、理解を深めている。 ②超高齢社会の現状と課題を学び、どのような高齢期を迎えたいか、考えることができる。	4	7 8		
⑤	第5章　共に生き、共に支える(p94～99)	【知識・技能】 ①生涯を通して家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援について理解している。 【思考・判断・表現】 ①家庭と地域との関わりについて理解するとともに、高齢者や障害のある人々など様々な人々が共に支え合って生きることの意義について考察し、理解を深めている。 ②共に支え合って生きる社会を実現するために、個人や集団がどうつながり、助け合ったらよいかについて、人と人とのネットワークや社会的制度、さらにそれを支える生活環境の整備などとも関連させて考えている。	5	9 10		
⑥	第6章　食生活をつくる(p104～131)	【知識・技能】 ①よりよい食習慣を身につけ、生涯を健康に過ごすために、食生活の課題や食事の意義、食生活を取り巻く環境の変化を学習している。 【思考・判断・表現】 ①どうすれば朝食欠食が減るのか考え、自分が食べている朝食の献立を見直し、調理する場合に技術や知識を生かし、短時間で作れ、手間のかからない献立を提案することができる。 ②自分や家族が健康に過ごす食生活に役立てるために、栄養素の種類と機能や食品の栄養的特質や調理性について科学的な理解を深めることができる。	6	11 12		
⑦	第6章　食生活をつくる(p132～159)	【知識・技能】 ①ライフステージの特徴や課題に着目し、栄養の特徴、食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解するとともに、自己と家族の食生活の計画・管理を学習する。 【思考・判断・表現】 ①食品の生産や流通・販売の多様化、輸入食品の増大、食料自給率の低下、外食や中食への依存などにより、食生活を取り巻く環境が変化している現状を理解し、資源やエネルギー、非常時に配慮した食品の購入、調理、保存などの技能を学習し、安全・環境・健康など広い視野からよりよい食生活について考えることができる。 ②食生活の自立に必要な調理の知識と技術を身に付けるために、調理や加工によりおいしさが変化することを科学的に捉えることができる。 ③配膳や食事形式のマナーに関心を持つことができる。	7	13 14		○
⑧	第7章　衣生活をつくる(p160～179)	【知識・技能】 ①私たちが被服を着用するに至った、社会的・文化的背景と被服の多様な機能や特徴について理解している。 ②繊維(天然繊維、化学繊維)、糸、布の代表的な種類とそれらの特徴、性能について、実験や実験データ、デジタル教材等を活用するなどして理解し、適切な被服材料の選択と取扱いができる。 【思考・判断・表現】 ①被服の洗濯や保管方法を科学的に理解し、環境に配慮した衣生活について考え、実践しようとしている。	8	15 16		○
⑨	第7章　衣生活をつくる(p180～199)	【知識・技能】 ①被服の機能、素材と管理の知識を応用しながら、目的に会った被服を制作するために、被服が身体の形に合わせてどのように構成されているか、理解している。 【思考・判断・表現】 ①現代に受け継がれる日本の衣文化の工夫を受け継ぐために、日本の衣生活の変遷や日本の衣文化に込められる知恵や技術について知り、日本の民族衣装としての和服や世界の民族衣装など、被服と人との関係について考察し、理解を深めている。 ②次世代に引き継げる衣生活の在り方を考えるために、資源の消費の視点で自分の衣生活を見直すとともに、全ての人が健康、安全・快適な衣生活を営むためのユニバーサルデザインの被服について考察し、理解を深めている。	9	17 18		○
⑩	第8章　住生活をつくる(p202～225)	【知識・技能】 ①住生活を取り巻く課題、日本と世界の住文化など、住まいと人との関わりについて学ぶ。 ②ライフステージの特徴や課題に着目し、住生活の特徴、防災などの安全や環境に配慮した住居の機能について科学的に理解し、住生活の計画・管理に必要な技能を学ぶ。 【思考・判断・表現】 ①住居の機能、住空間の計画、住環境などについて科学的に理解し、住生活の文化に関心をもつとともに、必要な知識と技術を習得して、安全と環境に配慮し、主体的に住生活を営むことができる。	10	19 20		
⑪	第9章　経済生活をつくる(p230～251)	【知識・技能】 ①家計の構造について理解するとともに生活における経済と社会との関わりについて学んでいる。 ②生活を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深め、情報の収集・整理することができる。 【思考・判断・表現】 ①販売方法や支払い方法が多様化する中で、契約の重要性について理解を深め、自立した消費者として責任ある消費行動を取ろうとしている。 ②生涯安定した経済生活を営めるように、経済的自立の重要性や生涯を見通した働き方について考察し、理解を深めている。	11	21 22		
⑫	第10章　持続可能な生活を営む(p252～259) 第11章　これからの生活を創造する(p262～267)	【知識・技能】 ①生活と環境との関わりや持続可能な消費について理解するとともに、持続可能な社会へ参画することの意義について学んでいる。 【思考・判断・表現】 ①持続可能な社会を目指して主体的に行動できるよう、安全で安心な生活と消費及び生活文化について考察し、ライフスタイルを工夫することができる。 ②人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができる。	12	23 34		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラーグWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報	情報Ⅰ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	情Ⅰ701	新編情報Ⅰ
副教材等	–	–	–

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。
（1）効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めている。【知識・技能】
（2）様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用している。【思考・判断・表現】
（3）情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章　情報で問題を解決する 第2章　情報を伝える	第4章　データを活用する 第5章　活動して提案する

【添削指導（報告課題）】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　情報で問題を解決する	・問題解決を行うに際して、プロセスを意識し、情報技術を活用してより良く解決することができる【思考・判断・表現】 ・知的財産や個人情報の取り扱いを理解し、情報モラルに対する意識が向上している【知識・技能】	①	1・2	○	
②	第2章　情報を伝える	・インターネット上でのコミュニケーションの特徴を理解し、適切な情報発信や受け取った情報の信頼性を適切に判断することができる【知識・技能】 ・UDなど、情報デザインの活用に触れ、効果的なコミュニケーションの活用方法を習得している【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第3章　コンピュータを活用する	・コンピュータの構成と処理の仕組みや論理回路を理解し、コンピュータに対して科学的な視点を持って対応することができる【思考・判断・表現】 ・アルゴリズムを理解し、問題解決のためのプログラミングの基礎的な技能を習得している【知識・技能】	③	5・6		
④	第4章　データを活用する	・インターネットの構成、データ伝送の仕組み、サーバの働きを理解し、ネットワークに対して科学的な視点で考えることができる【思考・判断・表現】 ・情報セキュリティの基礎的な知識を習得するとともに、サイバー犯罪などの社会問題について理解している【知識・技能】	④	7・8		○
⑤	第5章　活動して提案する	・職業観を養い、勤労を重んずる態度を身に付けることができる【思考・判断・表現】 ・各種ソフトウェアの基本的な活用ができている（表計算ソフト・Scratch・Pythonなど）【知識・技能】	⑤	9・10		○
⑥	＜巻末＞ 各種ソフトウェアの操作 文字・色彩の基礎知識 プログラミングの基礎	・情報に関する幅広い知識を習得している【知識・技能】 ・情報技術を活用して、科学的な思考に基づいた表現ができる【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導（スクーリング）】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導（報告課題）】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴（チェックテストを含む）」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導（スクーリング）】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
　前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」（35%）、「思考・判断・表現」（35%）、「主体的に学習に取り組む態度」（30%）で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報	情報Ⅱ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※規定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	情Ⅱ701	情報Ⅱ
副教材等	–	–	–

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 多様なコミュニケーションの実現、情報システムや多様なデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報技術の発展と社会の変化について理解を深めることができる。【知識・技能】
(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的、創造的に活用する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、新たな価値の創造を目指し、情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P.1～P.52 実習編　1章　情報社会　2章　コンテンツ　3章 データサイエンス　4章 情報システム	P.76～P.131 論理編　3章　データサイエンス　4章　情報システム　　活用編

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P.1～P.29 実習編 1章　情報社会 2章　コンテンツ	【知識・技能】 ①情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展や情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化・人への知的活動への影響について理解している。 ②多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 【思考・判断・表現】 ①情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察することができる。 ②コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察することができる。 ③人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察することができる。 ④情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。	1	1 2	○	
②	P.30～P.52 実習編 3章 データサイエンス 4章 情報システム	【知識・技能】 ①多様かつ大量のデータの存在やデータ活用の有用性、データサイエンスが社会に果たす役割について理解し目的に応じた適切なデータの収集や整理・整形について理解し技能を身に付けている。 ②データに基づく現象のモデル化やデータの処理を行い解釈・表現する方法およびデータ処理の結果を基にモデルを評価することについて理解し技能を身に付けている。 ③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。 ④情報システムを構成するプログラムを制作する方法について理解し技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うことができる。 ③情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することができる。 ④情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。	2	3 4	○	
③	P.53～P.75 実習編 1章　情報社会 2章　コンテンツ	【知識・技能】 ①情報技術の発展の歴史を踏まえ、情報社会の進展や情報技術の発展によるコミュニケーションの多様化・人への知的活動への影響について理解している。 ②多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 ③コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①情報技術の発展や情報社会の進展を踏まえ、将来の情報技術と情報社会の在り方について考察することができる。 ②コミュニケーションが多様化する社会におけるコンテンツの創造と活用の意義について考察することができる。 ③人の知的活動が変化する社会における情報システムの創造やデータ活用の意義について考察することができる。 ④情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。	3	5 6		
④	P.76～P.106 論理編 3章　データサイエンス 4章　情報システム	【知識・技能】 ①情報システムとそれを実現している情報の流れを理解することができる。 ②情報システムの活用と社会への影響を理解することができる。 ③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②将来の現象を予測したり、複数の現象間の関連を明らかにしたりするために、適切なモデル化や処理、解釈・表現を行うことができる。 ③情報システム及びそれによって提供されるサービスについて、その在り方や社会に果たす役割と及ぼす影響について考察することができる。 ④情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。	4	7 8		○
⑤	P.107～P.131 活用編	【知識・技能】 ①多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 ②コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。	5	9 10		○
⑥	P.132～P.151 資料編	【知識・技能】 ①多様なコミュニケーションの形態とメディアの特性とその関係について理解し、文字、音声、静止画、動画などを組み合わせたコンテンツを制作することができる。 ②コンテンツを様々な手段で適切かつ効果的に社会に発信する方法を理解している。 ③情報システムにおける情報の流れや処理の仕組み、情報セキュリティを確保する方法や技術やソフトウェア開発のプロセスとプロジェクト・マネジメントについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①目的に応じて適切なデータを収集し、整理・整形することができる。 ②情報デザインに配慮したコンテンツの制作や、コンテンツを社会に発信したときの効果や影響を考え、発信の手段やコンテンツを評価し、改善することができる。 ③情報システムの効率や運用の利便性などに配慮した設計、構成するプログラムの制作と、その過程を評価し、改善することができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	ビジネス基礎	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東法190	商業702	ビジネス基礎
副教材等	–	–	–

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)ビジネスについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】
(2)ビジネスに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決することができる。【思考・判断・表現】
(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。
【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章　商業の学習とビジネス 第2章　ビジネスに対する心構え	第4章　企業活動 第5章　身近な地域のビジネス

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　商業の学習とビジネス 第2章　ビジネスに対する心構え	【商業の学習とビジネス】 ①　商業の学習及びビジネスの概要について理解することができる。【知識・技術】 ②　商業を学ぶこと及びビジネスの意義と課題について、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展と関連付けて見いだすことができる。【思考・判断・表現】 【ビジネスに対する心構え】 ①　ビジネスに対する心構えについて実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】 ②　ビジネスの場面を分析し、科学的な根拠に基づいて、ビジネスにおいて他者に対応するとともに、情報を入手して活用し、評価・改善することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第3章　経済と流通 第1節～第2節	①　経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。【知識・技術】 ②　経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第3章　経済と流通 第3節	①　経済と流通について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。【知識・技術】 ②　経済と流通に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	第4章　企業活動	①　企業活動について経済社会における事例と関連付けて理解することができる。【知識・技術】 ②　企業活動に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第5章　身近な地域のビジネス	①　身近な地域のビジネスについて理解することができる。【知識・技術】 ②　身近な地域のビジネスに関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、ビジネスの振興策を考案して実施し、評価・改善することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	第6章　取引とビジネス計算	①　取引とビジネス計算について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技能】 ②　取引に関する課題を発見し、科学的な根拠に基づいて課題への対応策を考案することができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	ビジネス・コミュニケーション	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	7・実教	商業・704	ビジネス・コミュニケーション
副教材等	–	–	–

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるコミュニケーションに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)ビジネスにおけるコミュニケーションについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。【知識・技術】
(2)ビジネスにおけるコミュニケーションに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。【思考・判断・表現】
(3)ビジネスを円滑に展開する力の向上を目指して、自ら学び、ビジネスにおいてコミュニケーションを図ることに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1編 ビジネスとコミュニケーション 1章 企業の組織と意思決定 2編 ビジネスマナー 2章 応対に関するビジネスマナー	3編 ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーション 5章 コミュニケーションの役割と思考方法 6章 ビジネスにおけるコミュニケーション 7章 コミュニケーションスキルとビジネススキル

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	1編 ビジネスとコミュニケーション 1章 企業の組織と意思決定	○企業組織と意思決定の流れ、組織の一員として働く心構えを理解している。【知識・技術】 ○業務の適切な進め方やスケジュール管理などの重要性を理解している。【知識・技術】 ○社会人としての心構えと良好な人間関係を築く必要性や人的ネットワークの構築について理解している。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、自身で課題を発見し、他者とコミュニケーションを図ることの意義について考察することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	2編 ビジネスマナー 2章 応対に関するビジネスマナー	○場面に応じた挨拶やお辞儀身・だしなみ・表情・身のこなしなどを理解している。【知識・技術】 ○言葉遣いやコミュニケーションの言葉など、適切な言葉遣いを理解している。【知識・技術】 ○電話対応における適切なコミュニケーションなど様々なビジネスマナーについて理解している。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、場面に応じたビジネスマナーを実践する。その中で、自身のビジネスマナーに対する知識・技術の習得度を理解し、何が不足しているかを発見することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	2編 ビジネスマナー 3章 交際に関するビジネスマナー 4章 接客に関するビジネスマナー	○コミュニケーションの役割や種類、場面や心得などビジネスについて、コミュニケーションを図ることの重要性を理解している。【知識・技術】 ○食事のマナーの基本、料理の種類や立食のスタイルでのマナーについて、場所や立場に応じた適切な行動を理解している。【知識・技術】 ○接客に必要な知識や態度について理解している。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、場面に応じたビジネスマナーを実践し、自己表現が適切に行われているか考察することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	3編 ビジネスにおける思考の方法と コミュニケーション 5章 コミュニケーションの役割と 思考方法 6章 ビジネスにおける コミュニケーション	○ビジネスにおける様々なコミュニケーションの方法や場面に応じた技法について理解する。【知識・技術】 ○ディスカッションの方法や意義を理解し、討論する力を身に付ける。【知識・技術】 ○ソーシャルメディアによる情報発信の有用性と注意点について理解する。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、ビジネスの場面を思考する。その過程において、場面を分析し、適切なコミュニケーションが何であるか検証し、評価・改善を行う。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	3編 ビジネスにおける思考の方法と コミュニケーション 7章 コミュニケーションスキルと ビジネススキル	○会議の目的と種類、基本的な進め方や会場設営などについて理解している。【知識・技術】 ○ビジネス文書の種類と内容、作成方法、電子メールの利用、はがきや封筒の書き方や郵便物の様々なサービスなどについて理解している。【知識・技術】 ○ビジネス文書の作成や様々なサービスについて、上記の身に付けた知識・技術を基にして表現することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	4編 ビジネスと外国語	○企業活動のグローバル化の進展とビジネスシーンで使用する英語について理解している。【知識・技術】 ○市場・ビジネスシーンの国際化について理解している。【知識・技術】 ○コミュニケーションツールとしての英語について理解している。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、企業の海外進出の現状や課題を発見することができる。また、発見した課題にどのような解決策を取ることができるか具体的な事例をあげ検証している。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	マーケティング	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京法令出版	商業719	マーケティング
副教材等	－	－	－

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに，関連する技術を身に付けている。【知識・技術】
(2) マーケティングに関する課題を発見し，ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び，マーケティングに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験

指定教科書 p2～p69
第1章　現代市場とマーケティング　p2～p27
　第1節　総論①　第1節　総論②　第1節　総論③　　第2節　マーケティングの歴史と発展
　第3節　マーケティングの理念①②　　第4節　市場環境の変化とマーケティング①～⑦
　第5節　マーケティングのプロセス①～⑨
第2章　消費者行動
　第1節　消費者行動①～④　第2節　消費者関与　　第3節　購買意思決定プロセス①～③
　第4節　製品の普及過程　　第5節　購入後の満足とロイヤリティの形成

学年末試験

指定教科書　p108～p175
第4章　製品政策(3節から)
　第3節　販売計画と販売予測①～②　　第4節　販売計画の立案　　第5節　生産計画①～②
　第6節　仕入計画①～④　　第7節　在庫管理①～④　　第8節　製品政策の動向
第5章　価格政策
　第1節　価格政策の概要①～⑤　　第2節　価格政策の動向①～②　　第3節　価格に関する法的規制
第6章　チャネル政策
　第1節　チャネル政策の概要①～③　　第2節　チャネルの種類と特徴①～③　　第3節　チャネル政策の動向①～②

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　現代市場とマーケティング 第1節　総論①　第1節　総論②　第1節　総論③ 第2節　マーケティングの歴史と発展 第3節　マーケティングの理念① 第3節　マーケティングの理念② 第4節　市場環境の変化とマーケティング①～⑦	【知識・技術】 日本における生産・流通・消費の動向、人口動態などマーケティングを取り巻く市場環境の変化について扱い、様々な分野でマーケティングが重要となっている現状について理解を深める。 【思考・判断・表現】 企業と顧客との関係、企業による提供価値、社会性といった視点からマーケティングに求められる範囲や考え方が拡大していること、顧客満足の実現や顧客価値の創造などを通じて顧客を創造し続けることの重要性を考察する。	1	1 2	○	
②	第1章　現代市場とマーケティング 第5節　マーケティングのプロセス①～⑨ 第2章　消費者行動 第1節　消費者行動①～④　第2節　消費者関与 第3節　購買意思決定プロセス①～③ 第4節　製品の普及過程 第5節　購入後の満足とロイヤリティの形成	【知識・技術】 環境分析、セグメンテーション、標的市場の選定、ポジショニング、マーケティング・ミックスの考え方及びマーケティング管理の重要性について扱い、マーケティング計画の立案について理解を深めることができる。 【思考・判断・表現】 競争戦略及び消費者保護や環境問題への対応など企業の社会的責任を踏まえることへの重要性について考察することができる。	2	3 4	○	
③	第3章　市場調査 第1節　市場調査の目的と方法①～⑥ 第2節　情報の分析①～③ 第4章　製品政策 第1節　製品政策の概要①～④ 第2節　製品企画①～②	【知識・技術】 マーケティングにおける様々な市場調査の目的、仮説の構築からその検証までの手順、既存の資料による調査と実態調査の違いを理解することができる。 【思考・判断・表現】 統計的手法を用いた情報の分析方法について扱い、市場調査で得られた情報などに基づいて仮説を立てることができる。	3	5 6		
④	第4章　製品政策 第3節　販売計画と販売予測①～② 第4節　販売計画の立案 第5節　生産計画①～② 第6節　仕入計画①～② 第6節　仕入計画③～④ 第7節　在庫管理①～④ 第8節　製品政策の動向	【知識・技術】 製品政策の目的と重要性について扱い、ブランドの考え方、ブランドを構築することの重要性、受容性について扱い、具体的な事例と関連付けることができる。 【思考・判断・表現】 顧客のニーズを解決する手段としての製品企画の立案の方法、アイデアや計画を具体的な製品にする過程を学習し、最適な計画の立案をすることができる。	4	7 8		○
⑤	第5章　価格政策 第1節　価格政策の概要①～⑤ 第2節　価格政策の動向①～② 第3節　価格に関する法的規制 第6章　チャネル政策 第1節　チャネル政策の概要①～③ 第2節　チャネルの種類と特徴①～③ 第3節　チャネル政策の動向①～②	【知識・技術】 価格政策の目的と重要性及び価格に関する法的な規制と法規に基づいて価格政策を立案して実施することの重要性について理解することができる。 【思考・判断・表現】 浸透価格、上澄価格、威光価格、端数価格などの価格の種類と目的にあった価格の選定方法、生産、流通、販売に関わるコスト、競合他社との関係、インターネットを活用して消費者が価格を比較することが容易になっていることなど価格決定に影響を及ぼす要因及びコスト志向、需要志向、競争志向、消費者志向の価格決定について考察することができる。	5	9 10		○
⑥	第7章　プロモーション政策 第1節　プロモーション政策の概要①～② 第2節　プロモーションの方法①～④ 第3節　プロモーション政策の動向 第4節　プロモーションの法的な規制	【知識・技術】 チャネル政策の目的と重要性及びチャネル政策を立案し実施する際に販売データを活用することの重要性について理解することができる。 【思考・判断・表現】 商圏を踏まえて店舗を立地することの重要性について扱い、具体的な事例を用いて分析し、考察を深めることができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1 実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2 出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	商品開発と流通	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京法令	商業733	商品開発と流通
副教材等	－	－	－

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、商品開発と流通に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)商品開発と流通について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】
(2)商品開発と流通に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、商品開発と流通に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P4～P43 第1章　商品開発の基本 第1節　商品と商品開発　第2節　商品開発プロセス　第3節　商品開発とブランド 第2章　商品の企画 第1節　環境分析　第2節　開発方針とテーマの決定　第3節　探索的調査　第4節　アイデアの創出と評価 第5節　商品コンセプトの考案　第6節　検証的調査(コンセプト・テスト)　第7節　商品企画書の作成と承認	p68～p109 第3章　商品の開発　商品のネーミングとパッケージの制作・評価 第4節　商品のネーミングとパッケージの制作・評価　第5節　最終試作品テストと商品の完成 第6節　知的財産の登録 第4章　事業計画 第1節　事業計画の立案　第2節　マーケティング計画(価格)　第3節　マーケティング計画(流通経路)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　商品開発の基本　P4～P29 第1節　商品と商品開発 第2節　商品開発プロセス 第3節　商品開発とブランド 第2章　商品の企画 第1節　環境分析 第2節　開発方針とテーマの決定	【知識・技術】 ①商品や商品開発の考え方、有形財だけでなくサービスや権利なども含めて流通において商品として取引されていることについて理解することができる。 ②商品開発の手順に従って開発を進めるリニア型開発、開発過程で商品価値の再発見が行われるノンリニア型開発の過程について理解することができる。 ③流通におけるブランド化することの重要性について扱う。 【思考・判断・表現】 ①商品の多様化や顧客のニーズの変化が商品開発に影響を及ぼしていることを具体的な事例などを通して考察し、理解を深めている。	1	1 2	○	
②	第3節　探索的調査 P30～P43 第4節　アイデアの創出と評価 第5節　商品コンセプトの考案 第6節　検証的調査(コンセプト・テスト) 第7節　商品企画書の作成と承認	【知識・技術】 ①開発商品の競合状況、消費実態や顧客のニーズ、消費者の生活行動や意識など商品開発に必要な情報の種類とそれを収集する市場調査の方法について理解することができる。 ②ブレーンストーミングなどの技法を用いてアイデアを創出する方法について理解することができる。 ③流通の役割について、生活水準の向上や生産の高度化などによる生産と消費の隔たりの拡大と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品コンセプトを考案することの重要性及び市場調査などで得られた情報を踏まえることの重要性について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、商品コンセプトを考察することができる。 ②情報技術の進歩に伴う流通の効率化と最適化について、具体的な事例を考察することができる。	2	3 4	○	
③	第3章　商品の開発　p50～ p67 第1節　商品仕様書の作成 第2節　プロダクトデザイン 第3節　試作品の作成と評価	【知識・技術】 ①商品本体、容器、包装などの商品仕様を決定して試作品などを作り、評価の項目と基準を設定して試作品や試行結果を評価し、設計と仕様の変更を行う一連の流れについて理解することができる。 ②ビジネスにおけるマーケティングの重要性と基本的な流れについて、具体的な事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品デザインがマーケティングの中で果たしている役割、配色や構成などデザインに関する知識と技法、商品におけるグラフィックデザインの機能、グラフィックデザインの技法及びコンピュータを活用したデザインの技法を身に付けることができる。	3	5 6		
④	第4節　商品のネーミングとパッケージの制作・評価　p68～p87 第5節　最終試作品テストと商品の完成 第6節　知的財産の登録	【知識・技術】 ①商標権、意匠権、著作権の概要とビジネスにおける知的財産の活用の重要性について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品におけるパッケージの機能、パッケージ資材の種類と特性、パッケージデザインの技法について扱う。さらに、グラフィックデザイン及びパッケージデザインの効果について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察することができる。 ②知的財産の保護の重要性について扱い、偽ブランドや偽キャラクター商品など知的財産権の侵害に関する具体的な事例と関連付けて分析し、考察することができる。	4	7 8		○
⑤	第4章　事業計画　p92～p109 第1節　事業計画の立案 第2節　マーケティング計画(価格) 第3節　マーケティング計画(流通経路)	【知識・技術】 ①生産計画、マーケティング計画、財務計画など事業の展開に必要な項目からなる事業計画書の作成について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①競争環境、需要予測、顧客の反応、費用、原価、利益などを踏まえた価格設定の方法について考察し、理解を深めている。 ②流通の動向・課題について、流通経路の多様化や情報システムの変化が流通に影響を及ぼしていることを具体的な事例などを通して考察し、理解を深めることができる。	5	9 10		○
⑥	第4節　マーケティング計画(プロモーション) p110～p137 第5節　事業計画書の作成と検証 第6節　事業計画の実践と修正 第5章　商品開発の動向と課題 第1節　商品開発の動向 第2節　商品開発の課題	【知識・技術】 ①会議で提案することを想定して、具体的な事業計画書を作成してプレゼンテーションを行い、改善を図る学習活動を行うことができる。 ②商品が生産者から消費者にわたる仕組みについて、具体的な商品の事例と関連付けて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①商品の特性に応じた流通経路の開拓について扱い、具体的な事例と関連付けて分析し、考察する学習活動及び事業計画に基づいた流通経路の開拓の具体的な方策を考案することができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	ビジネス・マネジメント	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京法令出版	商業707	ビジネス・マネジメント
副教材等	–	–	–

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスにおけるマネジメントに必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) ビジネスにおけるマネジメントについて実務に即して体系的・系統的に理解することができる。【知識・技術】
(2) ビジネスにおけるマネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

一学期末試験	学年末試験
第1章 ビジネスとマネジメント p2～p29 第1節 マネジメントの役割　第2節 イノベーションの重要性　第3節 創業者や経営者の理念 第4節 ビジネスにおける外部環境の知名度 第2章 組織のマネジメント p32～p53 第1節 組織の形態　第2節 経営理念と経営戦略　第3節 企業間連携と事業構造の再構築	第3章 経営資源のマネジメント p82～p99 第4節 財務的資源のマネジメント　第5節 情報的資源のマネジメント 第4章 企業の秩序と責任 p102～p139 第1節 企業統治(コーポレート・ガバナンス)　第2節 リスク・マネジメント　第3節 企業の社会的責任

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章 ビジネスとマネジメント 第1節 マネジメントの役割 第2節 イノベーションの重要性 第3節 創業者や経営者の理念 第4節 ビジネスにおける外部環境の知名度	【知識・技術】 ・企業の発展のためにマネジメントが果たす役割について、日本の伝統的経営が企業の発展にもたらした影響について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・技術革新、新しい商品や市場の開拓、新しいビジネスの仕組みや経営組織の形成などが企業に新たな利益をもたらすことについて、具体的な事例を用いて分析し、考察することができる。	1	1 2	○	
②	第2章 組織のマネジメント 第1節 組織の形態 第2節 経営理念と経営戦略 第3節 企業間連携と事業構造の再構築	【知識・技術】 ・機能別組織、事業部制組織、マトリックス組織、ライン・アンド・スタッフ組織、カンパニー制組織の形態とその特徴、専門化の原則、権限と責任の一致、統制範囲の適正化、命令の統一性の確保について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・経営理念及びそれに基づく経営目標、経営方針、経営行動基準、コーポレート・アイデンティティなどの意義について、具体的な事例と関連付けて考察することができる。	2	3 4	○	
③	第3章 経営資源のマネジメント 第1節 経営資源の種類と最適化 第2節 人的資源のマネジメント 第3節 物的資源のマネジメント	【知識・技術】 ・経営資源として人的資源、物的資源、財務的資源、情報的資源などがあること及び経営資源を最適に組み合わせて活用することの重要性について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・所得税の源泉徴収制度と住民税の特別徴収制度の概要及び医療保険、年金保険、労働保険など社会保険に関する企業の責任と負担について考察することができる。	3	5 6		
④	第4節 財務的資源のマネジメント 第5節 情報的資源のマネジメント	【知識・技術】 ・効率的な生産方式、調達ルートと販売ルートの確立など商品と施設・設備管理の方法及び物的資源をマネジメントする上での課題について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・財務管理の考え方、財務的資源をマネジメントする上での課題について学ぶ。また、株式と社債の発行、金融機関からの借入れなど資金調達の方法、様々な金融商品が生み出されている現状、情報技術の進歩に伴う金融サービスなどの変化、金融商品の利点とリスク及び資金の調達と運用の現状・課題について、具体的な事例と関連付けることができる。	4	7 8		○
⑤	第4章 企業の秩序と責任 第1節 企業統治(コーポレート・ガバナンス) 第2節 リスク・マネジメント 第3節 企業の社会的責任	【知識・技術】 ・環境の保護と保全、持続可能な社会の実現などが企業に求められている現状について、具体的な事例を用いて学ぶとともに、エシカル消費について理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・保険の意義と種類及び火災保険、賠償責任保険など企業において必要とされる各種保険の概要について考察することができる。	5	9 10		○
⑥	第5章 ビジネスの創造と展開 第1節 ビジネスの創造の意義と課題 第2節 プロジェクト管理 第3節 起業の意義と手続き	【知識・技術】 ・日本におけるビジネスの創造の意義と課題について扱い、具体的な事例を用いて理解することができる。 【思考・判断・表現】 ・プロジェクト管理について、その目的を理解し、リスクの測定、必要な経営資源の見積り、業務の系統化と割り振りを行い、期限や予算など制約条件を考慮してプロジェクトを遂行し、完了させるための計画の立案と実行管理の方法について考察することができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラーグWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	簿記	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東法190	商業710	簿記
副教材等	－	－	－

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、取引の記録と財務諸表の作成に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】
(2)取引の記録と財務諸表の作成の方法の妥当性と課題を見いだし、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対応することができる。【思考・判断・表現】
(3)企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第Ⅰ編　簿記の基本 第Ⅱ編　各種取引の処理 第1章～第8章	第Ⅱ編　各種取引の処理 第1章～第8章 第Ⅵ編　決算(2)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第Ⅰ編　簿記の基本	①　簿記の原理について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【知識・技術】 ②　取引を記録することと決算の意義について、企業活動の展開と関連付けて見いだすことができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	第Ⅱ編　各種取引の処理 第1章～第8章	①　取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】 ②　取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	第Ⅱ編　各種取引の処理 第9章～第10章 第Ⅲ編　決算(1)	①　決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】 ②　決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	第Ⅳ編　会計帳簿 第Ⅴ編　特殊な取引	①　取引の記帳について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】 ②　取引の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	第Ⅵ編　決算(2)	①　決算について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】 ②　決算の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	第Ⅶ編　本支店会計 第Ⅷ編　会計ソフトウェア	【本支店会計】 ①　本支店会計について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】 ②　本支店会計に関する取引の記録と財務諸表の合併の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応することができる。【思考・判断・表現】 【会計ソフトウェア】 ①　記帳の効率化について理論と実務とを関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。【知識・技術】 ②　記帳の効率化の方法の妥当性と実務における課題を見いだし、科学的な根拠に基づいて課題に対応すること。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	情報処理	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	7・実教	商業・715	最新情報処理 Advanced Computing
副教材等	–	–	–

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)企業において情報を扱うことについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける。【知識・技能】
(2)企業において情報を扱うことに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する。【思考・判断・表現】
(3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業において情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組む。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
1章 企業活動と情報処理 2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 第1節 コンピュータシステムの概要	3章 情報の集計と分析 4章 ビジネス文書の作成

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	1章 企業活動と情報処理	○情報システムの構成や処理方式の概要を理解している。【知識・技術】 ○日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができる。【知識・技術】 ○ビジネスにおける情報の役割を理解している。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、企業活動においての情報処理・技術の役割について検証し、自身の考えを発表することができる。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 1節 コンピュータシステムの概要	○コンピュータの基本的な機能と構成を理解している。【知識・技術】 ○ビジネスに活用できるハードウェアとソフトウェアを適切に構成して、その機能を活用する力を身に付けている。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、コンピューターシステムと情報通信ネットワークに関する課題を発見し、適切な情報収集を行い課題解決を行うことができる。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク 2節 情報通信ネットワークのしくみと構成 3節 インターネットの活用 4節 情報セキュリティの確保	○電子メールのマナーなどについて興味を持ち、適切に利用するとともに、危険性などについて理解している。【知識・技術】 ○個人が身に付けるべき方策や様々な問題点などについて理解している。【知識・技術】 ○情報技術におけるセキュリティ管理について興味を持ち、対策などを考察することができる。【思考・判断・表現】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、情報セキュリティの重要性を認識し、具体的な事例を関連付け今後の対策を自身の考えを踏まえ発表することができる。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	3章 情報の集計と分析	○情報の重要性について理解している。【知識・技術】 ○グラフの特徴や構成要素を理解し、目的に応じた適切なグラフを作成する力を身に付けている。【知識・技術】 ○情報を分析して適切に表現し、主体的かつ協働的に取り組むことができる。【思考・判断・表現】 ○基本的な操作や関数等について理解し、表を作成する技術を身に付けるとともに、適切に表現することができる。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	4章 ビジネス文書の作成	○情報と文書の関係などについて興味を持ち、各種文書の役割や文書の構成要素などについて理解している。【知識・技術】 ○ワードを利用した基本文書の作成に興味を持ち、様々な文書を適切に選択できる力を身に付けている。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、表計算ソフトウェアと連携した文書を作成することができるとともに、データの 差し込み機能などを使用し、自身の身に付けた知識・技術を表現することができる。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	5章 プレゼンテーション	○プレゼンテーション活動の意義や役割を理解している。【知識・技術】 ○情報収集や整理、内容構成など、プレゼンテーションの準備から評価改善に至るまでの一連の流れや基礎的な技法を身に付けている。【知識・技術】 ○上記の身に付けた知識・技術を基に、自身でビジネスの場面を想定し、目的や形態に応じた適切な方法を見い出し、資料作成を行うことができる。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
商業	プログラミング	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京法令出版	商業726	プログラミング
副教材等	–	–	–

学習目標

商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)プログラムと情報システムの開発について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】
(2)企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)企業活動を改善する力の向上を目指して自ら学び、企業活動に有用なプログラムと情報システムの開発に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
指定教科書　P2～P101 第1章　情報システムの重要性 　第1節　情報システムとプログラム　第2節　情報システムの利用 第2章　ハードウェアとソフトウェア 　第1節　ハードウェアの機能と動作　第2節　ソフトウェアの体系と役割 第3章　アルゴリズムの表現技法とデータ構造 　第1節　アルゴリズムの表現技法　第2節　データ構造 第4章　手続き型言語のプログラミング 　第1節　プログラミングの手順　第2節　データの入出力と演算	指定教科書　P141～P241 第4章　手続き型言語のプログラミング 　第4節　配列の利用 第5章　プログラムと情報システムの開発 　第1節　情報システム開発の手順と手法　第2節　プロジェクト管理

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章　情報システムの重要性 　第1節　情報システムとプログラム 　第2節　情報システムの利用 第2章　ハードウェアとソフトウェア 　第1節　ハードウェアの機能と動作 　第2節　ソフトウェアの体系と役割	【知識・技術】 ①企業における情報システムの重要性について扱い、情報システムを構築し、企業活動を改善している具体的な事例と関連付けて分析し、考察する力を身に付けることができる。 ②ハードウェアとソフトウェアについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータ内部の動きについてソフトウェアの実行と関連付けて考察し、ハードウェアが動作するためのソフトウェアの必要性を見いだすことができる。	①	1 2	○	
②	第3章　アルゴリズムの表現技法とデータ構造 　第1節　アルゴリズムの表現技法 　第2節　データ構造 第4章　手続き型言語のプログラミング 　第1節　プログラミングの手順 　第2節　データの入出力と演算	【知識・技術】 ①アルゴリズムについて理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報を処理する手順を見いだし、評価・改善することができる。 ②データの入出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用などを伴うプログラムと情報システムの開発について、プログラム言語の仕様に即して扱い、ビジネスに関する課題を設定して企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する力を身に付けることができる。	②	3 4	○	
③	第3節　条件判定と繰り返し	【知識・技術】 ①様々な条件により判定を行い、処理を選択するための技法、一定回数処理を繰り返すための技法及び条件に応じて処理を繰り返すための技法を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ②具体的に想定していないエラーが発生した際に適切な処理を行うための技法を身に付けることができる。	③	5 6		
④	第4節　配列の利用	【知識・技術】 ①実際にプログラムを作成して実行するまでの一連の手順を理解する。 【思考・判断・表現】 ①配列を利用する意義及び配列を利用して、集計、探索、順位付け、内部整列を行うための技法を身に付けることができる。	④	7 8		○
⑤	第5章　プログラムと情報システムの開発 　第1節　情報システム開発の手順と手法 　第2節　プロジェクト管理	【知識・技術】 ①プログラムと情報システムの開発について実務に即して理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①企業活動の改善に対する要求を分析し、科学的な根拠に基づいて、情報システムを開発し、評価・改善することができる。 ②人的資源、物的資源などの確保、費用の見積り、進捗管理などプロジェクト管理の意義と手法を身に付けることができる。	⑤	9 10		○
⑥	第3節　情報システムの評価と改善 　第4節　情報システム開発と法規等 第6章　手続き型言語を用いた情報システムの開発 　第1節　情報システムの開発演習① 　第2節　情報システムの開発演習② 第7章　オブジェクト指向型言語のプログラミング 　第1節　オブジェクト指向型言語 　第2節　UMLによる図解表現 　第3節　オブジェクト指向型言語を使ったアプリ開発	【知識・技術】 ①アプリケーションソフトウェアの基本的な機能を理解することができる。 ②オブジェクト指向型言語の特徴を理解することができる。 【思考・判断・表現】 ①データの入出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用などを伴うプログラムと情報システムの開発について、プログラム言語の仕様に即して扱い、ビジネスに関する課題を設定して企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する技法を身に付けることができる。 ②データの入出力、演算、条件判定、繰り返し処理、配列とファイルの利用などを伴うプログラムと情報システムの開発について、オブジェクト指向の考え方を踏まえるとともに、プログラム言語の仕様に即して扱い、ビジネスに関する課題を設定して企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発する力を身に付けることができる。	⑥	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
　前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報	情報産業と社会	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	実教出版	情報701	情報産業と社会
副教材等	–	–	–

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報産業を通じ、地域産業をはじめ情報社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)情報産業と社会について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】
(2)情報産業と社会との関わりに関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)情報技術者に必要とされる情報活用能力の習得を目指して自ら学び、情報社会に主体的かつ協働的に参画し寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P.4～P.61 第1章 情報社会の発展と情報産業 1節 情報社会の発展　2節 現代社会のおける問題解決　3節 情報社会の将来と情報産業 第2章 情報産業が果たす役割 1節 情報セキュリティ	P.93～P.143 第3章 情報とコミュニケーション 1節 情報の表現　2節 ICTを活用したコミュニケーション　3節 情報の管理 第4章 コンピュータとプログラミング 1節 コンピュータの仕組み

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P.4～P.27 第1章 情報社会の発展と情報産業 1節 情報社会の発展 2節 現代社会のおける問題解決	【知識・技術】 ①情報社会の進展と問題解決の方法、最新の情報と情報技術などについて基礎的な知識と技術を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①情報社会の進展によって生じている問題を発見し、最新の情報と情報技術などを適切かつ効果的に活用して創造的に解決するための考察ができる。	1	1 2	○	
②	P.28～P.61 第1章 情報社会の発展と情報産業 3節 情報社会の将来と情報産業 第2章 情報産業が果たす役割 1節 情報セキュリティ	【知識・技術】 ①将来の情報技術、これからの情報社会のあるべき姿、情報社会が抱える問題を解決するために情報産業が果たすべき役割などについて理解している。 ②情報セキュリティに関する基礎的な知識、自らの社会生活や情報技術者としての職務を遂行する際に求められる業務上の責任及び情報セキュリティ対策やマネジメントなどについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①情報社会の進展によって生じている問題を発見し、最新の情報と情報技術などを適切かつ効果的に活用して創造的に解決するための考察ができる。	2	3 4	○	
③	P.62～P.92 第2章 情報産業が果たす役割 2節 情報産業の役割 3節 情報技術者の責務	【知識・技術】 ①社会生活を支える基盤を担う情報産業の業務内容の重要性について理解している。 【思考・判断・表現】 ①情報社会が抱える課題を解決するために情報産業が果たすべき役割、情報産業が抱えている課題などについて考察し、理解を深めている。 ②情報や情報技術が果たしている役割を理解し、情報技術者として求められる資質・能力について考察し、理解を深めている。	3	5 6		
④	P.93～P.117 第3章 情報とコミュニケーション 1節 情報の表現 2節 ICTを活用したコミュニケーション	【知識・技術】 ①情報の表現における多様な技術や技法などの基礎的な知識を理解している。 ②コミュニケーションに活用される多様な情報技術や技法及び情報を管理するために必要となる基礎的な知識と技術を理解し、身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①情報を適切に活用することの必要性や重要性、望ましいコミュニケーションを図るために必要な力について考察することができる。 ②対象や目的に応じて表現することの重要性を理解している。 ③情報の表現や管理に関する課題を発見し、コンテンツ、メディア、ドキュメント及びこれを管理する方法などを活用して創造的に解決するための考察ができる。	4	7 8		○
⑤	P.118～P.143 第3章 情報とコミュニケーション 3節 情報の管理 第4章 コンピュータとプログラミング 1節 コンピュータの仕組み	【知識・技術】 ①情報の共有や情報を整理・分類するなど、情報を管理するために必要となる基礎的な知識を身に付けている。 ②コンピュータやデータベース及びネットワークシステムの仕組みについて理解している。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータやネットワーク及びプログラミングに関する課題を発見し、情報技術を活用することで創造的に解決するための考察ができる。	5	9 10		○
⑥	P.144～P.182 第4章 コンピュータとプログラミング 2節 アルゴリズムとプログラミング 3節 ネットワークの活用	【知識・技術】 ①コンピュータやデータベース及びネットワークシステムの仕組みについて理解するとともに、情報社会を支えているアルゴリズムやプログラミングに関する基礎的な知識と技術を身に付けている。 ②アルゴリズムとプログラムの作成過程について体系的・系統的に取り上げ、データ構造、アルゴリズム、モデル化やシミュレーションに関する基礎的な知識、プログラミングの有用性や重要性、課題解決のためにコンピュータを有効に活用する力を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ①コンピュータやネットワーク及びプログラミングに関する課題を発見し、情報技術を活用することで創造的に解決するための考察ができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報	情報の表現と管理	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	実教	702	情報の表現と管理
副教材等	–	–	–

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習を行うことなどを通して、情報産業の維持と発展を支える情報の表現と管理に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)情報の表現と管理について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けることができる。【知識・技術】
(2)情報の表現と管理に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決することができる。【思考・判断・表現】
(3)適切な情報の表現と管理を目指して自ら学び、情報産業の維持と発展に必要な情報の表現と管理に主体的かつ協働的に取り組む態度を理解しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技術」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章 情報社会と情報の表現 第1節 メディアと情報の表現 第2節 情報社会における情報の表現 第2章 メディアの特性とその表現 第1節 文字・図解による表現 第2節 音による表現	第5節 データサイエンスとデータの表現 第6節 情報の発信 第7節 コミュニケーションの基礎

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章 情報社会と情報の表現 第1節 メディアと情報の表現 第2節 情報社会における情報の表現	・情報社会における情報を表現することの重要性を取り上げ、表現の多様性や社会への影響、どのような情報が、どのようなメディアによって、どのように表現され、やりとりされているかについて自己の経験と関連付けて扱うことができる。【知識・技術】 ・携帯情報端末が普及し、コミュニケーション手段や表現手段が多様化していること、携帯情報端末の特徴として小型化、個別化及び移動性の高さなどがあること、携帯情報端末のカメラや各種センサなどの機能を生かした情報の表現方法などについて理解することができる。【思考・判断・表現】	1	1・2	○	
②	第2章 メディアの特性とその表現 第1節 文字・図解による表現 第2節 音による表現	・様々な条件、目的によって用いられる文字、音・音楽、静止画、動画などのメディアの特性や役割を取り上げ、情報の構造や順序を整理すること、図解して表現すること、コンピュータやソフトウェアを活用した音や静止画及び動画のデジタル化と編集、目的に応じた書体の選択などの情報を表現するための知識と技術を理解している。【知識・技術】 ・文字のデジタルデータは、利用者の特性や機器に応じて文字サイズやレイアウトを可変的に表現できること、図形においては言語や文章を使わずに情報を表現、伝達するピクトグラムを扱い表現することができる。【思考・判断・表現】	2	3・4	○	
③	第2章 メディアの特性とその表現 第3節 静止画による表現 第4節 動画による表現	・静止画、動画などのメディアの特性と役割、効果的な表現について理解している。【知識・技術】 ・生徒や地域の実態及び学科の特色等に応じ、静止画、動画では写真や映像作品の制作をはじめ、色彩の特性、コンピュータグラフィックスやアニメーション、3D モデルの作成、音・音楽では効果音の特性、合成音声などを含むコンピュータを用いた音楽などを扱い表現することができる。【思考・判断・表現】	3	5・6		
④	第2章 メディアの特性とその表現 第5節 データサイエンスとデータの表現	・データから有益な情報を見いだしたり、主張の根拠を示したり、可視化して分かりやすく表現するなどのデータ活用の有用性を取り上げ、データの収集、整理、整形、分析、解釈、表現などの基礎的な知識と技術、可視化、集計、要約、モデル化、予測などのデータサイエンスの手法を理解している。【知識・技術】 ・情報産業や社会において、多様かつ大量のデータから異なる事象の関連性を見いだしたり、将来を測ったりするなど、データ活用の重要性が増していることについて理解している。【知識・技術】 ・大学や企業などと連携し、実際の業務や研究にデータがどのように活用されているかに触れたり、自治体や各種団体から公開されている統計データなどを活用したりするなど、実践的、体験的な学習活動を行うことができる。【思考・判断・表現】	4	7・8		○
⑤	第2章 メディアの特性とその表現 第6節 情報の発信 第7節 コミュニケーションの基礎	・ブレーンストーミングなどの発想法や情報を整理する方法について取り上げ、個人やグループの考えをまとめる方法、目的や対象を意識して情報を発信したり、コミュニケーションしたりするための基礎的な知識と技術を習得することができる。【知識・技術】 ・プレゼンテーションを取り上げ、資料の作成や提示、発表や質疑応答の技法について扱う。その際、発表内容を構成する際に演繹えき法や帰納法に触れるなど論理的に考えたり、プレゼンテーション後に、自己評価や相互評価を行い、感想や評価を集め分析したりするなど、準備、振り返り及び改善に向けた学習活動を行うことが出来る。【思考・判断・表現】	5	9・10		○
⑥	第3章 第1節 情報の管理とドキュメンテーション 第2節 コンピュータによる情報の管理と活用 第3節 情報の保護とセキュリティ	・適切に情報を整理し管理するドキュメンテーションについて学ぶ。情報産業で作成、管理される様々なドキュメントとして、通知文、企画書、報告書及び仕様書などについて取り上げ、それぞれのドキュメントの作成方法について扱う。その際、規程などがある場合にはそれに則って、必要な情報を整理し分かりやすく作成することに留意することができる。【思考・判断・表現】 ・コンピュータを使ってドキュメントを有効かつ適正に管理し、活用するための手法を取り上げ、情報の構造を考慮したフォルダ構成や階層化、ファイルの命名規則や分類規則、バージョン管理、ネットワーク上の情報共有などについて学ぶ。その際、コンピュータを用いた適切な情報の管理が情報を活用するために有効であることを体験的に理解することができる。【思考・判断・表現】 ・不適切な情報発信、情報流出の問題について取り上げ、組織的、体系的な情報管理の重要性について学ぶ。情報セキュリティマネジメント、情報の管理に関連する法規、情報のバックアップや暗号化の基礎的知識などから、情報を安全かつ適正に管理、共有、活用する方法について扱う。個人における情報管理の重要性に加え、産業においては不適切な情報の管理は金銭や信用などを失い、組織としての責任を問われることについて理解している。【知識・技術】	6	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
情報	情報デザイン	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	実教出版	情報705	情報デザイン
副教材等	–	–	–

学習目標

情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、情報デザインの構築に必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)情報伝達やコミュニケーションと情報デザインとの関係について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。【知識・技術】
(2)情報デザインの手法、構成、活用に関する課題を発見し、情報産業に携わる者として合理的かつ創造的に解決する力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)情報デザインによる効果的な情報伝達やコミュニケーションの実現を目指して自ら学び、コンテンツやユーザインタフェースのデザインなどの構築に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
P.5～P.43 第1章　デザイン・情報・造形の基礎 第1節　デザインって何だろう　A・B・C 第2節　何をデザインするのか　A・B 第2章　デザインと表現 第1節　デザインの造形要素　A・B	P.68～P.111 第2章　デザインと表現 第3節　造形要素の構成　A・B 第3章　デザインの実際 第1節　デザインの検討　A・B・C

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	P.5～P.25 第1章　デザイン・情報・造形の基礎 第1節　デザインって何だろう A・B・C 第2節　何をデザインするのか A	【知識・技術】 ①社会における情報デザインの役割と対象について理解し、情報デザインの考え方を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①社会における情報伝達やコミュニケーションについての課題を発見し、情報デザインの考え方を活用して創造的に解決するための考察ができる。	1	1 2	○	
②	P.26～P.43 第1章　デザイン・情報・造形の基礎 第2節　何をデザインするのか B 第2章　デザインと表現 第1節　デザインの造形要素 A・B	【知識・技術】 ①形態や色彩の特性について理解するとともに、それらを情報デザインに活用するための技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①社会における情報伝達やコミュニケーションについての課題を発見し、情報デザインの考え方を活用して創造的に解決するための考察ができる。 ②利用者への情報の提示や行動の誘導における課題を発見し、形態や色彩が人間の心理に与える影響を利用して創造的に解決するための考察ができる。	2	3 4	○	
③	P.44～P.67 第2章　デザインと表現 第1節　デザインの造形要素 C 第2節　観察と表現 A・B	【知識・技術】 ①形態や色彩の特性について理解するとともに、それらを情報デザインに活用するための技術を身に付けることができる。 ②対象を観察する方法、観察の結果を表現するときの考え方、造形するための手法を理解している。 【思考・判断・表現】 ①利用者への情報の提示や行動の誘導における課題を発見し、形態や色彩が人間の心理に与える影響を利用して創造的に解決するための考察ができる。 ②観察の方法、表現するときの考え方、造形の手法の選択について考察することや同じ対象を観察した上で別のデザインを考えることなど、対象の観察を基に情報デザインを考察することができる。	3	5 6		
④	P.68～P.84 第2章　デザインと表現 第3節　造形要素の構成 A・B	【知識・技術】 ①情報デザインを具体化する一連の手順について理解するとともに、情報の収集、整理、構造化の方法を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①収集した情報から情報デザインによって解決すべき課題を発見し、目的を明確にして創造的にコンセプトを考え、情報デザインを構築するための考察ができる。 ②情報を観点別に整地し、その関係性を読み取り、組み合わせ構造化することができる。	4	7 8		○
⑤	P. 85～P.111 第3章　デザインの実際 第1節　デザインの検討 A・B・C	【知識・技術】 ①情報デザインを具体化する一連の手順について理解するとともに、情報の収集、整理、構造化の方法を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①収集した情報から情報デザインによって解決すべき課題を発見し、目的を明確にして創造的にコンセプトを考え、情報デザインを構築するための考察ができる。	5	9 10		○
⑥	P. 112～P.157 第3章　デザインの実際 第2節　デザインの活用 A・B・C 総合演習1　情報の理解を助けるデザイン 総合演習2　ショップをデザインする 資料　空想デザイン会社	【知識・技術】 ①情報産業における情報デザインの役割について理解するとともに、具体的な情報デザインを構築するための総合的な技術を身に付けることができる。 【思考・判断・表現】 ①地域や社会における情報伝達やコミュニケーションの具体的な課題を発見し、情報デザインについての総合的な実践力を活用して創造的に解決するための考察ができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理数科	ロボット数学Ⅰ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書			※クラーク作成の①パワーポイント、②テキスト(ロボット数学Ⅰ)
副教材等	–	–	–

学習目標

数学・理科・プログラミングに関する見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向けてこれらの知識・技術を適切かつ効果的に活用し、主体的に社会に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。
1)数学を学ぶ意味や目的、また数学の有用性についてをロボットを目的合わせて動かすための数学的思考やそのプログラミングを通して深めることができる【知識・技能】
2)数学と理科の横断的な学びを通して様々な事象とその結びつきとして捉え、問題の発見・解決に向けて数学・理科を適切かつ効果的に活用することができる【思考・判断・表現】
3)課題解決のために、ロボットを動かす数学・理科・プログラミングの知識・技術を適切かつ効果的に活用しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
単元1:移動ロボットを動かす(数直線・正負の数・1次関数)　単元2:ロボットシュート(1次関数、媒介変数) 単元3:色でボールを見つける(光の三原色・1次不等式)	単元6:2次関数とロボットの運動軌道生成(2次関数)　単元7:棒を倒さないロボットの移動(力と運動・2次関数) 単元8:イライラ棒(絶対値を含む不等式)　単元9:滑らかな軌道生成(2次関数)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	単元1:移動ロボットを動かす 単元2:ロボットシュート	単元1:数直線、正負の数、文字式、座標系、1次関数について理解することができる【知識・技能】 1次関数を関連させて座標平面上を動くロボットを表現することができる【思考・判断・表現】 単元2:1次関数、媒介変数について理解することができる【知識・技能】 ロボットシュートについて数学・物理学を関連させて表現することができる【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	単元3:色でボールを見つける	単元3:不等式の解法を理解することができる【知識・技能】 光の三原色とロボットの視覚を、RGBと不等式を用いて正確に表現することができる【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	単元4:ロボットの衝突 単元5:ロボットに多角形を描かす	単元4:連立方程式、2点間の距離について理解することができる【知識・技能】 2点間の距離を関連させてロボットの衝突を表現することができる【思考・判断・表現】 単元5:実数、原点からの距離、三角比と回転角度について理解することができる【知識・技能】 回転角度を関連させてロボットを正多角形に動かす指示を表現することができる【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	単元6:2次関数とロボットの運動軌道生成 単元7:棒を倒さないロボット移動 単元8:イライラ棒	単元6:1次関数、2次関数について理解することができる【知識・技能】 2次関数を関連させてロボットの動きから等加速度直線運動を表現することができる【思考・判断・表現】 単元7:力と運動ついて理解する【知識・技能】 物理学を関連させて実社会でのロボットの運動を表現することができる【思考・判断・表現】 単元8:絶対値と不等式、関数について理解することができる【知識・技能】 領域を絶対値を用いた不等式と関連させてイライラ棒を表現することができる【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	単元9:滑らかな軌道生成	単元9:2次関数の決定について理解することができる【知識・技能】 滑らかな軌道生成と2次関数を関連させて、障害物が描く軌跡・ロボットが運んだものが描く軌跡を表現することができる【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	単元10:パレタイジング作業	単元10:2次関数の最大値・最小値について理解することができる【知識・技能】 2次不等式の解法を理解することができる【知識・技能】 慣性の法則と2次関数を関連させて、パレタイジング作業における滑らかな曲線で軌道を表現することができる【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
理数	ロボット数学Ⅱ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	–	–	※クラーク作成の①パワーポイント、②テキスト(ロボット数学Ⅱ)
副教材等	–	–	アカデミックスカラロボット、ナノローバー

学習目標

数学・理科・プログラミングに関する見方・考え方を働かせ、問題の発見・解決に向けてこれらの知識・技術を適切かつ効果的に活用し、主体的に社会に参画するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。
(1)ロボットを目的に応じて動かすための数学的思考を身に付け、プログラミングを通して課題解決を行い数学の有用性についての理解を深める【知識・技能】
(2)数学と理科の横断的な学びを通して様々な事象に対して問題を発見し、よりよい解決方法を見出すために数学や理科を適切かつ効果的に活用することができる【思考・判断・表現】
(3)課題解決のためにロボットを動かす数学・理科・プログラミングの知識・技術を適切かつ効果的に活用しようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
単元11～12（p1～21)「ロボットの角度と距離による移動」を通して「三角関数」を学ぶ 単元13～15（p22～45)「ロボットの円形ゴールへの到達」を通して「円の方程式と 円の接線」を学ぶ	単元17（p51～55)「速度・加速度に注意して滑らかに物を運ぶには」を通して「微分法と積分法」を学ぶ 単元18～20（p56～75)「ロボットをベクトルで動かす」を通して「 ベクトル 」を学ぶ

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	単元11～12（p1～21)「ロボットの角度と距離による移動」を通して「三角関数」を学ぶ	【知識・技能】 ①弧度法と度数法について理解し、場面に応じて適切な角度の表し方で表すことができる。 ②三角関数について理解し、そのグラフを描くことができる。 【思考・判断・表現】 ①三角関数を用いて、ロボットに適切な指示をすることで課題解決に活用することができる。	1	1 2	○	
②	単元13～15（p22～45)「ロボットの円形ゴールへの到達」を通して「円の方程式と 円の接線」を学ぶ	【知識・技能】 ①円の中心と半径について理解し、円の方程式を求めることができる。 ②円と直線の共有点について理解し、接線の方程式を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①円の方程式を用いて、ロボットに適切な指示をすることで課題解決に活用することができる。	2	3 4	○	
③	単元16（p46～50)「桁数の大きな数を上手に使うには」を通して「指数関数と対数関数」を学ぶ	【知識・技能】 ①指数と対数について理解し、正確に計算することができる。 ②常用対数を用いて、大きな数の計算に活用することができる。 【思考・判断・表現】 ①大きな数の計算について、工夫をしてよりよい計算方法を導き出すことができる。	3	5 6		
④	単元17（p51～55)「速度・加速度に注意して滑らかに物を運ぶには」を通して「微分法と積分法」を学ぶ	【知識・技能】 ①速度と加速度について理解し、与えられた条件から速度や加速度を計算することができる。 ②微分と積分の意味を理解し、速さの計算に活用することができる。 【思考・判断・表現】 ①ロボットの手先軌道について滑らかに物を運ぶための運び方を考察することができる。	4	7 8		○
⑤	単元18～20（p56～75)「ロボットをベクトルで動かす」を通して「 ベクトル 」を学ぶ	【知識・技能】 ①平面上のベクトルについて、大きさや成分、内積について理解し、計算することができる。 ②空間上のベクトルについて、大きさや成分、内積について理解し、計算することができる。 【思考・判断・表現】 ①ベクトルを用いて、ロボットの手先軌道を指示することで課題解決に活用することができる。	5	9 10		○
⑥	単元21（p76～81)「数列を使用してロボットの動きを計算してみよう」を通して「数列」を学ぶ	【知識・技能】 ①等差数列について、一般項や和の公式を理解し、一般項や和を求めることができる。 ②等比数列について、一般項や和の公式を理解し、一般項や和を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ①数列を用いて、ロボットの移動速度や距離を考察することができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
専門体育	スポーツ概論	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社	保体703 保体704	高等学校　保健体育　Textbook 高等学校　保健体育　Activity
副教材等	–	–	–

学習目標

体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、健やかな心身の育成に資するとともに、生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)スポーツの多様な意義やスポーツの推進及び発展の仕方について理解するとともに、スポーツの推進及び発展に必要な技能を身に付ける。【知識・技能】
(2)スポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝える力を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3)生涯を通してスポーツの推進及び発展に寄与するための学習に主体的に取り組もうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1章第1～3節(教科書p.6～23) 第1章第4～5節、第2章第1節(教科書p.26～51)	第3章第2節、第4章第1節(教科書p.78～101) 第4章第2節、第5章(教科書p.102～133)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1章第1～3節(教科書p.6～23)	【知識・技能】 ①健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解することができる。 ②健康を保持・増進するとともに、生活習慣病を予防するために、基本的な生活習慣である「食事」の意義や役割についての理解を深める。 【思考・判断・表現】 ①生活習慣病とのかかわりで、健康的な生活習慣としての「食事」のあり方を考えることができる。 ②食事の重要性を理解し、「食べること」の意義や食事の文化について調べることができる。	1	1 2	○	
②	第1章第4～5節、第2章第1節(教科書p.26～51)	【知識・技能】 ①人間の行動や精神活動などの全てをコントロールしている、脳・神経系・内分泌系の各部の働きについての理解を深める。 ②大脳の各部の働きによる行動、精神活動に関する正しい知識をもつことができる。 【思考・判断・表現】 ①自らの行動と、そのときの脳の働きについて、関連づけて考えることができる。 ②大脳を中心とした身体の機能調節についての情報を積極的に収集し、学習することができる。	2	3 4	○	
③	第2章第2節、第3章 第1節(教科書p.52～77)	【知識・技能】 ①心肺蘇生法の手法について、正しい知識と技能を身に付けることができる。 ②日常おこるけがなどに対する手当の方法について知るとともに、熱中症への対策・予防についての理解を深める。 【思考・判断・表現】 ①傷病者を救命するために行う胸骨圧迫・AEDの使用法・気道の確保・人工呼吸について、実習などを通じて確実に身に付けようとすることができる。 ②けがの状態に応じた応急手当の手法について、自らが経験したことなどと照らし合わせて、積極的に学習できる。	3	5 6		
④	第3章第2節、第4章第1節(教科書p.78～101)	【知識・技能】 ①食品による健康被害の種類を知り、このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。 ②食品による健康被害と、その予防のために行われている対策について、正しい知識をもつことができる。 【思考・判断・表現】 ①自らの食生活において、健康被害に遭わないために必要な行動を、適切に選択することができる。 ②食品によって起こる健康被害や、防止のための対策などについて、積極的に調べることができる。	4	7 8		○
⑤	第4章第2節、第5章(教科書p.102～133)	【知識・技能】 ①世界でのスポーツの歴史を知るとともに、わが国から世界に普及し、発展しているスポーツがあることについての理解を深める。 ②スポーツに対する考え方の変化を知るとともに、スポーツも時代とともに変わり続けており、その変化には様々な功罪もあることについての理解を深める。 【思考・判断・表現】 ①現在、自らが行ったことのあるスポーツについて調べるなど、身近なものとして考えることができる。 ②現代社会におけるスポーツの捉えられ方や、スポーツの発展、スポーツ環境の変化などについての情報を積極的に収集できる。	5	9 10		○
⑥	第6章、第7章(教科書p.138～163)	【知識・技能】 ①運動技能の上達のためには、客観的な評価とともに適切な運動課題の設定が必要であることや、具体的な運動技能を高めるための方法について理解を深める。 ②運動の実施にあたっては、スポーツ外傷・障害などを引き起こさないために、様々な配慮が必要であることについての理解を深める。 【思考・判断・表現】 ①技能を高めるための方法について、自らの経験に当てはめて考えることができる。 ②スポーツ外傷・障害を起こさないためには、どのような配慮が必要であるのかを積極的に学習できる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
保健体育	スポーツⅡ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	大修館		ステップアップ高校スポーツ
副教材等	–	–	–

学習目標

球技の専門的な理解と高度な技術の習得を目指した主体的、合理的、計画的な実践を通して、自己の課題を解決できるようにするとともに、生涯を通してスポーツの振興発展にかかわることができる資質や能力を育てる。
(1)球技の推進及び発展に向けた多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けることができる。【知識・技能】
(2)球技における自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】
(3)球技の学習に主体的に取り組むとともに、公正、協力、責任、参画、共生などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、障害を通じてスポーツを継続するとともにスポーツの推進及び発展に寄与しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
バスケットボール　ハンドボール　サッカー　ラグビー	テニス　ソフトテニス　卓球　バドミントン

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	ゴール型球技の理解とその実践Ⅰ Ⅱ バスケットボール・ハンドボール	・バスケットボール、ハンドボールへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。【知識・技能】 ・バスケット、ハンドボールにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】	①		○	
②	ゴール型球技の理解と実践ⅢⅣ サッカー・ラグビー	・サッカー、ラグビーへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。【知識・技能】 ・サッカー、ラグビーにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】	②		○	
③	ネット型球技の理解と実践Ⅰ バレーボール	・バレーボールへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。【知識・技能】 ・バレーボールにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】	③			
④	ネット型球技の理解と実践Ⅱ Ⅲ テニス・ソフトテニス	・テニス、ソフトテニスへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。【知識・技能】 ・テニス、ソフトテニスにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】	④			○
⑤	ネット型球技の理解と実践ⅣⅤ 卓球・バドミントン	・卓球、バドミントンへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。【知識・技能】 ・卓球、バドミントンにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】	⑤			○
⑥	ベースボール型球技の理解と実践Ⅰ ソフトボール	・ソフトボールへの「する、みる、支える、知る」などの多様な関わり方を理解するとともに、技能を身に付けようとしている。【知識・技能】 ・ソフトボールにおける自他や社会の課題を発見し、思考し判断するとともに、他者に伝えることができる。【思考・判断・表現】	⑥			

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
美術	素描	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
8	4	0	4

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	光村図書	美Ⅰ701	美術1
副教材等	–	–	–

学習目標

素描の学習を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、専門的な美術に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1) 表現材料の特性について理解を深めるとともに、対象を深く観察して表現を工夫しながら的確に描写する基礎となる技能を身に付けている。【知識・技能】
(2) 対象のイメージや空間を把握するための基礎となる思考力、判断力、表現力等を身に付けている。【思考・判断・表現】
(3) 造形表現を追求しようとしている。【主体的に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
報告課題1・2回目 (身近なものを描く・鉛筆で描く、静物画)	報告課題4・5回目 (風景画・水墨画)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	身近なものを描く・鉛筆で描く (p80～83、p6・7、p23、p114)	・形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、身近なものやそれらを描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。【知識・技能】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。【知識・技能】 ・身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】 ・身近なものを描いた作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】	①	1・2	○	
②	静物画 (p8・9、p21、p78・79、p82・83、p86～95、p108～110、p118)	・形や色、質感などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、身近なものやそれらを描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。【知識・技能】 ・意図に応じて材料や用具の特性を生かすとともに、色や質感などの表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。【知識・技能】 ・身近なものを見つめ、感じ取った特徴やものに対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、構図、材料や用具の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】 ・身近なものを描いた作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】	②	3・4	○	
③	人物画 (p8・9、p21、p78・79、p82・83、p86～95、p108～110、p118)	・形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、自己をあらわした作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。【知識・技能】 ・意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、表現の形態や方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。【知識・技能】 ・自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や量感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】 ・自己をあらわした作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】	③	5・6		
④	風景画 (p20～27a、p84、85、p107、p108～110、p117)	・形や色、材料、光などが感情にもたらす効果や、光や陰影、奥行きなどの造形的な特徴などをもとに、風景や風景を描いた作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。【知識・技能】 ・意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、表現を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。【知識・技能】 ・心ひかれる風景を見つめ感じ取ったことや、その風景に対する自分の思いなどから主題を生成し、形や色、光や陰影、構図や奥行きなどについて考え、創造的な表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】 ・描かれている風景の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者が作品に込めた思いや意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】	④	7・8		○
⑤	水墨画 (p12～19、p90、91、p108～110)	・墨の性質や筆致の勢いなどが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、墨で描かれた作品を、全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。【知識・技能】 ・意図に応じて墨や筆の特性を生かすとともに、表現方法を工夫して創造的にあらわしている。【知識・技能】 ・墨による表現のさまざまな効果などから主題を生成し、墨の特性を生かした表現方法などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】 ・墨のにじみや濃淡による表現の豊かさなどの造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図や工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】	⑤	9・10		○
⑥	習作・下描き・構想のための素描 (p38・39、p48～65、p75・76、p96・97、p103・104)	・形や色、材料などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、自己をあらわした作品を、全体のイメージや作風などで捉えることを理解している。【知識・技能】 ・意図に応じて材料や用具を選択し、その特性を生かすとともに、表現の形態や方法を工夫し、主題を追求して創造的にあらわしている。【知識・技能】 ・自己を見つめ、感じ取ったことや考えたことから主題を生成し、単純化や省略、強調、材料の質感や量感を生かした表現などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。【思考・判断・表現】 ・自己をあらわした作品の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めている。【思考・判断・表現】	⑥	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語	総合英語Ⅰ	2	6	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
4	2	0	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	C1･703	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMNICATION Ⅰ
副教材等	－	－	－

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方･考え方を働かせ、外国語による聞くことや読むこと、話すこと[やり取り]、自分の考えやチームの意見を話すこと[発表]、書くことの五つの領域別の言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質･能力を育成することを目指す。
(1)英語の文法や構文、その他特徴などを理解し、実践的なコミュニケーションで活用するためのスキルを身につけることができる【知識･技能】
(2)英語を用いる場面や状況に応じて、適切に判断し表現することができる【思考･判断･表現】
(3)身につけた知識や表現を適切に用いるために、身近な場面を想定しながら情報を整理し、伝えようとしている【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的･基本的な知識･技能」、「課題を解決するために必要な思考力･判断力･表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
報告課題1･2回目 Unit 1～ Unit 3	報告課題4･5回目 Unit6 ～ Unit7

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	p8～ Unit 1 p22～ Unit 2	Unit1 ･学校新聞や科学雑誌の記事の語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･記事の論点や論証を読み取り、適切な表現で自分の考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･受け身、不定詞、動名詞、つなぎ言葉について正しく理解している。【知識･技能】 Unit2 ･機内誌やブログ記事での語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･記事の具体例を読み取り、適切に理解し、自分の考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･助動詞、受け身、現在完了進行形、伝聞の表現について正しく理解している。【知識･技能】	①	1･2	○	
②	p38～ Unit 3	Unit3 ･Eメールや地方新聞の記事での語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･Eメールでの質問と回答、記事の主題を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･分詞の形容詞用法、関係代名詞について正しく理解できる。【知識･技能】	②	3･4	○	
③	p52～ Unit 4 p68～ Unit 5	Unit4 ･博物館のパンフレットや展示物のパネルでの語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･パンフレットや展示パネルの概要、年表、解説を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･現在完了形の受け身、過去完了形について正しく理解できる。【知識･技能】 Unit5 ･ウェブの記事、イベントリーフレットでの語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･ウェブ記事でポイントとなる秘訣や、案内の流れを読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･SOVCでの分詞、関係副詞how、助動詞の過去形について正しく理解できる。【知識･技能】	③	5･6		
④	p82～ Unit 6	Unit6 ･オンライン百科事典の伝記やウェブ記事の語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･伝記での経歴や記事の要素を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･分詞構文や関係副詞where(when/why)について正しく理解できる。【知識･技能】	④	7･8		○
⑤	p98～ Unit 7	Unit7 ･英字新聞の記事やエッセイでの語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･記事での心情の変化やエッセイでの理由を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･原型不定詞、仮定法過去完了、過去完了進行形について正しく理解できる。【知識･技能】	⑤	9･10		○
⑥	p112～ Unit 8 p128～ Optional Reading 1 p134～ Optional Reading 2	Unit8 ･ウェブの記事や雑誌の記事での語彙や重要表現を理解することができる。【知識･技能】 ･記事での類似点や相違点、またアドバイスを読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 ･関係代名詞what、関係代名詞の非制限用法について正しく理解できる。【知識･技能】 Option Reading1 ･登場人物の行き違いを読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】 Option Reading2 ･登場人物の心情を読み取り、適切な表現で考えを伝えることができる。【思考･判断･表現】	⑥	11･12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的･基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的･基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識･技能」(35%)、「思考･判断･表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語	総合英語Ⅱ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	東京書籍	CⅡ703	ENRICH LEARNING English COMMUNICATION Ⅱ
副教材等	–	–	–

学習目標

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、英語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)必要な情報を聞き取り、話の展開や話し手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】
(2)必要な情報を読み取り、文章の展開や書き手の意図を把握することができる。【思考・判断・表現】
(3)日常的な話題について、使用する語句や文、対話の展開などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを詳しく話して伝え合うやり取りを続けることができる。【主体的に学習に取り組む態度】
(4)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して詳しく話して伝えることができる。【知識・技能】
(5)日常的な話題について、使用する語句や文、事前の準備などにおいて、支援をほとんど活用しなくても、多様な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどを論理性に注意して複数の段落から成る文章で詳しく書いて伝えることができる。【知識・技能】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
Unit1 ～ Unit4(p8～57)	Unit7 ～ Unit10(p.82～130)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	(p.8～41) Unit 1 What can we do to prevent endemic species from becoming extinct? Unit 2 Which sports can really be called sports?	Lesson1 【知識・技能】 ①助動詞＋完了形、不定詞の意味上の主語を用いた文の形・意味・用法を理解している。 絶滅危惧種の生息地や見た目の特徴などについて説明するための適切な表現や方法を理解している。 ②特定の絶滅危惧種について、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などを話して伝える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 特定の絶滅危惧種について知ってもらうために、参照した情報を基に、生息地や見た目の特徴などという重要な点を簡潔に整理して、聞き手にわかりやすく詳細を話して伝えている。 Lesson2 【知識・技能】 ①受け身の不定詞、助動詞doによる強調を用いた文の形・意味・用法を理解している。 興味を示したり断ったり、主張と根拠を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ②部活動について興味を示したり断ったり、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 部活動についての勧誘の場面で興味を示したり断ったり、ディベートの場面で、eスポーツをスポーツとみなすかについて主張と根拠を伝え合ったりしながら、自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	1	1 2	○	
②	(p.42～57) Unit 3 How do we choose what we eat? Unit 4 How have inventions changed history?	Lesson3 【知識・技能】 ①当行詞を含む関係副詞、否定語の倒置を用いた文の形・意味・用法を理解している。 レストランのレビューで用いられる語いや表現、評価・汀したり、感想を述べたりする適切な方法を理解している。 ②レストランをお勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価・汀したり、感想を述べたりしながら、詳細を書く技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 友達にレストランを紹介するために、お勧めするかどうかについて、自分の体験・経験を基に、情報を伝えたり評価・汀したり、感想を述べたりしながら、事実と意見を区別して、詳細を整理して書いている。 Lesson4 【知識・技能】 ①強調構文、関係副詞の非制限用法を用いた文の形・意味・用法を理解している。 発明品について、事実と意見を説明するための適切な表現や方法を理解している。 ②発明品の世の中への影響について、見聞した情報を基に、事実と意見を区別しながら話して伝える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 特定の発明品について知ってもらうために、それが世の中にどの程度影響を与えたのかについて、見聞した賛成・反対の立場の意見や情報を基に、聞き手に納得してもらえるよう、事実と意見を区別しながら、詳細をわかりやすく話して伝えている。	2	3 4	○	
③	(p.58～81) Unit 5 What can we learn from traveling? Unit 6 How do people's personalities affect their behavior?	Lesson5 【知識・技能】 ①接続詞＋分詞、完了不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 利点と欠点を踏まえたうえで、自分の意見を書くための適切な方法を理解している。 ②ギャップ・イヤーの普及について、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、自分の意見を複数のパラグラフで書く技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ギャップ・イヤーの普及について、自分の意見を伝えるために、利点と欠点を踏まえたうえで、つなぎ言葉を用いながら、構成を意識して、複数のパラグラフで論理的に書いている。 Lesson6 【知識・技能】 ①部分否定を用いた文の形・意味・用法を理解している。 アンケート結果について、分析結果を伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ②性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、話して伝える技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 プレゼンテーションの場面で、性格に関するアンケートについて、クラスメートの回答結果を基に、割合を表したり解釈を付け加えたりして、詳細を簡潔に整理して聞き手にわかりやすく話して伝えている。	3	5 6		
④	(p.82～111) Unit 7 Who should we celebrate on our money? Unit 8 How can we find out if news is real or fake?	Lesson7 【知識・技能】 ①受け身の進行形、be動詞＋不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 相手の意見に応じるための適切な表現や方法を理解している。 ②紙幣に取り上げるべき人物について、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 紙幣に取り上げるべき人物について、グループの意見をまとめるために、相手の意見に適切に応じながら、自分の考えを即興で話し、詳細を伝え合っている。 Lesson8 【知識・技能】 ①複合関係副詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 事実と意見を分けて伝えるための適切な表現や方法を理解している。 ②ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 ニュースの真偽を判断するために、ある記事を読んで分析した内容について、事実と意見を区別しながら、情報や自分の考えを即興で話して、詳細を伝え合っている。	4	7 8		○
⑤	(p.112～130) Unit 9 What is important when choosing a job? Unit 10 How can we improve our school?	Lesson9 【知識・技能】 ①過去の習慣を表す表現を用いた文の形・意味・用法を理解している。 長所や経験を伝え合ったり、情報を詳しく聞き出したりするための適切な表現や方法を理解している。 ②仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考えを即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 就職面接を想定した場面で、仕事をするうえでの長所や経験について、情報や自分の考え、評価を即興で話して、詳細を伝え合っている。 Lesson10 【知識・技能】 ①未来進行形、未来完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 自分の考えを理由とともに伝え合うための適切な表現や方法を理解している。 ②学校の改善について、自分の考えを理由とともに、即興で話して伝え合う技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 学校の改善について互いの意見を共有するために、自分の考えを理由ともに、即興で話して詳細を伝え合っている。	5	9 10		○
⑥	(p.131～149) Active Reading 1 The Wolf's Tale Active Reading 2 Emergency Landing	Lesson11 【知識・技能】 ①語や句、文における強勢、イントネーションや区切りを意識して音読している。 物語で用いられている語、句、文の意味を理解している。 ②語、句、文の理解を基に、物語の内容を読み取る技能に加え、背景知識を生かしながら、異なる視点から物語を読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 物語の核心を捉えることができるように、その概要や詳細、根拠を読み取ったり、背景知識を生かしながら異なる視点から読み取ったりしている。 Lesson12 【知識・技能】 ①語や句、文における強勢、イントネーションや区切りを意識して音読している。 物語で用いられている語、句、文の意味を理解している。 ②語、句、文の理解を基に、物語の内容や登場人物の感情の動きを読み取る技能を身に付けている。 【思考・判断・表現】 物語の展開・結末を理解し、続きを考えられるように、その概要や詳細、登場人物の感情の動きを読み取ったり、話の展開を予想・想像しながら物語を読み取ったりしている。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
英語	ディベート・ディスカッションⅠ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	いいずな書店	論Ⅰ・716	Harmony English Logic and Expression Ⅰ
副教材等	–	–	–

学習目標

日常的な話題や社会的な話題について、使用する語句や文、対話の展開、事前の準備などにおいて、一定の支援を活用すれば、ディベートやディスカッションなどの活動を通して、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、基本的な語句や文を用いて、意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して話して伝え合うことができる。
(1)外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付ける。【知識・技能】
(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる。【思考・判断・表現】
(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
Unit1 ～ Unit4 (p.19～34、p.41～48)	Unit7 ～ Unit8 (p.65～72、p.77～84、p.89～99)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	(p.19～30) Lesson 1 Meeting New People Lesson 2 Last Weekend Lesson 3 Weekend Plans	Lesson1 【知識・技能】 ①事柄や話題について、内容を整理し、現在進行形などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 ②頻度を表す副詞を適切な位置に配して、正しく英文を書くことができる。 【思考・判断・表現】 自己紹介の冒頭・しめくくりでは、クラスメイトに対し、語りかけるようにあいさつを述べることができる。 Lesson2 【知識・技能】 ①実際にしたこと(事実)と、それをして思ったこと(感想)を区別して伝えることができる。 ②過去進行形を用いて、正しく英文を書くことができる。 【思考・判断・表現】 事柄や話題について、内容を整理し、過去形・過去進行形などを用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 Lesson3 【知識・技能】 ①相手の発言に対し、適切な疑問詞を用いて、くわしくたずねることができる。 ②事柄や話題について、内容を整理し、未来の表現を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、週末の予定について話すことができる。	1	1 2	○	
②	(p.31～34、p.41～48) Lesson 4 A Short Trip Lesson 5 School Rules Lesson 6 Are You All Right?	Lesson4 【知識・技能】 ①あるトピックに沿って、相手に質問を投げかけて、会話のきっかけをつくることができる。 ②現在完了形を正しく用いて、これまでに経験したことについて書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、特別な経験について話すことができる。 Lesson5 【知識・技能】 ①誰かに対し、してもよいこと、してはいけないことを述べることができる。 ②事柄や話題について、内容を整理し、助動詞を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、してはいけないことについて話すことができる。 Lesson6 【知識・技能】 ①ある出来事についての推測を述べることができる。 ②助動詞must、shouldを用いて、確信していることや推測していることについての英文を正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、ある出来事の推測について話すことができる。	2	3 4	○	
③	(p.51～54、p.57～64) Lesson 7 Things Japanese Lesson 8 Talking about Dreams Lesson 9 To Keep Fit	Lesson7 【知識・技能】 ①相手がしてきたあるものについての質問に対し、素材や形など詳しく説明することができる。 ②(be＋過去分詞＋with/at/to/of＋もの・こと)を用いて正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、あるものの説明をすることができる。 Lesson8 【知識・技能】 ①これから先のことや、したいと考えていることについて、伝えることができる。 ②不定詞(名詞用法)を用いて正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、将来の夢について話すことができる。 Lesson9 【知識・技能】 ①何かをする・しないと言うときに、その理由を説明することができる。 ②不定詞を用いて、健康維持のコツについて書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、「～するため」という説明を加えて話すことができる。	3	5 6		
④	(p.65～72、p.77～80) Lesson 10 Our Future Devices Lesson 11 Talking about Likes and Dislikes Lesson 12 Reporting Something Unusual	Lesson10 【知識・技能】 ①誰かにさせる、誰かができるようにすると伝えることができるようにする。 ②使役動詞を用いて許可、依頼、強制の意味を表す英文を正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、誰かにさせる、誰かができるようにすると話すことができる。 Lesson11 【知識・技能】 ①事柄や話題について、内容を整理し、動名詞を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりできる。 ②動名詞(目的語)を用いて何かをして楽しんだり、何かをすることに興味があるという英文を正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、実際にしていることについて話すことができる。 Lesson12 【知識・技能】 ①あるもの・ことに情報を加えて話すことができる。 ②分詞形容詞を用いてもの・ことによって引き起こされた驚き・喜びなどを表す説明を正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、あるもの・ことに情報を加えたり、それによって引き起こされた驚きについて話すことができる。	4	7 8		○
⑤	(p.81～84、p.89～99) Lesson 13 Being in Trouble Lesson 14 Great Achievements Lesson 15 What´s SDGs?	Lesson13 【知識・技能】 ①同情・共感の気持ちを伝えることができる。 ②(see/hear＋名詞＋分詞)を用いて見たり聞いたりした一場面についての説明を正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、トラブルを報告してきた相手に寄り添うコメントを交えて話すことができる。 Lesson14 【知識・技能】 ①相手に同意を求めたり、確認したりすることができる。 ②関係代名詞(目的格)を用いて正しく英文を書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、ある人・ものについてより詳しい情報を追加しながら相手に話すことができる。 Lesson15 【知識・技能】 ①驚き、喜び、悲しみなどの気持ちを伝えることができる。 ②関係副詞(when)を用いてある時がどういう時なのかを正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、プロジェクト学習のためにSDGsについての説明をすることができる。	5	9 10		○
⑥	(p.110～118) Lesson 16 Climate Change Lesson 17 Food Waste Lesson 18 Water Problem	Lesson16 【知識・技能】 ①あるところにある(存在)するものについて伝えることができる。 ②(倍数／分数＋as … as)を用いて2つのもの・2人を比べて程度を倍数で説明したり分数で説明したりして正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、ある日の寒さについて話すことができる。 Lesson17 【知識・技能】 ①何かを提案することができる。 ②最上級を使う表現を用いて正しく書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、新聞記事を見て気が付いたことについて話すことができる。 Lesson18 【知識・技能】 ①余談中に相手にやりたいと思っている願望について伝えることができる。 ②(wish/if only＋仮定法)を用いて実現しそうにない願望や強い願望について書くことができる。 【思考・判断・表現】 モデル会話の人物になりきって、世界の水問題についてのプレゼン準備をすることができる。	6	11 12		

【面接指導(スクーリング)】※変更があった場合は、実施報告書にて変更内容を記載すること

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
　前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合	論理Ⅰ	1	3	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	1	0	1	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	水王舎	-	論理Ⅰ
副教材等	–	–	–

学習目標

高大接続の場面において「小論文」をはじめ、一般入試における記述式問題の改善等を含めて、論理的に考え、表現する力の重視が進んでいる。論理は「思考・判断・表現」の根源であることから、これらについて学ぶことで「論理的思考力」を身につけることを目的とする。
(1)社会の変化に臨機応変に対応できる「論理的思考力」を理解している。【知識・技能】
(2)意識して「論理的思考力」を活用しようとし、「書く・話す・読む・聞く」に「論理的思考力」を当てはめて表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)社会で長く活躍する人材になるべくさまざまな場面で「論理的思考力」を活用しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1講　現代文で最も大切なこと　～本書を学ぶ皆さんに 第2講　一文の構造 第3講　言葉のつながり 第4講　文の作成	第5講　文と文との論理的関係 第6講　指示語と論理的展開 第7講　文章の論理的読解Ⅰ　具体例・体験 第8講　文章の論理的読解Ⅱ　体験・引用・比喩 第9講　文章の論理的読解Ⅲ　対立関係・因果関係

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1講　現代文で最も大切なこと ～本書を学ぶ皆さんに	・論理を学ぶ意義について知り、「論理」=「すじ道」であることを理解している。【知識・技能】 ・情報を整理する方法を学び、活用することができる。【思考・判断・表現】	①	1	○	
②	第2講　一文の構造	・文の構造についての知識を確実に身につけている。【知識・技能】 ・文を大別すると「要点(=主語と述語)」と「飾り」になること、および「要点」「飾り」がどういうものなのかを知り、区別することができる。【思考・判断・表現】	①	1	○	
③	第3講　言葉のつながり	・言葉のつながりについて改めて確実に認識している。【知識・技能】 ・「なんとなく」「ぼんやり」で終わらせず、仕組みや本質を汲み取りしっかり認知することができる。【思考・判断・表現】	①	2	○	
④	第4講　文の作成	・文の構造を理解している。【知識・技能】 ・第1講～第3講で学習したことをすべて用いれば文は作れるということを理解し、その理解をもとに文を作成することができる。【思考・判断・表現】	①	2	○	
⑤	第5講　文と文との論理的関係	・文と文がどのような関係になっているかを理解している。【知識・技能】 ・接続語の持つ性質を理解し、接続語のつながりに論理的関係があることを理解し活用することができる。【思考・判断・表現】	②	3		○
⑥	第6講　指示語と論理的展開	・指示語が文をどう関連付けるのか、そのはたらきについて理解している。【知識・技能】 ・指示語のはたらきを理解したうえで読解に役立てることができる。【思考・判断・表現】	②	4		○
⑦	第7講　文章の論理的読解Ⅰ 具体例・体験	・これまで学習し、身につけてきた日本語能力をすべて使って、「考えながら読む」ことができる。【知識・技能】 ・なぜ「具体例」や「体験談」を文章に盛り込むのかを考え理解し、読解に役立てることができる。【思考・判断・表現】	③	5		○
⑧	第8講　文章の論理的読解Ⅱ 体験・引用・比喩	・これまで学習し、身につけてきた日本語能力をすべて使って、「考えながら読む」ことができる。【知識・技能】 ・なぜ「体験」や「引用」「比喩」を文章に盛り込むのか、そのはたらきは何かを考え理解し、読解に役立てることができる。【思考・判断・表現】	③	5		○
⑨	第9講　文章の論理的読解Ⅲ 対立関係・因果関係	・これまで学習し、身につけてきた日本語能力をすべて使って、「考えながら読む」ことができる。【知識・技能】 ・「対立関係」「因果関係」それぞれの特徴と文章内での用いられ方を理解し、読解に役立てることができる。【思考・判断・表現】	③	6		○
⑩	第10講　客観的分析Ⅰ	・文章の種別に関わらず「客観的」に読み解くことで、「読解力」を涵養している。【知識・技能】 ・「主観的」な意識を排除し、書かれていることを論理的に分析することができる。【思考・判断・表現】	–	–		
⑪	第11講　客観的分析Ⅱ	・文章の種別に関わらず「客観的」に読み解くことで、「読解力」を涵養している。【知識・技能】 ・「感情移入」による「共感」や「反発」を起こさずに、「主観的」にならないように文章を読むことができる。【思考・判断・表現】	–	–		
⑫	第12講　総合問題	・1年間の学習を活用している。【知識・技能】 ・「何が理解できていないのか」の分析を確実に行い、これまで学習したことがきちんと「身につけられている」状態にすることができる。【思考・判断・表現】	–	–		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合	論理Ⅱ	1	3	2

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	1	0	1	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	水王舎	−	論理Ⅱ
副教材等	−	−	−

学習目標

高大接続の場面において「小論文」をはじめ、一般入試における記述式問題の改善策を含めて、論理的に考え、表現する力の重視が進んでいる。論理は「思考・判断・表現」の根源であることから、これらについて学ぶことで「論理的思考力」を身に付けることを目的とする。
「論理Ⅰ」で身に付けた「論理的思考力」を、教科科目横断型で活用させることで、文章の形態にこだわらずさまざまな場面で「論理的思考力」の確実な定着を目指す。
(1)社会の変化に臨機応変に対応できる「論理的思考力」を理解している。【知識・技能】
(2)意識して「論理的思考力」を活用しようとし、「書く・話す・読む・聞く」に「論理的思考力」を当てはめて表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)社会で長く活躍する人材になるべくさまざまな場面で「論理的思考力」を活用しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第1講　一文の要点と飾り(p6～11)・第2講　文と文との論理的関係(p12～17) 第3講　イコールの関係(p18～25)・第4講　対立関係と因果関係(p26～33)	第5講　文章の論理的読解(p34～43)・第6講　客観的分析力(p44～51) 第7講　作文力の基礎(p52～58)・第8講　要約問題(p59～63) 第9講　科目横断型問題(p64～71)・第10講　思考力問題(p72～78)

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第1講　一文の要点と飾り(p6～11) 第2講　文と文との論理的関係(p12～17) 第3講　イコールの関係(p18～25) 第4講　対立関係と因果関係(p26～33)	【知識・技能】 ①文構造(単文・複文・重文)を正しく理解できる ②文と文の論理的関係を作る語(接続語・指示語)を正しく理解できる 【思考・判断・表現】 ①得た知識を基に正しく情報の論理関係を把握し、理解できる ②対立関係と因果関係の実際例をもとに、適切に情報を把握し、対応できる	1	1 2	○	
②	第5講　文章の論理的読解(p34～43) 第6講　客観的分析力(p44～51) 第7講　作文力の基礎(p52～58)	【知識・技能】 ①論理Ⅰで学習した知識を踏まえ、文章の構造を適切に判断できる ②作文の基本ルールを理解し、それを適切に使用して作文できる 【思考・判断・表現】 ①得た知識を正しく利用した上で、文章を論理的に読解できる ②感覚的な把握ではなく、テクストを客観的に分析し、必要十分な情報を得ることができる	2	3 4		○
③	第8講　要約問題(p59～63) 第9講　科目横断型問題(p64～71) 第10講　思考力問題(p72～78)	【知識・技能】 ①要約の方法(技術)を正しく理解し、適切に使用できる ②これまでの学習を踏まえ、適切なソースの選択、正しい調査を行い、必要な情報をまとめられる 【思考・判断・表現】 ①論理Ⅰ・Ⅱを通じて学んだ思考を正しく利用して、科目横断型の問題に適切な対応ができる ②これまでの学習をもとに、論理的な思考をもって問題にあたり、適切な解を得ることができる	3	5 6		○

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1　実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2　出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合	ピアアシスタントⅠ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	公益財団法人こども教育支援財団	—	ピアアシスタント養成講座≪基礎課程≫
副教材等	–	–	–

学習目標

仲間を支援する知識や技術を習得し、学校生活において相談者として行動ができ、社会に出てからも周囲と調和できるための資質・能力を次の通り育成することを目指す。
(1)コミュニケーション技術や心理学の理論について理解することができる。【知識・技能】
(2)コミュニケーション技術や心理学の理論を適切に応用し、自己や他者の問題解決に役立てることができる。【思考・判断・表現】
(3)グループワークに主体的に参加し、積極的にコミュニケーションをとろうとしている。【主体的に学習に取り組む態度】
以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」及び「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
第Ⅰ章　ピアアシスタントについて知ろう 第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 1. 自分を知る(自己理解):自分を知り、自己紹介しよう	第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 3. 自分の言いたいこと・気持ちを伝える話し方、伝え方を学ぼう 4. 相手の言いたいこと・気持ちを受け取る聴き方を学ぼう 5. 相手を支援する方法を学ぼう

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	第Ⅰ章　ピアアシスタントについて知ろう	・ピアアシスタントの成立や定義・役割、行動理論を理解することができる。【知識・技能】 ・理想のピアアシスタント像を描くことができる。【思考・判断・表現】	1	1・2	○	
②	第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 1. 自分を知る(自己理解):自分を知り、自己紹介しよう	・ジョハリの窓やエゴグラムを用いた自己分析の方法を理解することができる。【知識・技能】 ・自己分析を行い、自己理解を深めることができる。【思考・判断・表現】	2	3・4	○	
③	第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 2. 相手を知る(他者理解):相手を知ろう	・質問の種類や精神分析理論など相手を知る方法を理解することができる。【知識・技能】 ・相手や状況に合わせて質問を使い分けることができ、相手を知ることができる。【思考・判断・表現】	3	5・6		
④	第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 3. 自分の言いたいこと・気持ちを伝える話し方、伝え方を学ぼう	・言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションなど相手への伝え方、アンガーマネジメントを理解することができる。【知識・技能】 ・言語コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを適切に使い分け、他者に自分の伝えたいことを円滑に伝えることができる。【思考・判断・表現】 ・自分の怒りをコントロールすることができる。【思考・判断・表現】	4	7・8		○
⑤	第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 4. 相手の言いたいこと・気持ちを受け取る聴き方を学ぼう 5. 相手を支援する方法を学ぼう	・FELORやリフレーミングなど聴き方の技法、自己理論を理解することができる。【知識・技能】 ・問題を解決する5つのステップやAL 'Sの方式など相手を支援する技法を理解することができる。【知識・技能】 ・FELORを意識した聴き方や、ネガティブなワードをポジティブに変換することができる。【思考・判断・表現】 ・「おせっかい」と「支援」を区分けすることができ、問題解決や対立を解消する「手助け」ができる。【思考・判断・表現】	5	9・10		○
⑥	第Ⅱ章　ピアアシスタントに必要なコミュニケーション技術・カウンセリング技術を学ぼう 6. 秘密を守る 7. 自分を守る	・守秘義務やソーシャルボンド理論、社会的欲求理論、オペラント条件付け、愛着理論を理解することができる。【知識・技能】 ・ストレスの対処方法やアサーティブな断り方を理解することができる。【知識・技能】 ・守るべき秘密と、守ってはいけない秘密を区分けすることができる。【思考・判断・表現】 ・自分に適したストレス対処法や断り方を見つけ、自分を守ることができる。【思考・判断・表現】	6	11・12		

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
2 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
3 各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
1 実施回数
前期に1回、後期に1回実施する。
2 出題範囲
報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合	eスポーツⅠ	2	6	2

面接指導			
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)
	Web(2)	放送視聴(3)	
4	2	0	2

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称 または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	フォレスト出版		コミュニケーションの教科書　相手と心が通じ合う3つの力
副教材等	–	–	–

学習目標

eスポーツを通じて、ゲームの技術を身に付けるだけでなく、チームメンバーによる協議を通して、課題を発見し、主体的、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、世界の経済や異文化を理解するとともに、礼儀や礼節、スポーツマンシップを身に付けることを目指す。
(1)eスポーツのルールや技術、特性や魅力、eスポーツの大会やイベントの企画・運営の仕方、eスポーツを楽しむための合意形成の意義などについて理解するとともに、eスポーツの推進及び発展に向けた多様な関わり方に関する技能を身に付けている。【知識・技能】
(2)eスポーツの推進及び発展に必要な自他や社会の課題を発見し、文化的、社会的、経済的側面など多角的な視点から、課題の解決に向けて思考し判断するとともに、自らの考えを仲間などに筋道を立てて論理的に伝えることができる。【思考・判断・表現】
(3)将来eスポーツを様々な側面から支えることができるよう、eスポーツの大会やイベントの企画・運営の仕方などの基盤となる学習に主体的に取り組んでいる。【主体的に学習に取り組む態度】
　以上を踏まえ、「基礎的・基本的な知識・技能」、「課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等」および「主体的に学習に取り組む態度」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験
part1「関わる力」	part2「聞く力」28～33 part3「伝える力」

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	part1「関わる力」	・人と関わるときの正しい姿勢を取ることができる。【知識・技能】 ・多様な人と関わっていくために必要な気の持ちようで人と接することができる。【思考・判断・表現】	①②	1・2	○	
②	part2「聞く力」22～27	・相手に「話したい」と思わせる話の聞き方について理解している。【知識・技能】 ・相手の心を開くために必要な質問をすることができる。【思考・判断・表現】	③	3・4		
③	part2「聞く力」28～33	・断られた時の気持ちの持ち方について理解している。【知識・技能】 ・「指示待ち人間」との接し方について学び、実際の場面でも実践することができる。【思考・判断・表現】	④	5・6		○
④	part3「伝える力」	・相手が不快な思いにならないお辞儀をすることができる。【知識・技能】 ・声の出し方でも相手への印象が変わることを理解し、普段の生活でも実践することができる。【思考・判断・表現】	⑤⑥	7・8		○ (⑤)

【面接指導(スクーリング)】

指 導 内 容

添削指導等を通して明らかとなった個々の生徒のもつ学習上の課題を十分考慮しながら、自宅学習を行う上で必要な基礎的・基本的な知識について指導したり、個々の生徒のもつ学習上の課題について十分考慮しその後の自宅学習への示唆を与えたりするなど、計画的、体系的に指導する。

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
　1　クラークWebキャンパス「報告課題サポート」内の「講座視聴(チェックテストを含む)」の学習を終えること。
　2　教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
　3　各回の添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
　1　自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
　2　教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。
【定期試験】
　1　実施回数
　　前期に1回、後期に1回実施する。
　2　出題範囲
　　報告課題の内容を中心とする。

評 価 方 法

添削指導、面接指導及び定期試験を基に、「知識・技能」(35%)、「思考・判断・表現」(35%)、「主体的に学習に取り組む態度」(30%)で評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	－

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	－	－	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	医療・看護	・「患者主体の医療」を実現するために重視されている考え方について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・脳死と臓器移植について、日本の現状について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・生活習慣病が増加した背景とその対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「チーム医療」について、実現が求められている背景と、実現のために取り入れられている対策について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・患者のQOL(生活の質)を向上させる方法として考えられる事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「平均寿命と健康寿命の推移(男女別)」(教科書p.81)について、適切にグラフを読み取り、健康寿命を延ばすための対策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「健康格差」とは何か、その現状について自分なりに調べ、社会全体として求められる取り組みについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・科学技術の進展により可能になった医療技術を1つ挙げ、その医療技術を活用することでもたらされる影響と問題点を自分なりに調査してまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、健康長寿社会の実現及び医療技術の進歩に伴う安全面や倫理面に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評 価 方 法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	−

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	−	−	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	科学技術	・化石燃料に代わる代替エネルギーについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・ES細胞とiPS細胞の共通点／異なる点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・人工知能の発達によって起こると考えられる問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・原子力発電の利点と欠点について自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・再生可能エネルギーの現状と課題、普及のための方策について、自分なりに調べて考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・バイオテクノロジーの発達により今後期待されていることについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・ロボットを人間社会のなかで活用している具体的な事例を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「人工知能(AI)が果たす役割・機能として期待すること」(教科書p.73)について、適切にグラフを読み取り、人工知能の導入が人間の仕事にどのような影響を与えるか、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、再生可能エネルギーの導入及び技術の進歩がもたらす倫理的課題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評 価 方 法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	−

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	−	−	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	環境	・SDGs(持続可能な開発目標)とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・プラスチックごみ削減のために、世界と日本それぞれで進められている対策について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・地球温暖化の原因と、地球温暖化が気候や人々の生活にどのような影響をもたらすかについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・パリ協定とは何か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・循環型社会を実現させるための身近な取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・地球規模で取り組む必要のある環境問題について1つテーマを絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・地球温暖化を防ぐための具体的な対策と、その対策を実現させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「主要国の発電電力量に占める再生可能エネルギー比率の比較」(p.17)について、適切にグラフを読み取り、日本で再生可能エネルギー導入を進めるための方法について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、持続可能な環境づくりに貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評価方法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	–

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	–	–	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	教育	・「アクティブ・ラーニング」や「キャリア教育」の導入など、時代の変化に合わせて行われてきた教育の試みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「新学習指導要領の導入」「大学入試改革」「英語教育改革」など、現在進められている教育改革について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・教育現場が抱える課題に対して現在行われている取り組みについて、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・新型コロナウイルス感染拡大でより深刻化している「教育格差」について、現状とその是正に向けて考えられる対策を、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「不読者の推移」(p.39)について、適切にグラフを読み取り、高校生の読書離れを解決するための方策について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・国際学習到達度調査(PISA)の結果をふまえて、日本の生徒の課題を自分なりに調査・分析し、学力向上のために必要な取り組みについてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・いじめ・不登校や教員の長時間労働問題など、教育現場が抱えている課題を1つ挙げ、グラフなどを用いて自分なりに調査・分析し、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の教育現場が抱える諸問題の解決に向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評価方法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	−

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	−	−	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	国際問題・異文化理解	・「文化相対主義」とはどのような考え方か、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・外国人が日本で生活するうえで直面している問題について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・現代の国際社会が抱えている問題について、正しい知識を身に付ける。【知識・技能】 ・異文化理解が求められている背景と、異文化理解を促進させるために必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「産業別外国人労働者数の推移」(p.25)について、適切にグラフを読み取り、外国人労働者の受け入れに必要な対応について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大がグローバル化に与えた影響について、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】 ・国際協力として、様々な立場(政府、非政府組織、市民など)からできることを、自分なりに調べてまとめる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、多文化共生社会の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評価方法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	－

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	－	－	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	情報・メディア	・「IoT」と「ビッグデータ」について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・個人の情報発信が社会に影響を与えた事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・情報社会の進展によりもたらされた利点について、具体的な事例とともに正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「高校生のネット利用の現状ースマートフォン利用開始により減った時間(複数回答)」(教科書p.65)について、適切にグラフを読み取り、高校生のスマートフォンとの付き合い方について自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・情報格差(デジタル・デバイド)について、現状とその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・SNSの特徴、SNSの利用によるメリット／デメリットについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・インターネットの普及がもたらした問題点について、具体的な事例を調べ、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、今後の情報社会の発展へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評 価 方 法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教　科　等	科　目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	－

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	―	―	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書　名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	政治・経済	・国民の「政治離れ」が起きた背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・司法制度改革が行われるようになった背景と、具体的な改革内容について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・自由貿易を進めることの利点と問題点について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・働き方改革によって、どのように労働環境が改善されているか、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「衆議院議員総選挙における年代別投票率(抽出)の推移」(教科書p.55)について、適切にグラフを読み取り、若者の投票率を上げるための方法ついて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・地方選挙で起こっている問題について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・憲法改正について、賛成／反対両方の立場の文献を調査し、それに対する自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大により、日本経済にどのような影響が生じたか、また感染症対策と経済の再生とのバランスをどう取っていったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・非正規雇用労働者が抱える問題点とその解決策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える政治・経済に関する諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学 習 方 法

【添削指導(報告課題)】
1 教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2 添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1 自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2 教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評 価 方 法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	–

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	–	–	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	生活・社会	・「少子化」の要因、社会に与える影響、日本での取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・日本で起きている様々な格差(経済格差、世代間格差、教育格差、情報格差)と、それぞれの格差が生じた原因について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・日本の自然災害と、「減災」のために必要な取り組みについて正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・食料自給率の低下や食品ロス、ゲノム編集食品の実用化など、食をめぐる問題について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「日本の総人口および人口構造の推移と見通し」について、適切にグラフを読み取り、人口減少社会に対応するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・ダイバーシティの注目など、多様性を認め合う社会の実現に必要なことについて、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大により、日本社会の格差がどのように変化したか、またその是正に向けて考えられる対策について、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・社会不安を増大させてきた事例について1つテーマを絞り、自分なりに調査・分析して、考えられる対策をまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・日本人の食のスタイルの変化がもたらした問題点を1つ考え、その対策を自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、現代の日本社会が抱える生活・社会分野の諸問題の解決へ向けて貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評価方法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	–

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	–	–	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	日本語・日本人	・日本語の乱れや変化として取り上げられている事例について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・世界から注目されている日本文化の特徴について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「タテ社会」「恥の文化」「集団主義」など、日本社会の特徴とされている事柄について、正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・「とてもすばらしいという意味で『やばい』と言うことがある」(p.33)について、適切にグラフを読み取り、言葉の変化について肯定的意見と否定的意見の両方をふまえつつ、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・新型コロナウイルス感染拡大が文化活動に与えた影響とその対応について、海外と日本の違いを自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・海外や外国人から日本社会や日本人はどう見られているかを自分なりに調べ、それに対しての自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、未来の日本文化の形成に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評価方法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

教科等	科目	単位数	報告課題回数	定期試験回数
総合的な探究の時間	総合学習Ⅰ	1	1	–

面接指導				
規定回数(1)	メディアによる減免回数		(1)-(2)-(3)	
	Web(2)	放送視聴(3)		
2	–	–	2	

※検定教科書は、発行者の番号・略称、教科書の記号・番号を記載	発行者の番号・略称または出版社名	教科書の記号・番号	書名
教科書	第一学習社		現代を知るplus
副教材等			

学習目標

探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
(1)探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解している。【知識・技能】
(2)実社会や実生活と自己との関わりから問いを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができる。【思考・判断・表現】
(3)探究に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとしている。【主体性・多様性・協働性】
以上を踏まえ、「生きて働く知識・技能」、「未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力等」および「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度(主体性・多様性・協働性)」の伸長を図る。

定期試験範囲

一学期末試験	学年末試験

【添削指導(報告課題)】

	学習範囲	単元目標	報告課題回数	Web授業回数	定期試験範囲 前期	定期試験範囲 後期
①	福祉	・ノーマライゼーションの考え方について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・日本の年金制度の仕組み、問題点について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・介護保険制度がスタートした背景について正しい知識を身に付けている。【知識・技能】 ・共生社会を実現するために、どのような考え方を生かして社会の制度や環境を整備していったらよいか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・社会にとって「ユニバーサルデザイン」が持つ意義について、自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・日本の医療保険制度を維持するためにどのような対策が考えられるか、自分なりに調べてまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・「要介護者等との続柄別主な介護者の構成割合(2019年)」(p.47)について、適切にグラフを読み取り、介護をめぐる問題を解決するために必要なことについて自分の考えをまとめることができる。【思考・判断・表現】 ・探究を通して、自分の個性や特徴を見つめながら、多様な意見を受け入れ尊重しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自分の意思で課題に向き合い、自他のよさを認めながら、協働的に課題を解決しようとしている。【主体性・多様性・協働性】 ・自己の在り方生き方を考え、社会の形成者としての自覚をもって、共生社会の実現に貢献しようとしている。【主体性・多様性・協働性】	1			

学習方法

【添削指導(報告課題)】
1教科書を見ながら報告課題に取り組み、期限内に提出すること。
2添削指導後も、疑問点などがあれば、質問メールや面接指導時を活用してそれらの解消に努めること。
【面接指導(スクーリング)】
1自宅学習に必要な基礎的・基本的な知識や技能を学ぶ機会とすること。
2教員から直接指導を受けたり、他の生徒と議論や協力をしながら学習に取り組むこと。

評価方法

添削指導、面接指導を基に、満足できる成果があったかどうかを適切に判断し、評価する。

【 2023年度 】年間指導計画

特別活動	時間数
特別活動	10時間

活動目標

集団や社会の形成者としての見方・考え方を働かせ、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、次のとおり資質・能力を育成することを目指す。
(1)多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や活動を行う上で必要となることについて理解するとともに、行動の仕方を身に付けている。【よりよい生活を築くための知識・技能】
(2)集団や自己の生活、人間関係の課題を見いだし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意思決定したりすることができる。【集団や社会の形成者としての思考・判断・表現】
(3)自主的、実践的な集団活動を通して身に付けたことを生かして、主体的に集団や社会に参画し、生活及び人間関係をよりよく形成するとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己実現を図ろうとする態度を養おうとしている。【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】
以上を踏まえ、「よりよい生活を築くための知識・技能」「集団や社会の形成者としての思考・判断・表現」及び「主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度」の伸長を図る。

活動内容	指導項目
ホームルーム活動	ホームルームや学校における生活づくりへの参画
	日常の生活や学習への適応と 自己の成長及び健康安全
	一人一人のキャリア形成と自己実現
生徒会活動	生徒会活動
学校行事	儀式的行事
	文化的行事
	健康安全・体育的行事
	旅行・集団宿泊的行事
	勤労生産・奉仕的行事